

令和5年度第1回

新宿区

区政モニターアンケート報告書

- テーマ1 区役所への来庁目的について
- テーマ2 広報新宿について
- テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて
- テーマ4 がんに関する情報や相談先について
- テーマ5 男女共同参画に関する意識について



新宿区総合政策部区政情報課広聴係

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
3 集計・分析結果を読む際の注意点	1
4 回答者の属性	2
II 調査の結果	5
テーマ1 区役所への来庁目的について	5
(1) 区役所や区の施設の窓口への来庁有無	5
(2) 区役所等への来庁目的	6
(3) 電子申請の利用経験	7
(4) 電子申請を利用した行政手続	9
(5) 電子申請の導入を望む行政手続の分野	11
テーマ2 広報新宿について	14
(1) 広報新宿が読みやすくなるための改善点	14
(2) 広報新宿の表紙面をどのようにしたらよいと思うか	16
(3) 広報新宿の表紙面以外はフルカラーと単色どちらが読みやすいと思うか	18
テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて	20
(1) 実際に行っている3R活動	20
(2) 食品ロスを減らすために、行っていること	23
(3) プラスチックごみ削減のために、行っていること	33
(4) ごみ・資源の出し方	40
(5) 資源(古紙)の日又は地域の集団回収に出している雑がみ	46
テーマ4 がんに関する情報や相談先について	47
(1) がんと診断された場合の情報入手先	47
(2) がん患者やその家族等をサポートするために必要な情報	50
(3) がんになった時に在宅で治療を受けながら生活をしていく際の相談先として知っているもの	53
テーマ5 男女共同参画に関する意識について	55
(1) さまざまな分野での男女平等意識について	55
(2) 男女共同参画に関する言葉について	69
(3) 仕事と生活のバランスの満足度	70
(4) 男女とも働きやすい環境づくりについて	71
(5) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について	72
(6) DVだと思う行為について	75

(7) DVについての相談機関の窓口について	78
(8) 男女共同参画を推進するために必要なことについて.....	81
III 資料（調査票）	83

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、今日的な区政課題への迅速な対応の検討や的確な事業執行を進める上での基礎資料とするため、区政モニターの方を対象にアンケート調査を実施し、今後の区政運営の参考とするものである。

2 調査の概要

《第1回》	調査対象	区政モニター 997名
	調査内容	テーマ1 区役所への来庁目的について
		テーマ2 広報新宿について
		テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて
		テーマ4 がんに関する情報や相談先について
		テーマ5 男女共同参画に関する意識について
	調査期間	令和5年7月21日～令和5年8月4日
	調査方法	郵送配布・郵送回収
回答数	902票（回収率 90.5%）	

3 集計・分析結果を読む際の注意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 「MT」は、「Multiple Total」の略で、複数回答の合計数を示している。
- 回答はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。
- 複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがある。
- 複数の選択肢をあわせた項目の構成比（%）は、その選択肢の選択者数を基数で除して算出している。そのため、各選択肢の構成比を足上げた数値と差が生じることがある。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表す。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。

統計の数値を考察するにあたり、本報告書では次の表現を用いる。

(例)	⇒	(表現)
80.1～80.9%	⇒	約8割
81.0～82.9%	⇒	8割強
83.0～84.9%	⇒	8割台半ば近く
85.0～85.9%	⇒	8割台半ば
86.0～87.9%	⇒	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	⇒	9割近く
89.0～89.9%	⇒	9割弱

I 調査の概要

○ライフステージの名称及び内容は、以下のとおりである。

独身期：40歳未満の独身者

家族形成期：子どものいない40歳未満の夫婦、または一番上の子どもが入学前の人

家族成長前期：一番上の子どもが小・中学生の人

家族成長後期：一番上の子どもが高校・大学生の人

家族成熟期：64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
(生計を別にした子どもがいる人を含む)

高齢期：65歳以上の人(生計を別にした子どもがいる人を含む)

その他：40歳から64歳の独身者、子どものいない40歳から64歳の夫婦など

4 回答者の属性

(1) 居住地域

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 四谷	114	12.6	6 戸塚	94	10.4
2 簗笥町	121	13.4	7 落合第一	90	10.0
3 榎町	107	11.9	8 落合第二	76	8.4
4 若松町	92	10.2	9 柏木	62	6.9
5 大久保	107	11.9	10 角筈・区役所	39	4.3
			計	902	100.0%

(2) 性別

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 男性	361	40.0	3 その他	2	0.2
2 女性	511	56.7	無回答	28	3.1
			計	902	100.0%

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 18～19歳	5	0.6	9 55～59歳	88	9.8
2 20～24歳	35	3.9	10 60～64歳	69	7.6
3 25～29歳	28	3.1	11 65～69歳	62	6.9
4 30～34歳	57	6.3	12 70～74歳	62	6.9
5 35～39歳	70	7.8	13 75～79歳	52	5.8
6 40～44歳	101	11.2	14 80歳以上	72	8.0
7 45～49歳	102	11.3	無回答	6	0.7
8 50～54歳	93	10.3	計	902	100.0%

(4) 職業

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 会社員・団体職員	349	38.7	5 学生	22	2.4
2 会社役員・団体役員	50	5.5	6 専業主婦・主夫	99	11.0
3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など	127	14.1	7 無職	132	14.6
4 自営業、自由業	103	11.4	8 その他	9	1.0
			無回答	11	1.2
			計	902	100.0%

(5) 職場や学校の所在地

選択肢	回答数	割合(%)
1 新宿区内	223	34.3
2 新宿区外	424	65.2
無回答	3	0.5
計	650	100.0%

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 子	330	36.6	6 兄弟姉妹	43	4.8
2 妻または夫	535	59.3	7 その他	30	3.3
3 親	96	10.6	8 ひとり暮らし	193	21.4
4 祖父母	8	0.9	無回答	18	2.0
5 孫	11	1.2	回答総計	1,264	140.1%
			計	902	100.0%

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 1人	324	46.9	4 4人	57	8.2
2 2人	170	24.6	5 5人以上	11	1.6
3 3人	123	17.8	不明	6	0.9
			計	691	100.0%

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 一番上の子が小学校入学前	57	17.3	4 一番上の子が学校を卒業	88	26.7
2 一番上の子が小・中学生	113	34.3	無回答	10	3.0
3 一番上の子が高・大学生	61	18.5	計	329	100.0%

I 調査の概要

(9) 新宿区での居住年数

選択肢		回答数	割合 (%)	選択肢		回答数	割合 (%)
1	1年未満	0	0.0	5	10年以上20年未満	181	20.1
2	1年以上3年未満	85	9.4	6	20年以上30年未満	132	14.6
3	3年以上5年未満	75	8.3	7	30年以上	293	32.5
4	5年以上10年未満	125	13.9		無回答	11	1.2
				計		902	100.0%

(10) 住居形態

選択肢		回答数	割合 (%)
一戸建て	1 持ち家の一戸建て	242	26.8
	2 賃貸の一戸建て	23	2.5
	3 社宅・公務員官舎の一戸建て	2	0.2
	4 その他	1	0.1
集合住宅	5 分譲マンション・アパート（自己所有のものを含む）	332	36.8
	6 賃貸マンション・アパート	235	26.1
	7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・公社のマンション・アパート	2	0.2
	8 賃貸の都営・区営住宅	29	3.2
	9 社宅・公務員官舎	16	1.8
	10 その他	5	0.6
無回答		15	1.7
計		902	100.0%

(11) ライフステージ

選択肢		回答数	割合 (%)	選択肢		回答数	割合 (%)
1	独身期	109	12.1	5	家族成熟期	44	4.9
2	家族形成期	90	10.0	6	高齢期	248	27.5
3	家族成長前期	111	12.3	7	その他	230	25.5
4	家族成長後期	60	6.7		無回答	10	1.1
				計		902	100.0%

Ⅱ 調査の結果

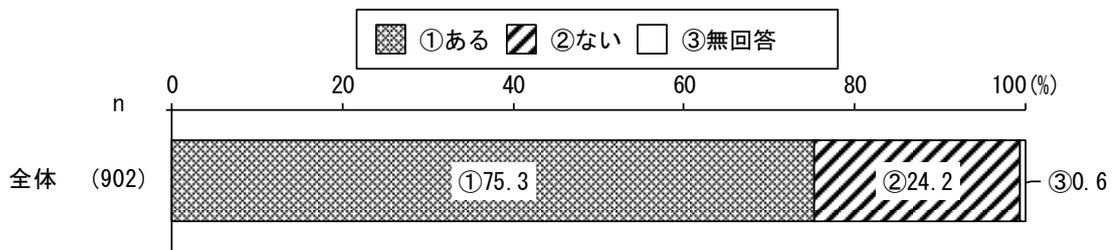
テーマ1 区役所への来庁目的について

(1) 区役所や区の施設の窓口への来庁有無

◎「ある」が7割台半ば

問1 あなたは、過去1年以内に、区役所や区の施設の窓口に出かけたことがありましたか。 (〇は1つ)		(n=902)
1	ある	75.3%
2	ない	24.2
	無回答	0.6

図1-1 区役所や区の施設の窓口への来庁有無



区役所や区の施設の窓口への来庁有無については、「ある」(75.3%)が7割台半ばとなっている。一方、「ない」(24.2%)が2割台半ば近くとなっている。(図1-1)

II 調査の結果（テーマ1 区役所への来庁目的について）

（2）区役所等への来庁目的

◎来庁目的は「証明書等の交付」が6割強

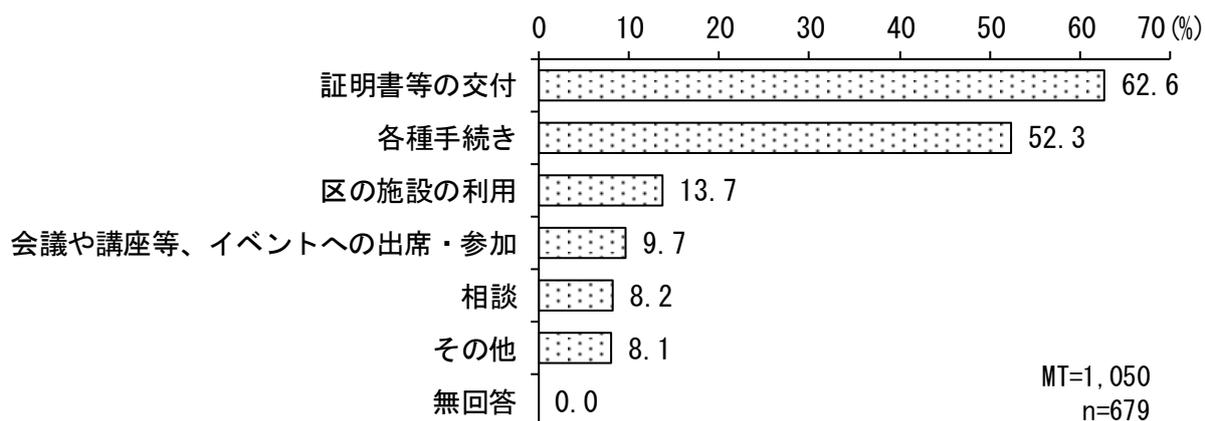
問1-1 問1で、「1 ある」に○をした方にお伺いします。

どのような用件で出かけましたか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	(n=679)
1 証明書等の交付	62.6%
2 各種手続き	52.3
3 相談	8.2
4 区の施設の利用	13.7
5 会議や講座等、イベントへの出席・参加	9.7
6 その他	8.1
無回答	0.0

図1-2 区役所等への来庁目的



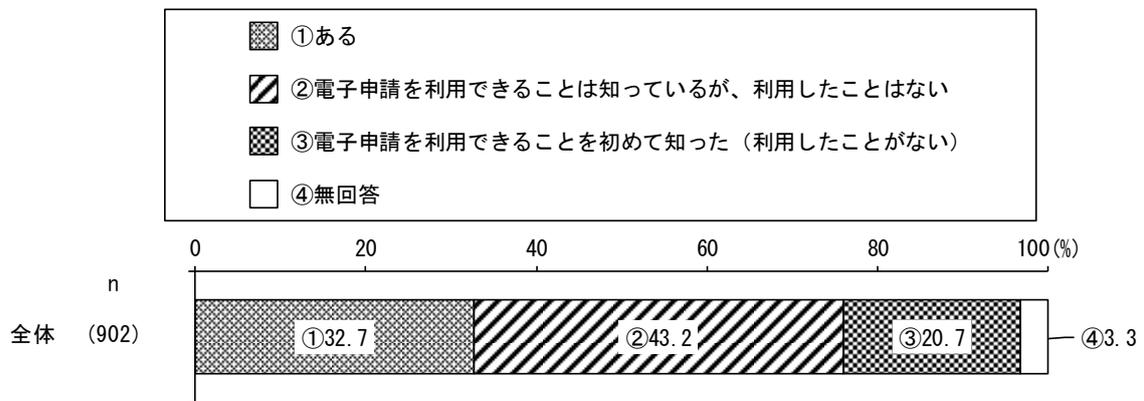
区役所等への来庁目的については、「証明書等の交付」（62.6%）が6割強で最も高く、次いで「各種手続き」（52.3%）が5割強と続いている。（図1-2）

(3) 電子申請の利用経験

◎「電子申請を利用できることは知っているが、利用したことはない」が4割台半ば近く

問2 申請や届出などの行政手続について、電子申請を利用したことはありますか。 (〇は1つ)		(n=902)
1	ある	32.7%
2	電子申請を利用できることは知っているが、利用したことはない	43.2
3	電子申請を利用できることを初めて知った (利用したことがない)	20.7
	無回答	3.3

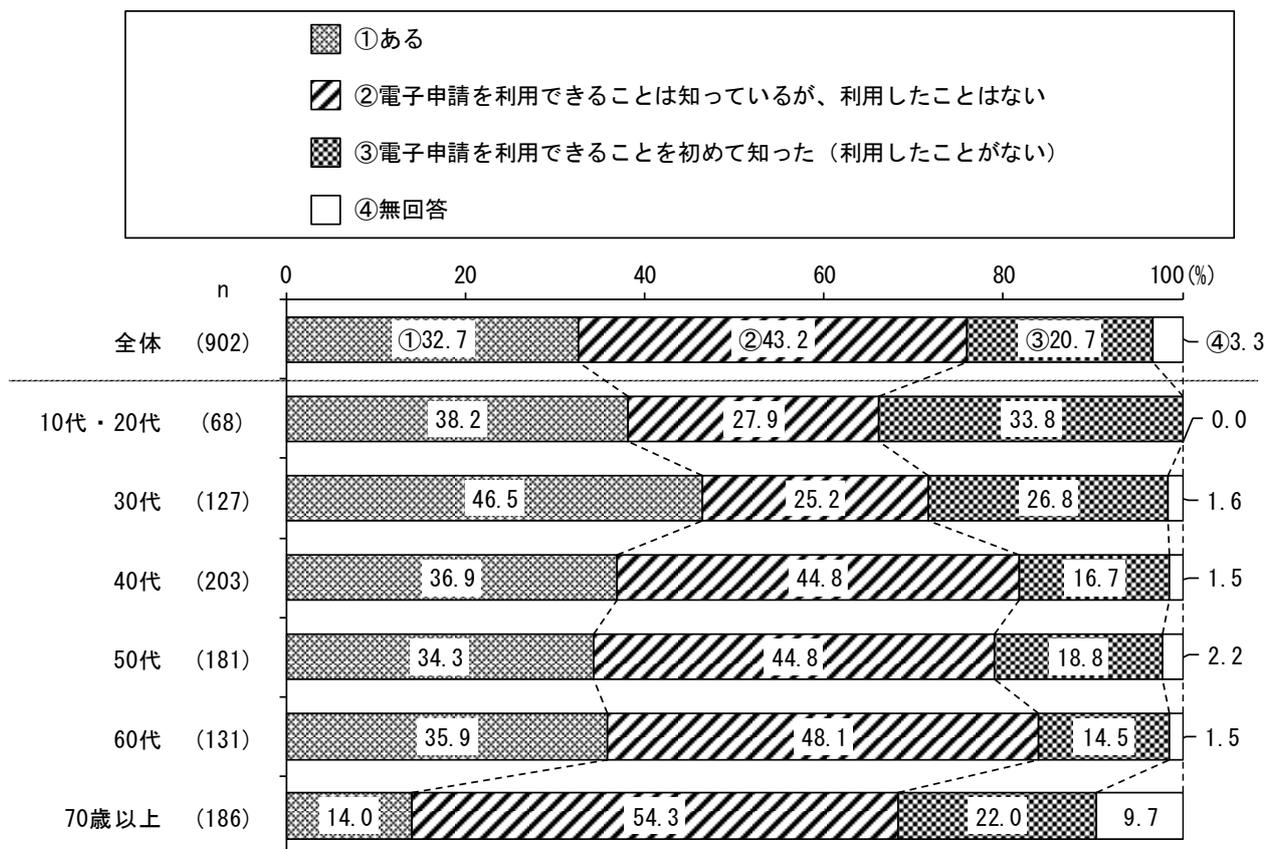
図1-3-1 電子申請の利用経験



電子申請の利用経験については、「ある」(32.7%)が3割強となっている。一方、「電子申請を利用できることは知っているが、利用したことはない」(43.2%)が4割台半ば近く、「電子申請を利用できることを初めて知った (利用したことがない)」(20.7%)が約2割となっている。また、「利用したことがない」(「電子申請を利用できることは知っているが、利用したことはない」+「電子申請を利用できることを初めて知った (利用したことがない)」)(63.9%)が6割台半ば近くとなっている。(図1-3-1)

Ⅱ 調査の結果（テーマ1 区役所への来庁目的について）

図1-3-2 電子申請の利用経験
(年代別)



年代別でみると、「ある」は30代(46.5%)が4割台半ばを超え、全体(32.7%)を13.8ポイント上回っている。

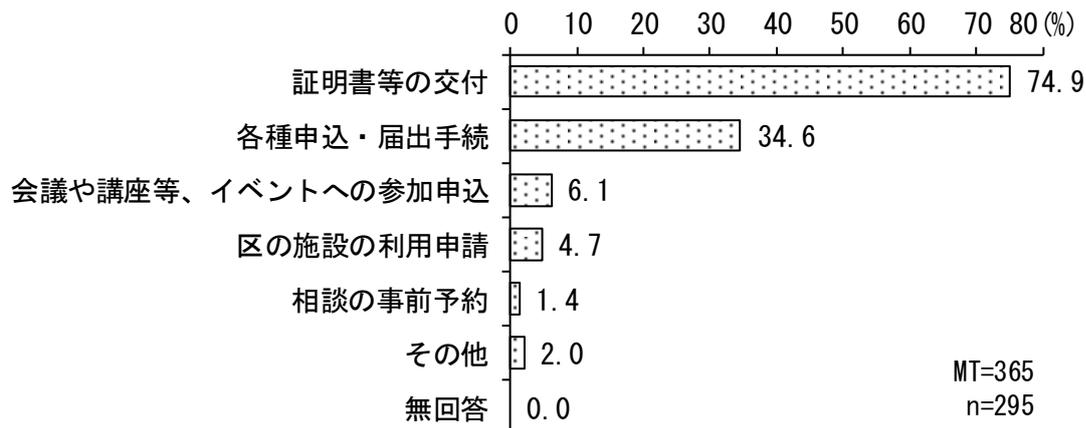
「電子申請を利用できることは知っているが、利用したことはない」は70歳以上(54.3%)で5割台半ば近くと、全体(43.2%)を11.1ポイント上回っている。(図1-3-2)

(4) 電子申請を利用した行政手続

◎電子申請を利用したのは「証明書等の交付」が7割台半ば近く

問2-1 問2で、「1 ある」に○をした方にお伺いします。 どのような行政手続で電子申請を利用しましたか。 (あてはまるものにいくつでも○をつけてください)		(n=295)
1	証明書等の交付	74.9%
2	各種申込・届出手続	34.6
3	相談の事前予約	1.4
4	区の施設の利用申請	4.7
5	会議や講座等、イベントへの参加申込	6.1
6	その他	2.0
	無回答	0.0

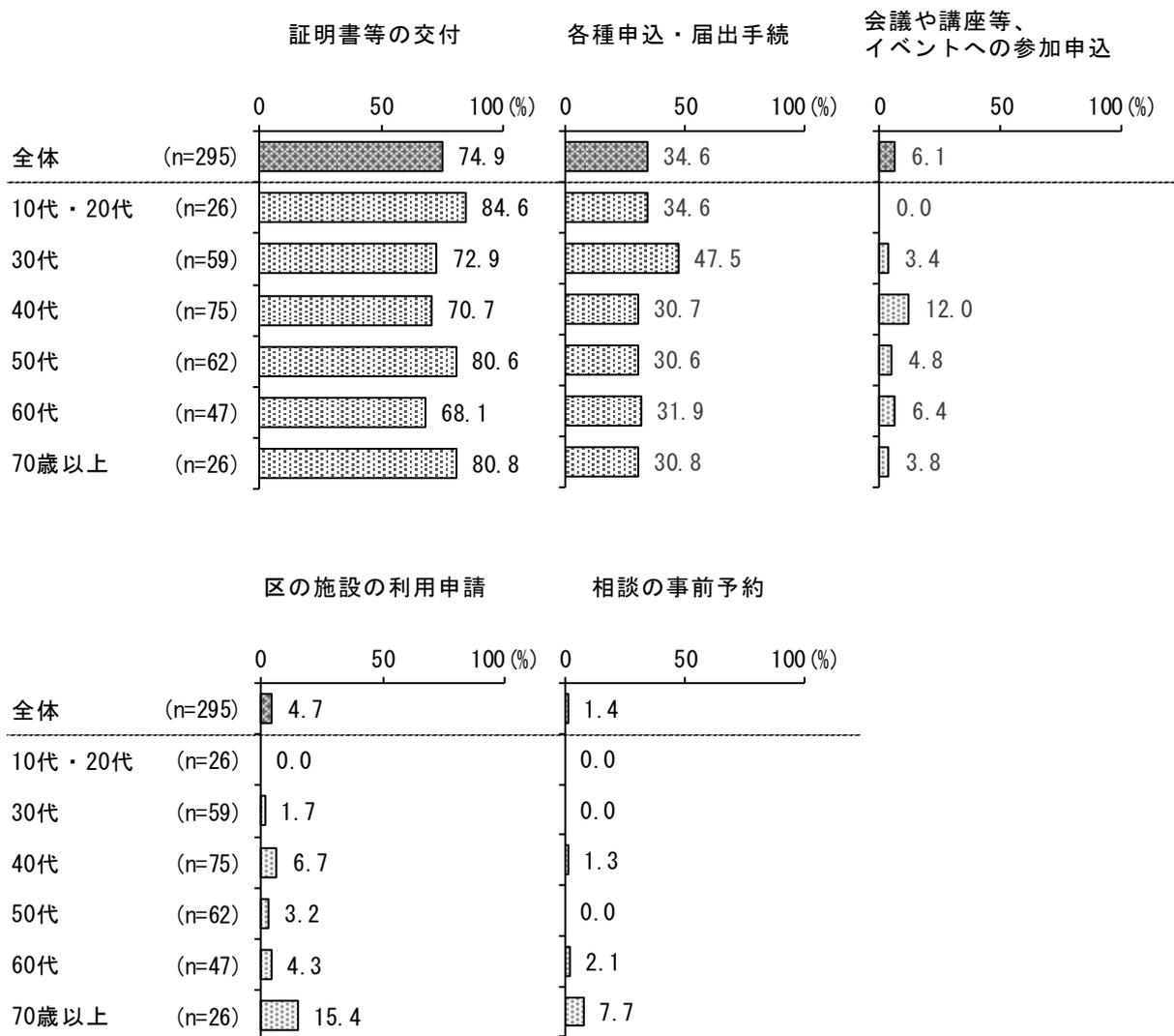
図1-4-1 電子申請を利用した行政手続



電子申請を利用した行政手続は、「証明書等の交付」(74.9%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで「各種申込・届出手続」(34.6%)が3割台半ば近くと続いている。(図1-4-1)

Ⅱ 調査の結果（テーマ1 区役所への来庁目的について）

図1-4-2 電子申請を利用した行政手続
（年代別）上位5項目



年代別で見ると、「証明書等の交付」は10代・20代(84.6%)が8割台半ば近くと、全体(74.9%)を9.7ポイント上回っている。

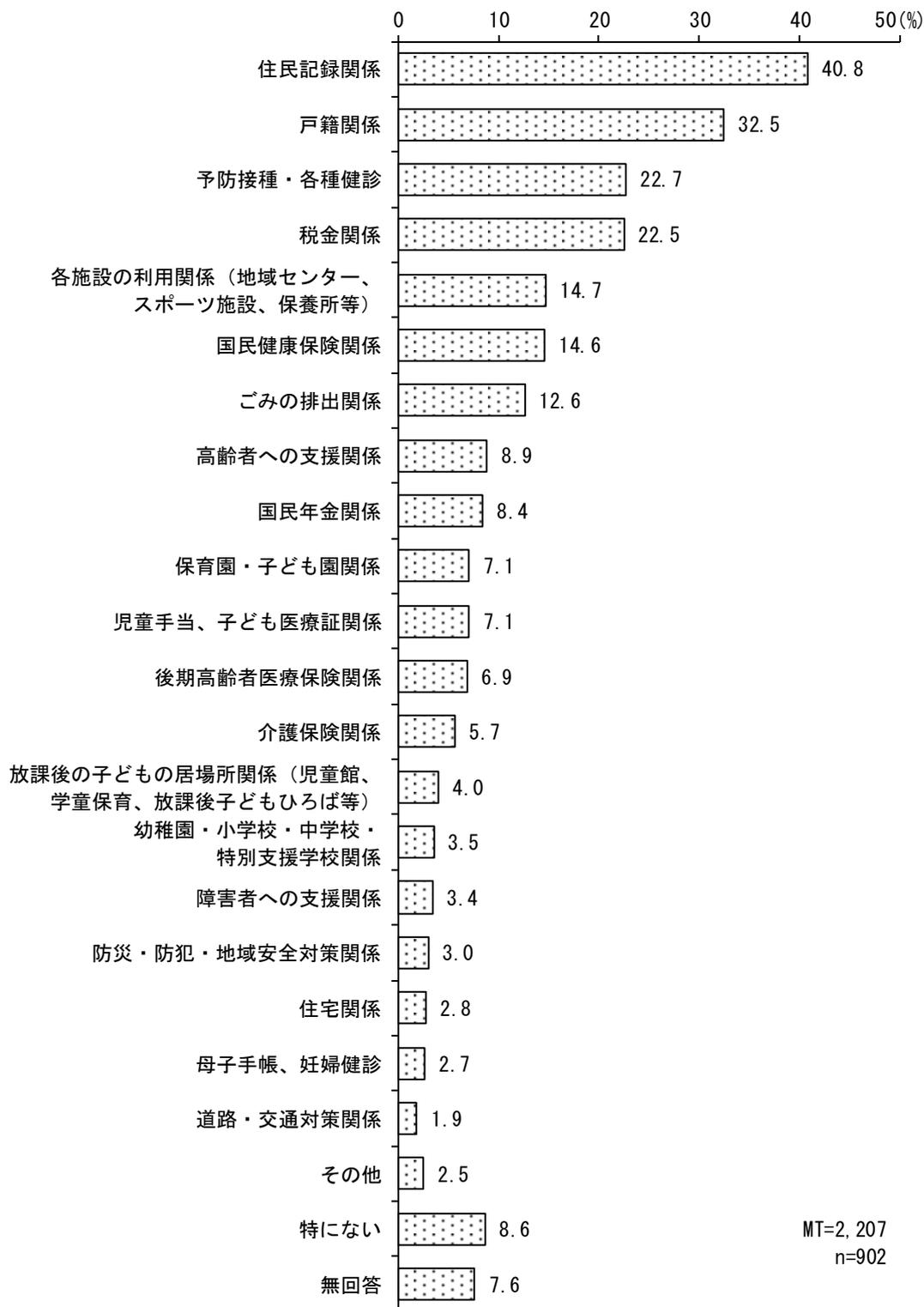
「各種申込・届出手続」は30代(47.5%)が4割台半ばを超え、全体(34.6%)を12.9ポイント上回っている。(図1-4-2)

(5) 電子申請の導入を望む行政手続の分野

◎電子申請の導入を望む行政手続の分野は「住民記録関係」が約4割

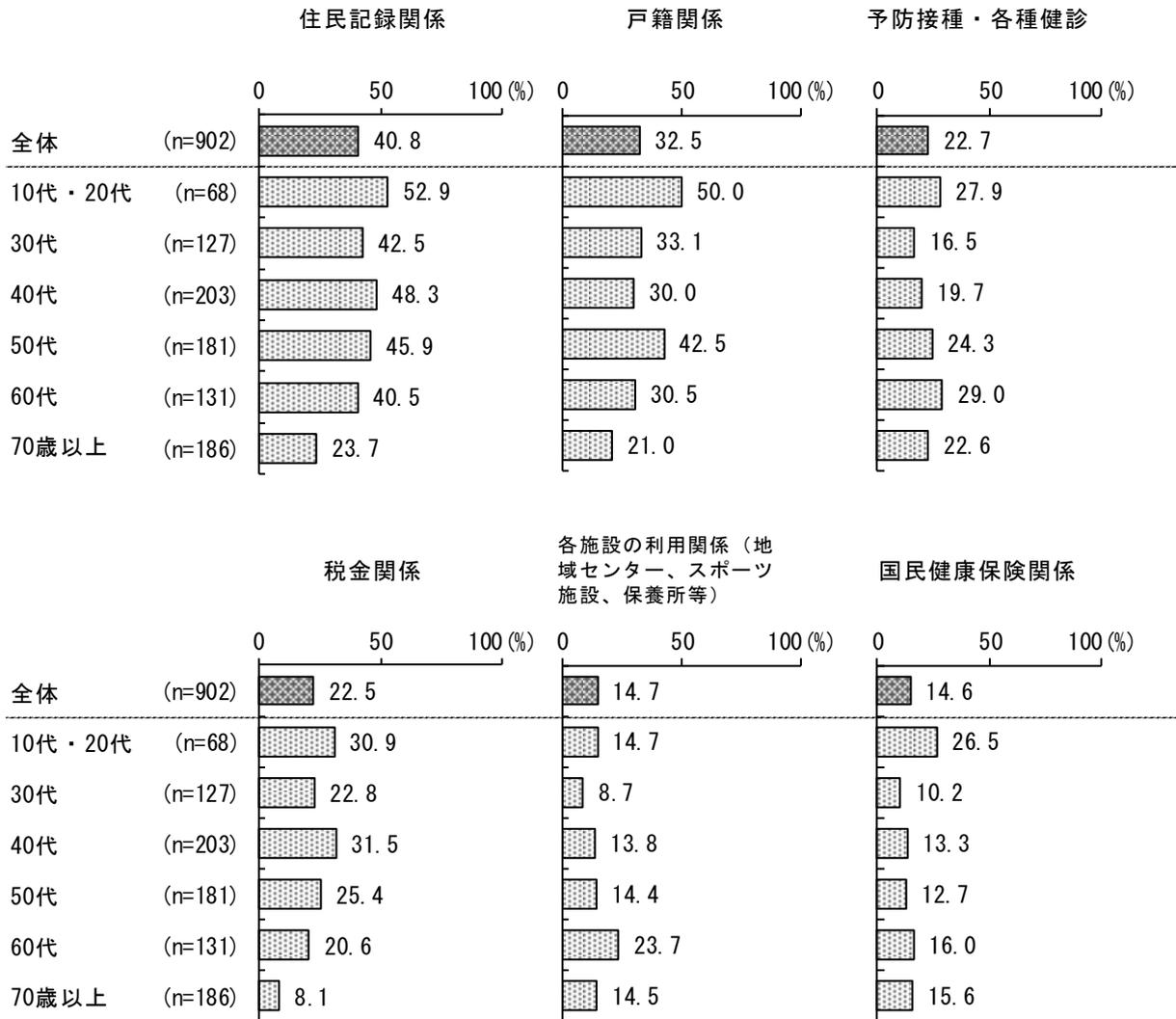
問3 あなたは、どのような分野の行政手続で電子申請の導入を望みますか。 (あてはまるものに3つまで○をつけてください)		(n=902)
1	住民記録関係	40.8%
2	戸籍関係	32.5
3	国民健康保険関係	14.6
4	介護保険関係	5.7
5	後期高齢者医療保険関係	6.9
6	国民年金関係	8.4
7	税金関係	22.5
8	予防接種・各種健診	22.7
9	高齢者への支援関係	8.9
10	障害者への支援関係	3.4
11	母子手帳、妊婦健診	2.7
12	保育園・子ども園関係	7.1
13	児童手当、子ども医療証関係	7.1
14	放課後の子どもの居場所関係 (児童館、学童保育、放課後子どもひろば等)	4.0
15	幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校関係	3.5
16	住宅関係	2.8
17	防災・防犯・地域安全対策関係	3.0
18	道路・交通対策関係	1.9
19	ごみの排出関係	12.6
20	各施設の利用関係 (地域センター、スポーツ施設、保養所等)	14.7
21	その他	2.5
22	特になし	8.6
	無回答	7.6

図1-5-1 電子申請の導入を望む行政手続の分野



電子申請の導入を望む行政手続の分野としては、「住民記録関係」（40.8%）が約4割で最も高く、次いで「戸籍関係」（32.5%）が3割強、「予防接種・各種健診」（22.7%）と「税金関係」（22.5%）が2割強と続いている。（図1-5-1）

図1-5-2 電子申請の導入を望む行政手続の分野
(年代別) 上位6項目



年代別でみると、「住民記録関係」は10代・20代(52.9%)が5割強と全体(40.8%)を12.1ポイント上回っている。

「戸籍関係」は10代・20代(50.0%)が5割と全体(32.5%)を17.5ポイント上回っている。

(図1-5-2)

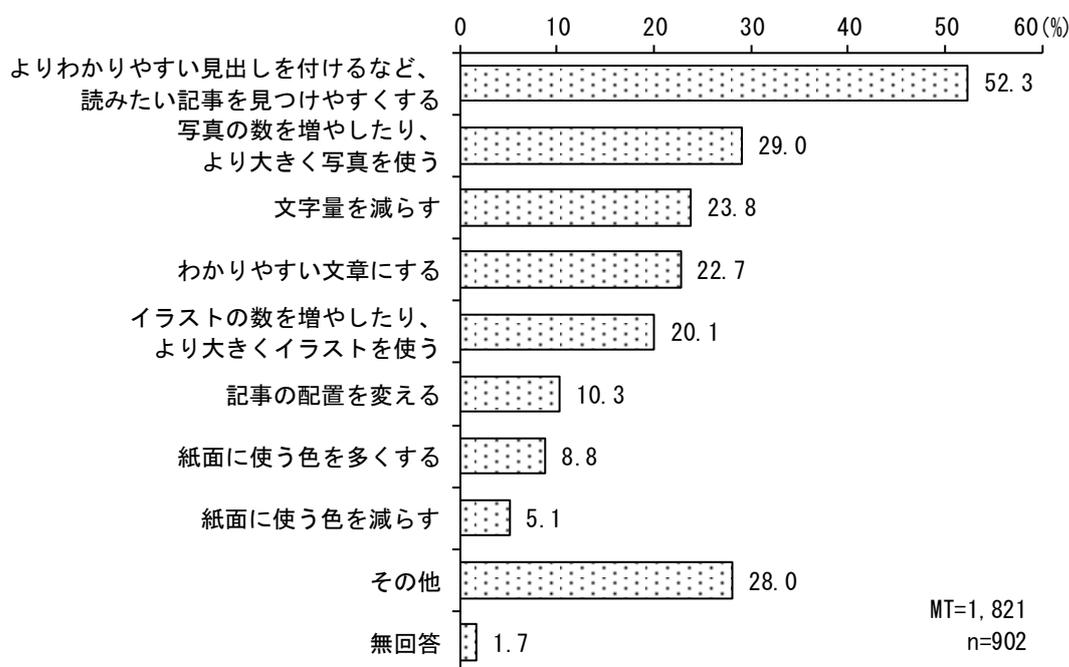
テーマ2 広報新宿について

（1）広報新宿が読みやすくなるための改善点

◎「よりわかりやすい見出しを付けるなど、読みたい記事を見つけやすくする」が5割強

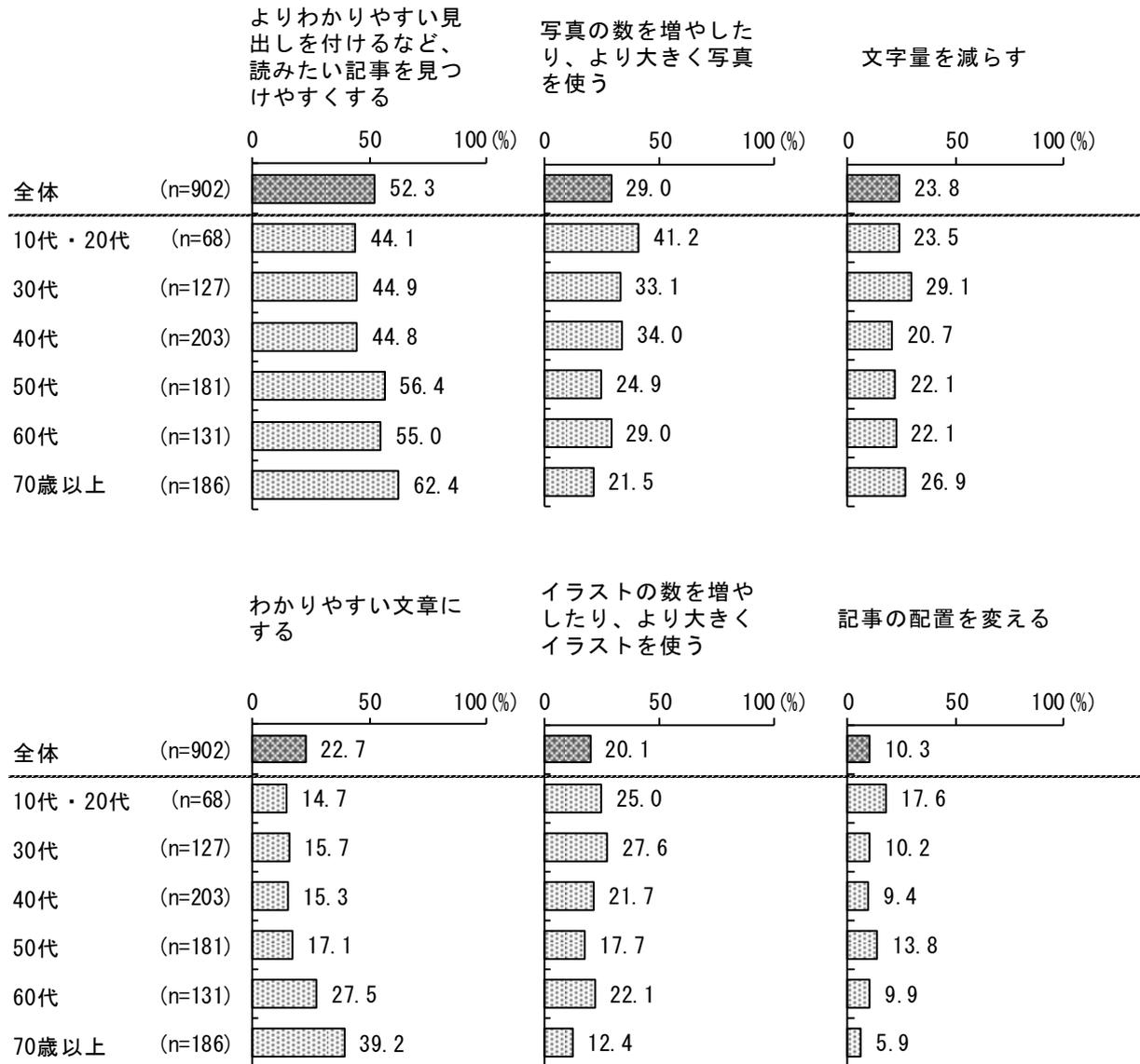
問4 広報新宿は、どのような点を改善したらより読みやすくなると思いますか （現在の広報新宿については同封資料の「広報新宿7月5日号」を参照）。 （あてはまるものにいくつでも○をつけてください）		(n=902)
1	よりわかりやすい見出しを付けるなど、読みたい記事を見つけやすくする	52.3%
2	記事の配置を変える	10.3
3	わかりやすい文章にする	22.7
4	文字量を減らす	23.8
5	写真の数を増やしたり、より大きく写真を使う	29.0
6	イラストの数を増やしたり、より大きくイラストを使う	20.1
7	紙面に使う色を多くする	8.8
8	紙面に使う色を減らす	5.1
9	その他	28.0
	無回答	1.7

図2-1-1 広報新宿が読みやすくなるための改善点



広報新宿が読みやすくなるための改善点については、「よりわかりやすい見出しを付けるなど、読みたい記事を見つけやすくする」(52.3%)が5割強で最も高く、次いで「写真の数を増やしたり、より大きく写真を使う」(29.0%)が3割弱と続いている。(図2-1-1)

図2-1-2 広報新宿が読みやすくなるための改善点
(年代別・上位6項目)



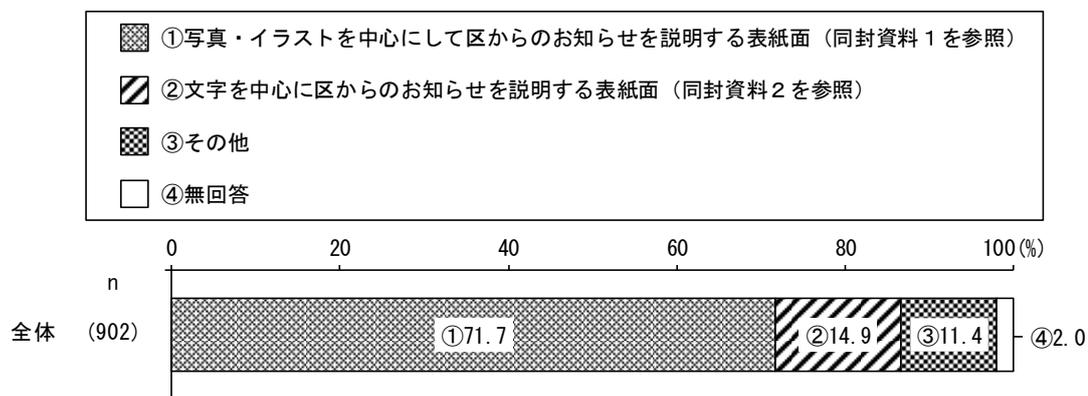
年代別でみると、「よりわかりやすい見出しを付けるなど、読みたい記事を見つけやすくする」は年代が上がるほど高くなる傾向があり、70歳以上(62.4%)が6割強と、全体(52.3%)を10.1ポイント上回っている。また、「写真の数を増やしたり、より大きく写真を使う」は10代・20代(41.2%)が4割強と、全体(29.0%)を12.2ポイント上回っている。(図2-1-2)

（2）広報新宿の表紙面をどのようにしたらよいと思うか

◎「写真・イラストを中心にして区からのお知らせを説明する表紙面」が7割強

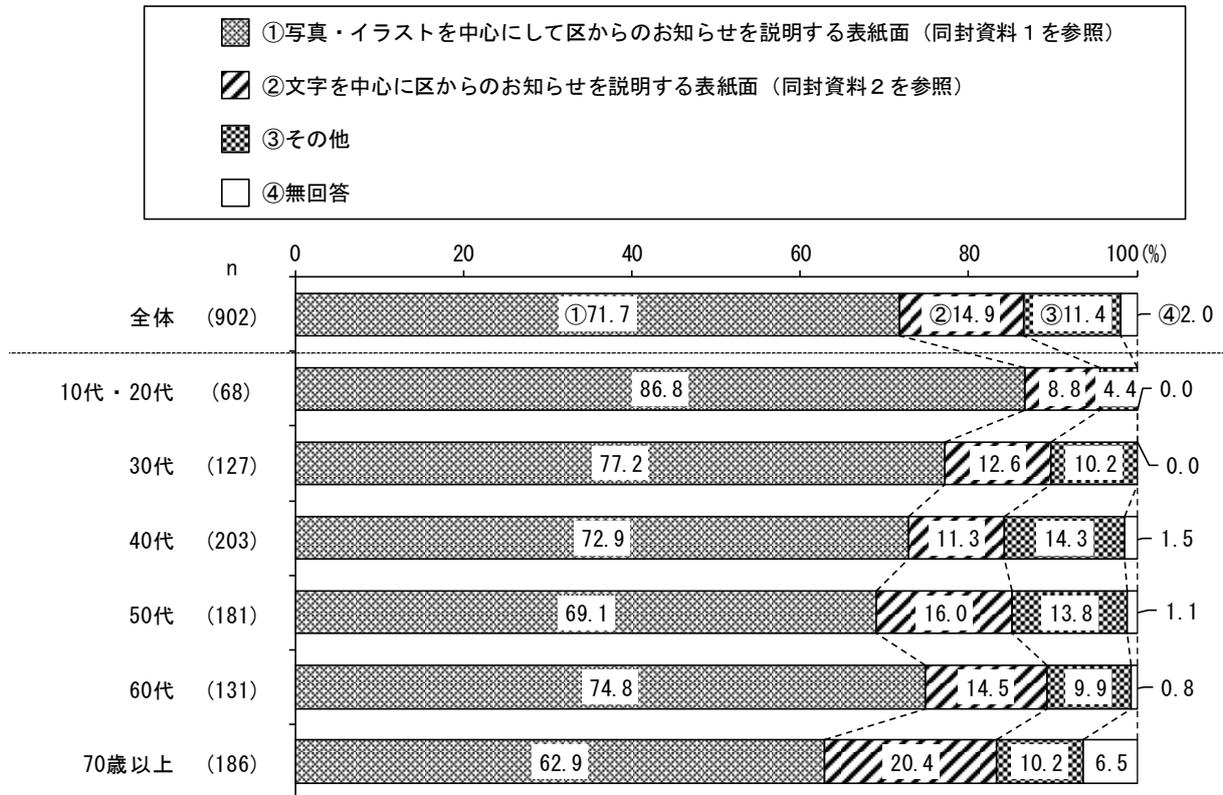
問5 広報新宿の表紙面についてお聞きします。広報新宿がよりたくさんの方の目に留まり、多くの人の手にとってもらうためには、どのような表紙面にしたらよいと思いますか。 (○は1つ)		(n=902)
1	写真・イラストを中心にして区からのお知らせを説明する表紙面 (同封資料1を参照)	71.7%
2	文字を中心に区からのお知らせを説明する表紙面 (同封資料2を参照)	14.9
3	その他	11.4
	無回答	2.0

図2-2-1 広報新宿の表紙面をどのようにしたらよいと思うか



広報新宿の表紙面をどのようにしたらよいと思うかについては、「写真・イラストを中心にして区からのお知らせを説明する表紙面」(71.7%)が7割強となっている。一方、「文字を中心に区からのお知らせを説明する表紙面」(14.9%)が1割台半ば近くとなっている。(図2-2-1)

図2-2-2 広報新宿の表紙面をどのようにしたらよいと思うか
(年代別)



年代別でみると、「写真・イラストを中心にして区からのお知らせを説明する表紙面」は10代・20代（86.8%）が8割台半ばを超え、全体（71.7%）を15.1ポイント上回っている。

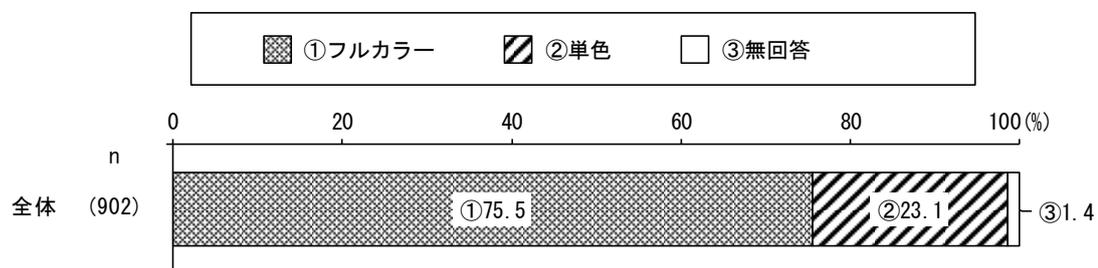
また、「文字を中心に区からのお知らせを説明する表紙面」は、70歳以上（20.4%）が約2割と、全体（14.9%）を5.5ポイント上回っている。（図2-2-2）

（3）広報新宿の表紙面以外はフルカラーと単色どちらが読みやすいと思うか

◎「フルカラー」が7割台半ば

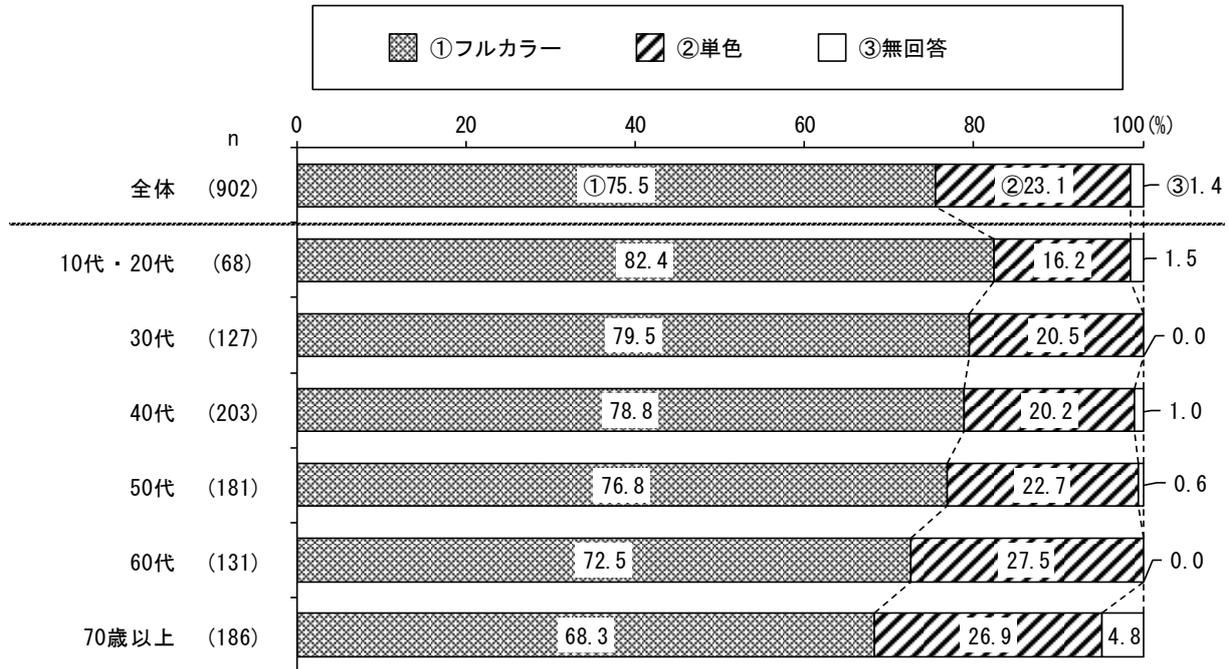
問6 広報新宿の表紙面以外の紙面（中面・2～7ページ）についてお聞きします。 フルカラーと単色どちらが読みやすいと思いますか。（〇は1つ）		(n=902)
1	フルカラー	75.5%
2	単色	23.1
	無回答	1.4

図2-3-1 広報新宿の表紙面以外はフルカラーと単色どちらが読みやすいと思うか



広報新宿の表紙面以外はフルカラーと単色どちらが読みやすいと思うかについては、「フルカラー」（75.5%）が7割台半ばとなっている。一方、「単色」（23.1%）が2割台半ば近くとなっている。（図2-3-1）

図2-3-2 広報新宿の表紙面以外はフルカラーと単色どちらが読みやすいと思うか
(年代別)



年代別でみると、「フルカラー」は年代が下がるほど高くなる傾向があり、10代・20代(82.4%)が8割強と最も高く、全体(75.5%)を6.9ポイント上回っている。(図2-3-2)

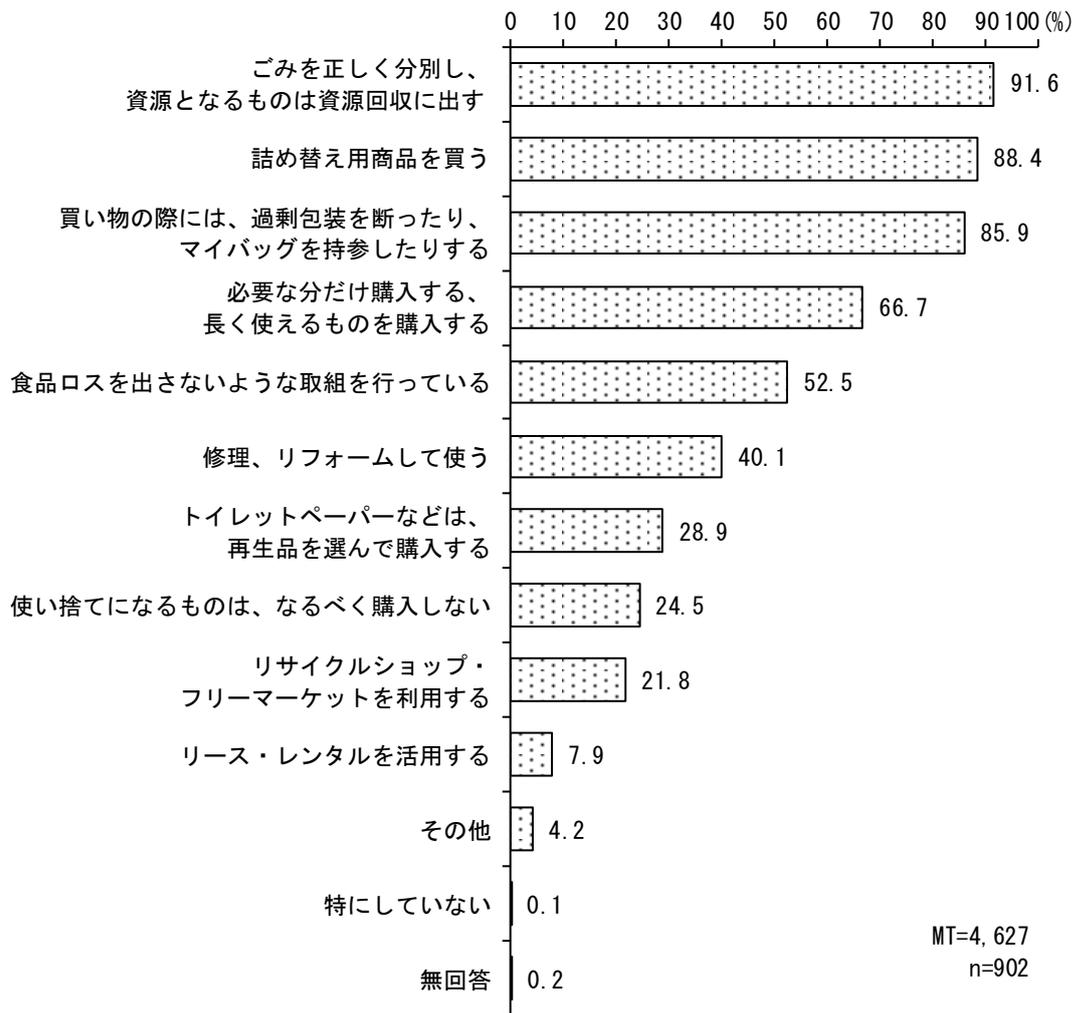
テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて

（1）実際に行っている3R活動

◎「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」が9割強

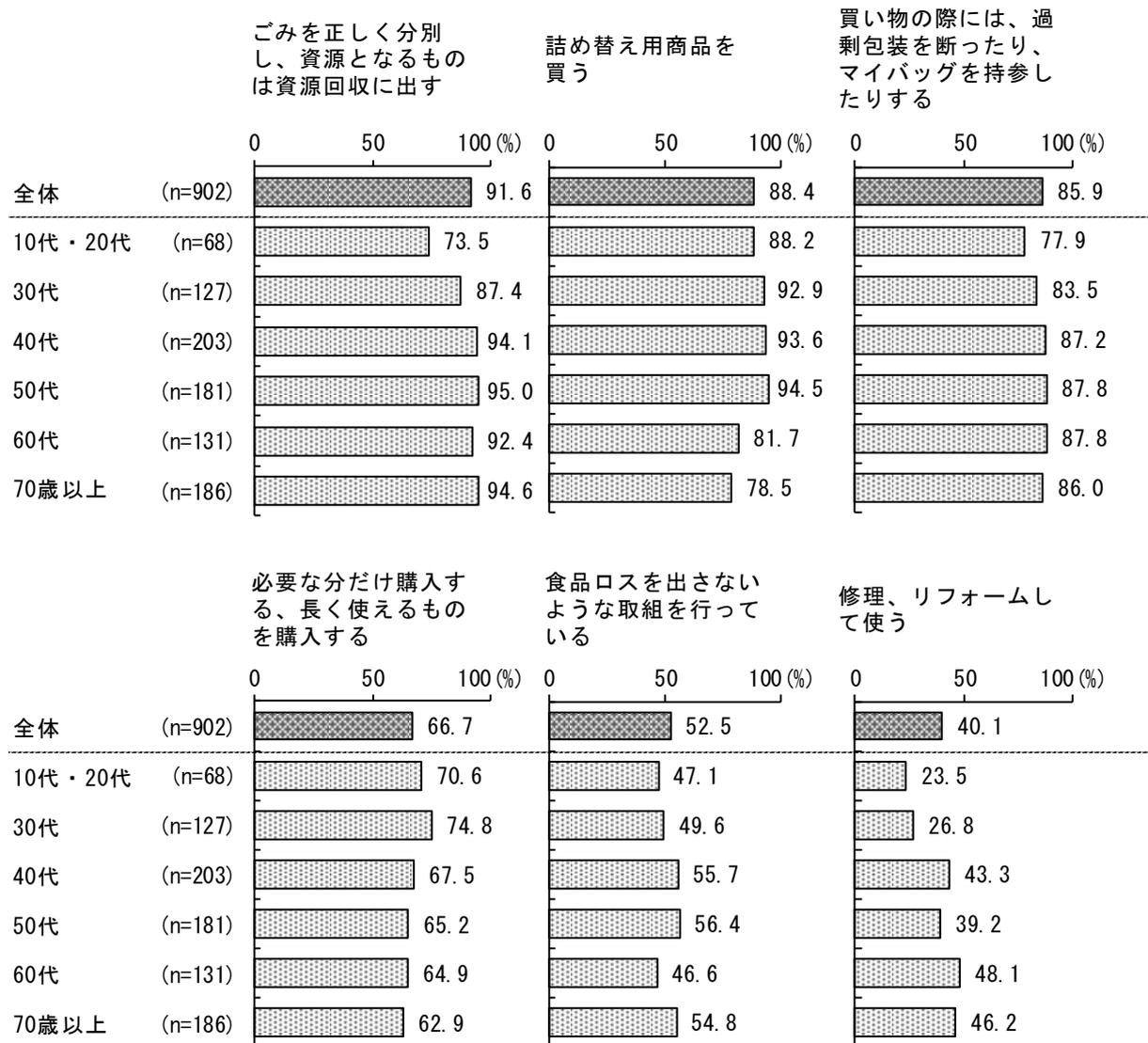
問7 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。 （あてはまるものいくつかでも○をつけてください）		(n=902)
【リデュース】		
1	必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する	66.7%
2	買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする	85.9
3	食品ロスを出さないような取組を行っている	52.5
4	使い捨てになるものは、なるべく購入しない	24.5
【リユース】		
5	詰め替え用商品を買う	88.4
6	リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する	21.8
7	リース・レンタルを活用する	7.9
8	修理、リフォームして使う	40.1
【リサイクル】		
9	ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す	91.6
10	トイレットペーパーなどは、再生品を選んで購入する	28.9
11	その他	4.2
12	特にしていない	0.1
	無回答	0.2

図3-1-1 実際に行っている3R活動



実際に行っている3R活動について、「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」(91.6%)が9割強で最も高く、次いで「詰め替え用商品を買う」(88.4%)が9割近く、「買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする」(85.9%)が8割台半ばと続いている。(図3-1-1)

図3-1-2 実際に行っている3R活動
（年代別）上位6項目



上位6項目について、年代別でみると、「必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する」は30代（74.8%）が7割台半ば近くと、全体（66.7%）を8.1ポイント上回っている。

（図3-1-2）

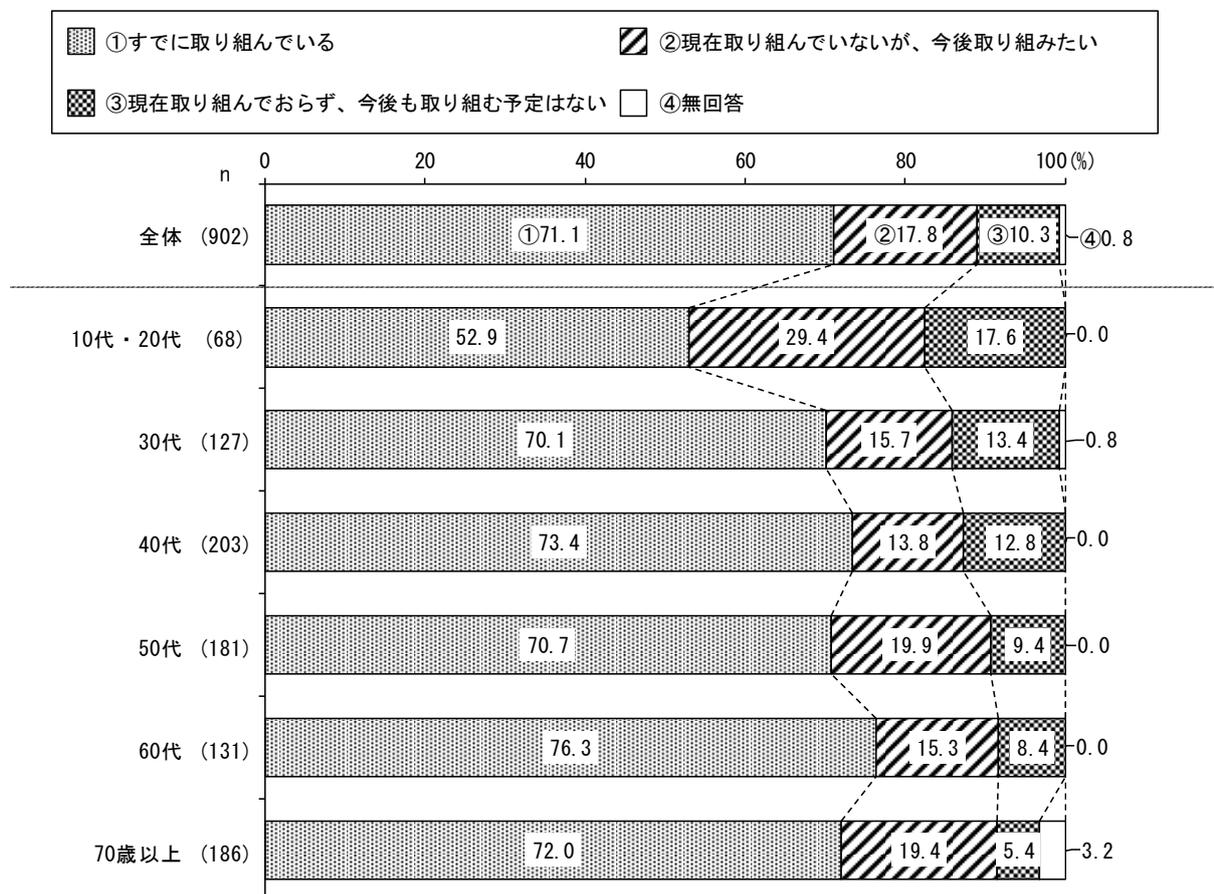
(2) 食品ロスを減らすために、行っていること

◎「すでに取り組んでいる」方が多いのは『家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする』が8割台半ば超え

問8 「食品ロス削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。 (ア～ケそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)				
(n=902)				
	すでに取り組んでいる	今後取り組みたい 現在取り組んでいないが、	後も取り組む予定はない 現在取り組んでおらず、今	無回答
ア 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する	71.1%	17.8%	10.3%	0.8%
イ 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する	56.1	22.7	19.6	1.6
ウ 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する	49.6	27.8	21.6	1.0
エ 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする	87.4	9.0	2.7	1.0
オ 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす	51.3	32.0	15.5	1.1
カ 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する	75.5	18.0	5.3	1.2
キ 外食時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ	82.3	11.8	4.3	1.7
ク フードドライブとして食品を提供する	5.7	45.1	47.3	1.9
ケ フードシェアリングサービスを活用する	2.2	39.8	55.9	2.1

図3-2-1 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

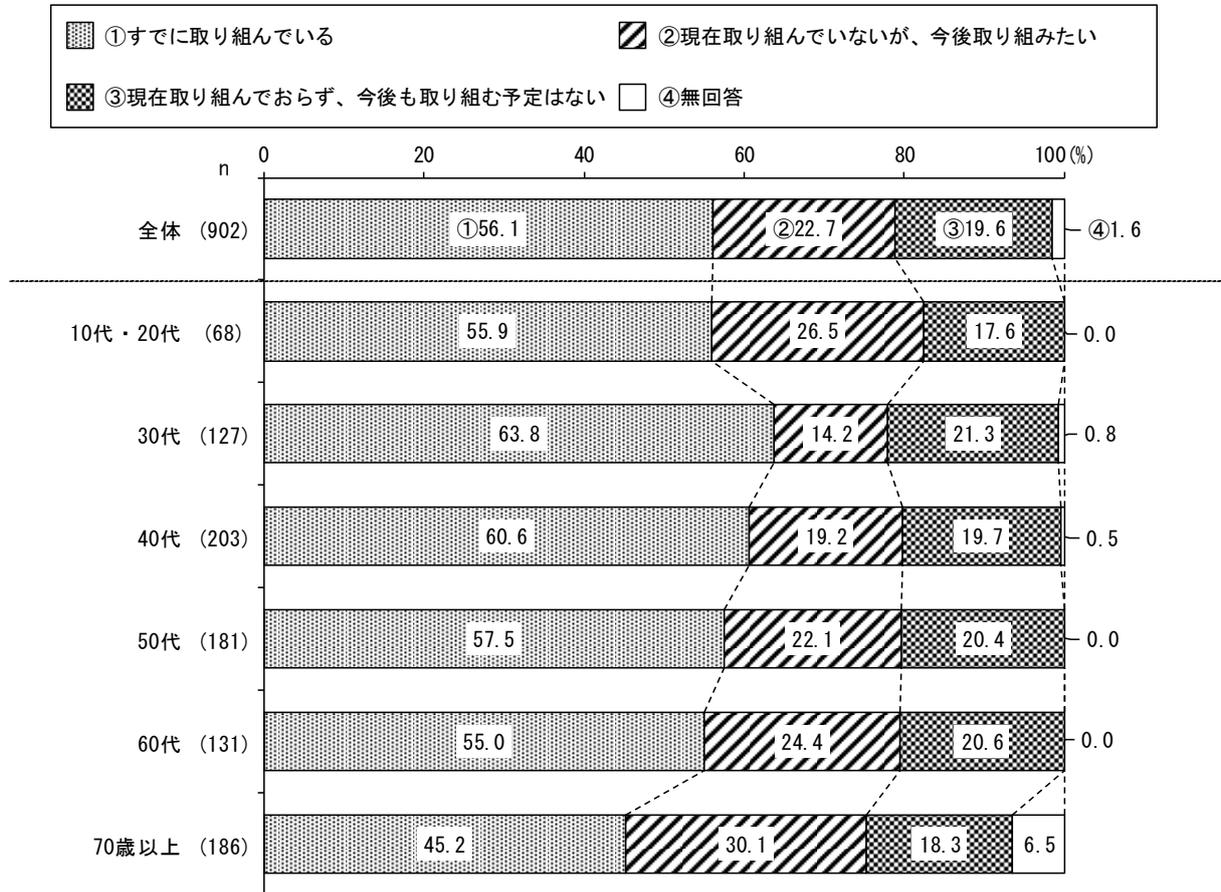
『ア 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する』



『買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（29.4%）が3割弱と、全体（17.8%）を11.6ポイント上回っている。（図3-2-1）

図3-2-2 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

『イ 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する』

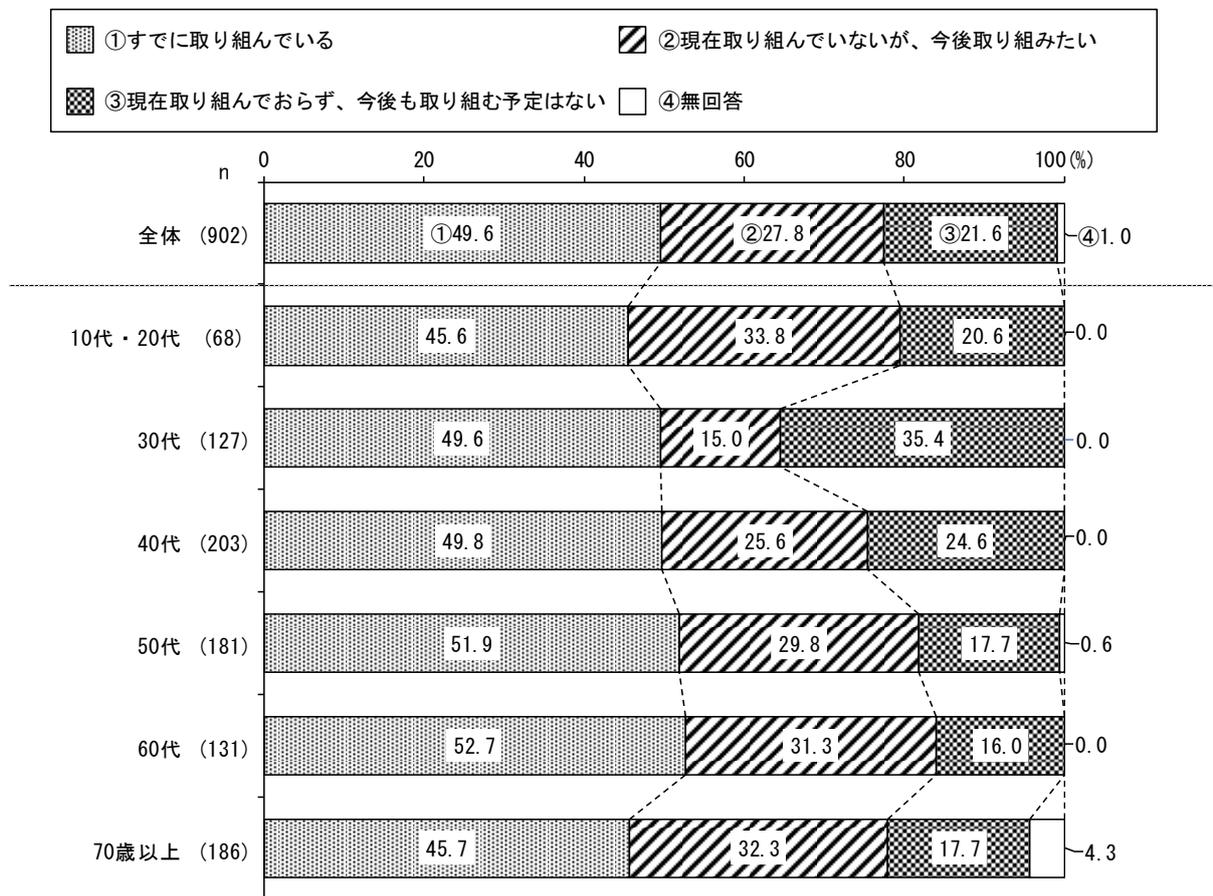


『売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する』について、年代別でみると、「すでに取り組んでいる」は30代(63.8%)が6割台半ば近くと、全体(56.1%)を7.7ポイント上回っている。(図3-2-2)

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて）

図3-2-3 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

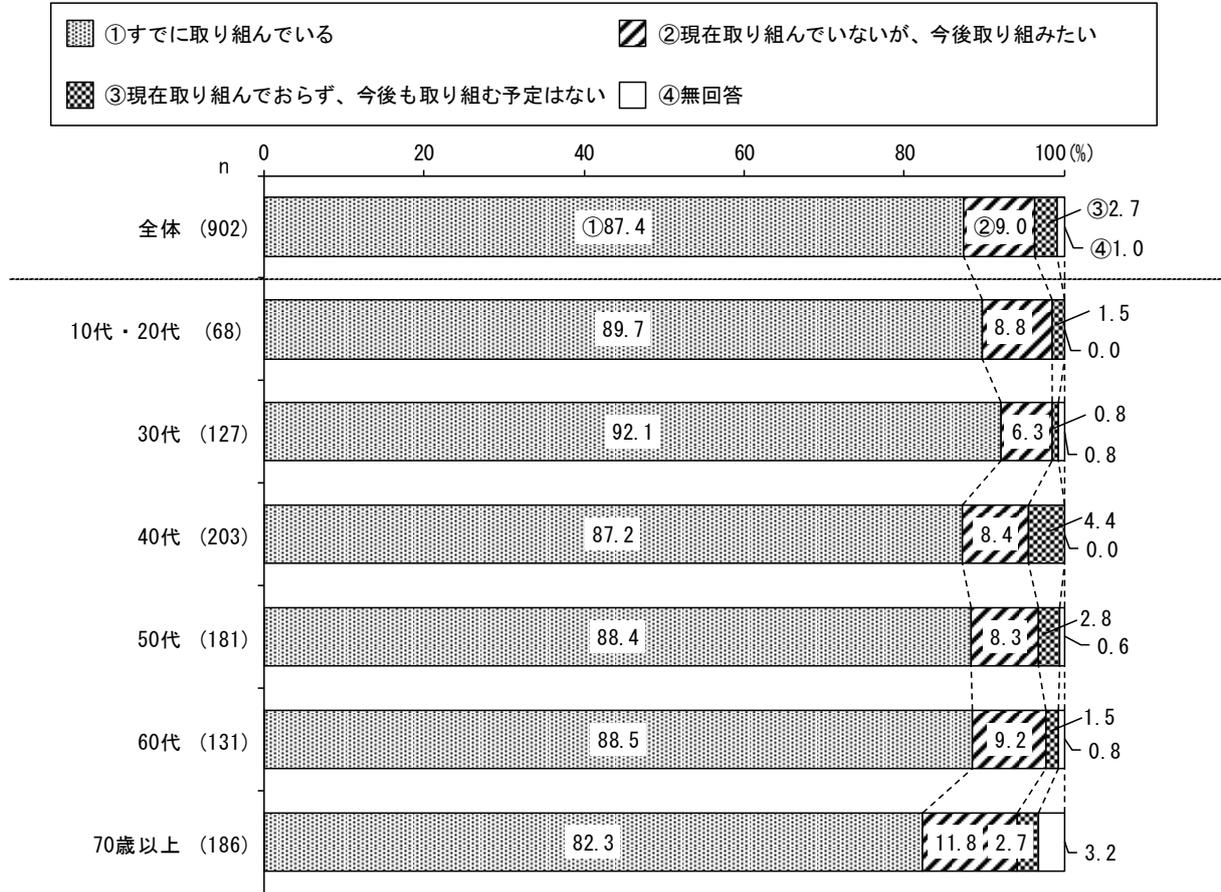
『ウ 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する』



『食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は30代（35.4%）が3割台半ばと、全体（21.6%）を13.8ポイント上回っている。（図3-2-3）

図3-2-4 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

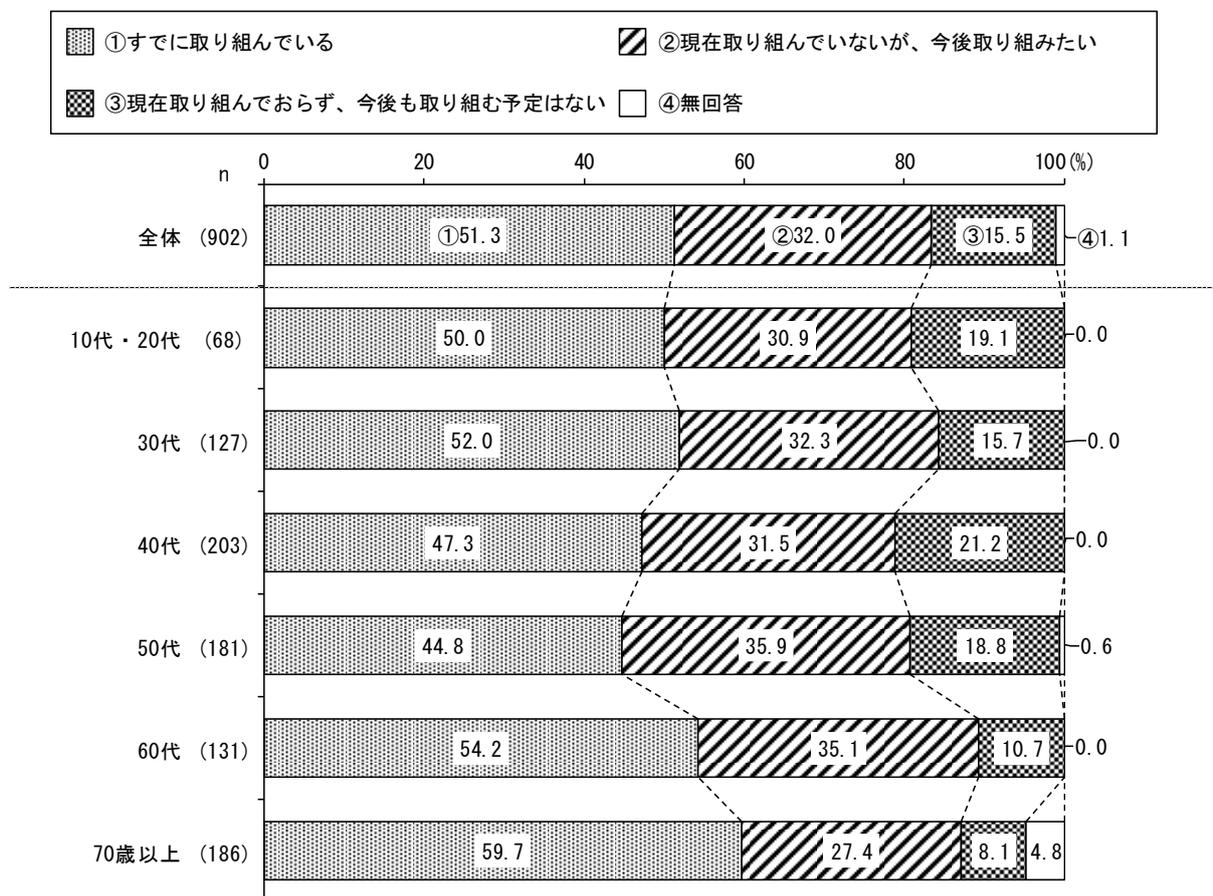
『エ 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする』



『家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする』について、年代別でみると、「すでに取り組んでいる」は30代(92.1%)が9割強と、全体(87.4%)を4.7ポイント上回っている。(図3-2-4)

図3-2-5 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

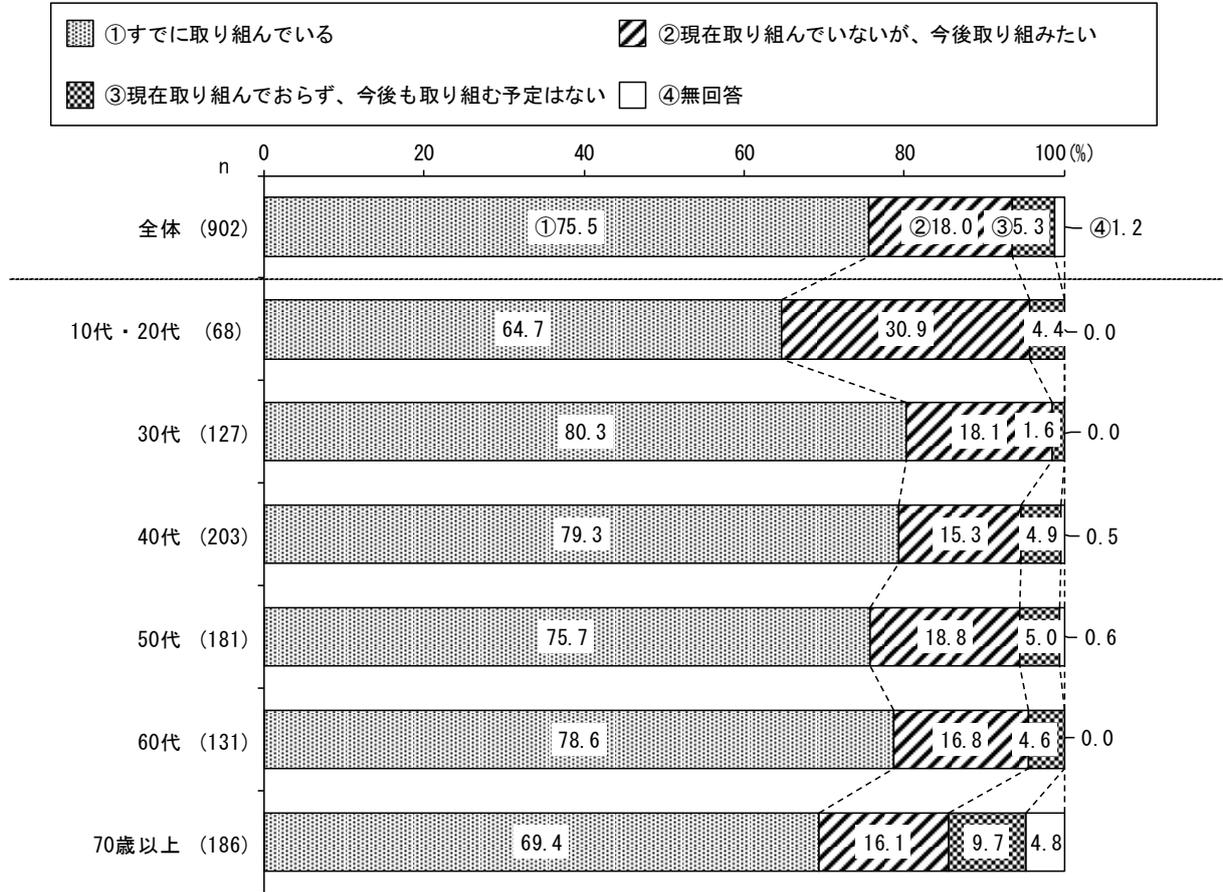
『オ 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす』



『野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす』について、年代別で見ると、「すでに取り組んでいる」は70歳以上（59.7%）が6割弱と、全体（51.3%）を8.4ポイント上回っている。（図3-2-5）

図3-2-6 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

『カ 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する』

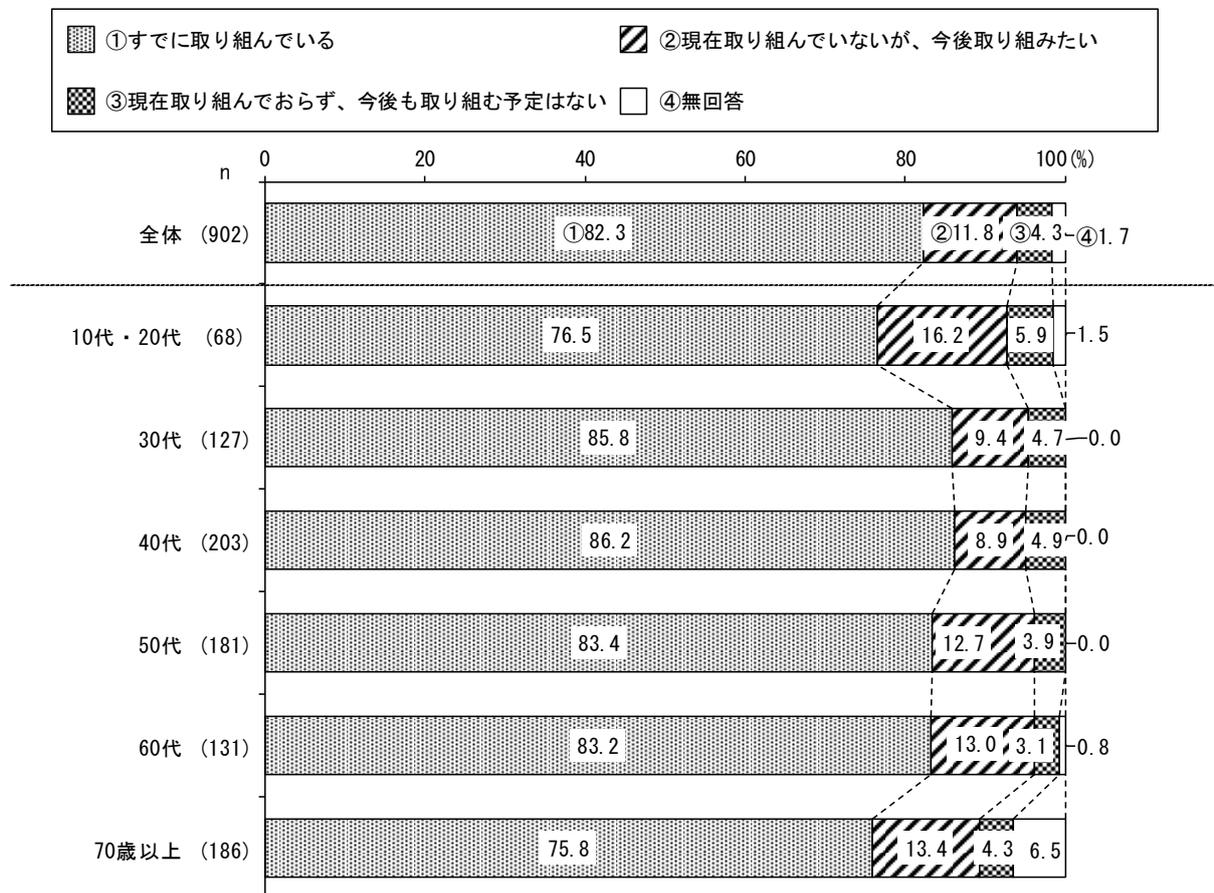


『食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代(30.9%)が約3割と、全体(18.0%)を12.9ポイント上回っている。(図3-2-6)

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて）

図3-2-7 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

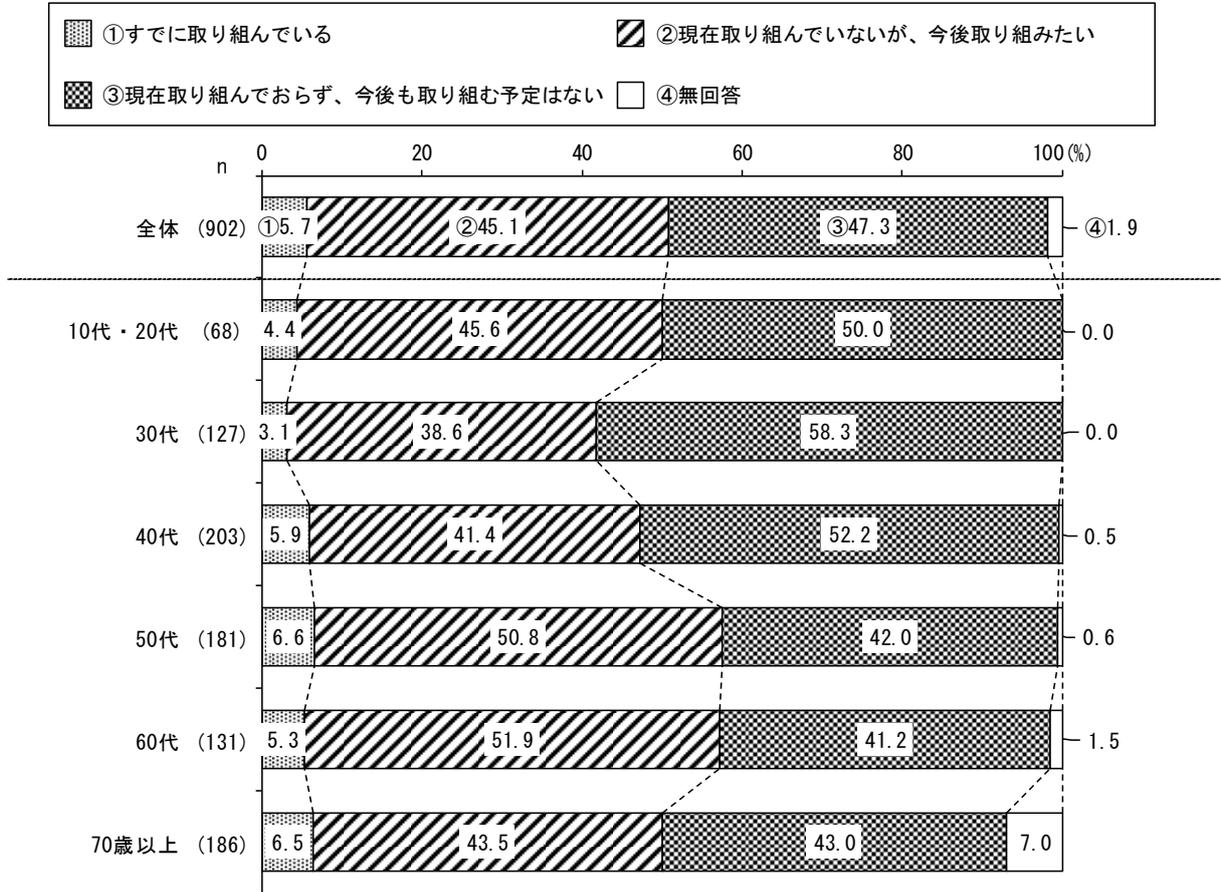
『キ 外食時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ』



『外食時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（16.2%）が1割台半ばを超え、全体（11.8%）を4.4ポイント上回っている。（図3-2-7）

図3-2-8 食品ロスを減らすために、行っていること
(年代別)

『ク フードドライブとして食品を提供する』

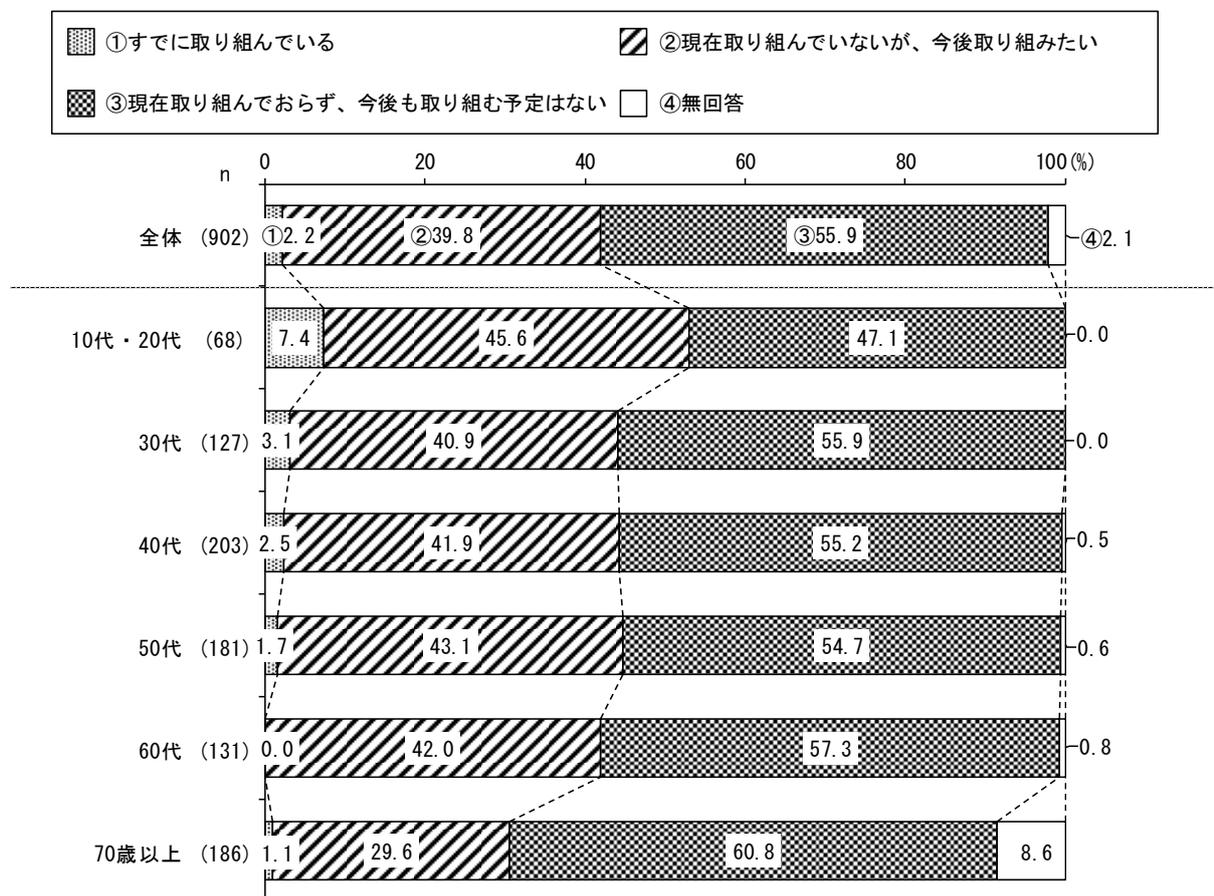


『フードドライブとして食品を提供する』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は30代（58.3%）が6割近くと、全体（47.3%）を11.0ポイント上回っている。（図3-2-8）

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて）

図3-2-9 食品ロスを減らすために、行っていること
（年代別）

『ケ フードシェアリングサービスを活用する』



『フードシェアリングサービスを活用する』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代（45.6%）が4割台半ばと、全体（39.8%）を5.8ポイント上回っている。（図3-2-9）

(3) プラスチックごみ削減のために、行っていること

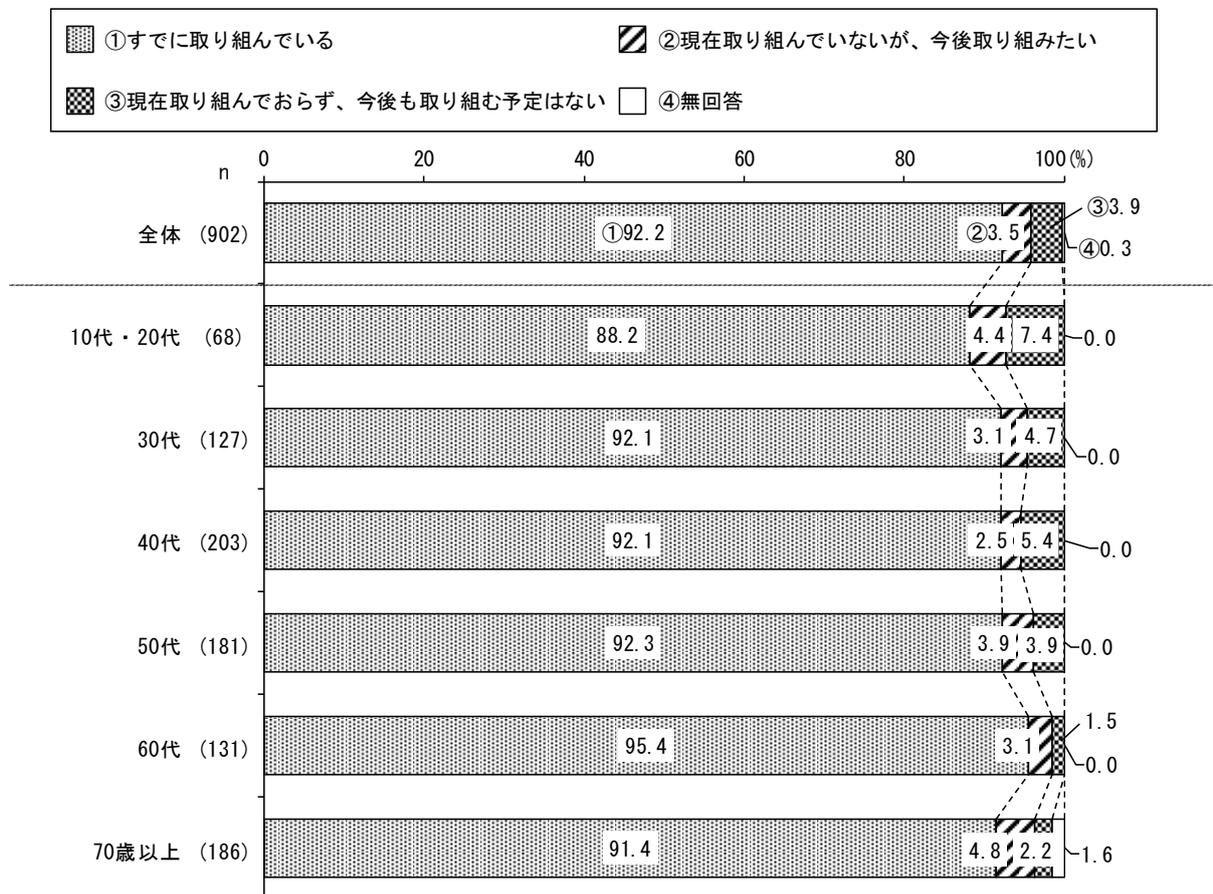
◎「すでに取り組んでいる」方が多いのは『マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない』が9割強

問9 「プラスチック使用削減やプラスチックごみ削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。 (ア～カそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)					
(n=902)					
	すでに取り組んでいる	今後取り組みたい	現在取り組んでいないが、 後にも取り組む予定はない	現在取り組んでおらず、 今	無回答
ア マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない	92.2%	3.5%	3.9%	0.3%	
イ マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器(ペットボトル等)をできる限り使用しない	50.1	29.8	19.2	0.9	
ウ プラスチック製の食器(スプーン・フォーク等)、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない	58.5	26.7	14.0	0.8	
エ 区の資源回収を利用し、容器包装プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する	87.3	8.5	3.7	0.6	
オ スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、白色トレイ・ペットボトル等を資源として排出する	35.3	35.8	27.7	1.2	
カ リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック(バイオマスプラスチック)などを使った製品を積極的に選ぶ	22.5	59.4	17.2	0.9	

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて）

図3-3-1 プラスチックごみ削減のために、行っていること
(年代別)

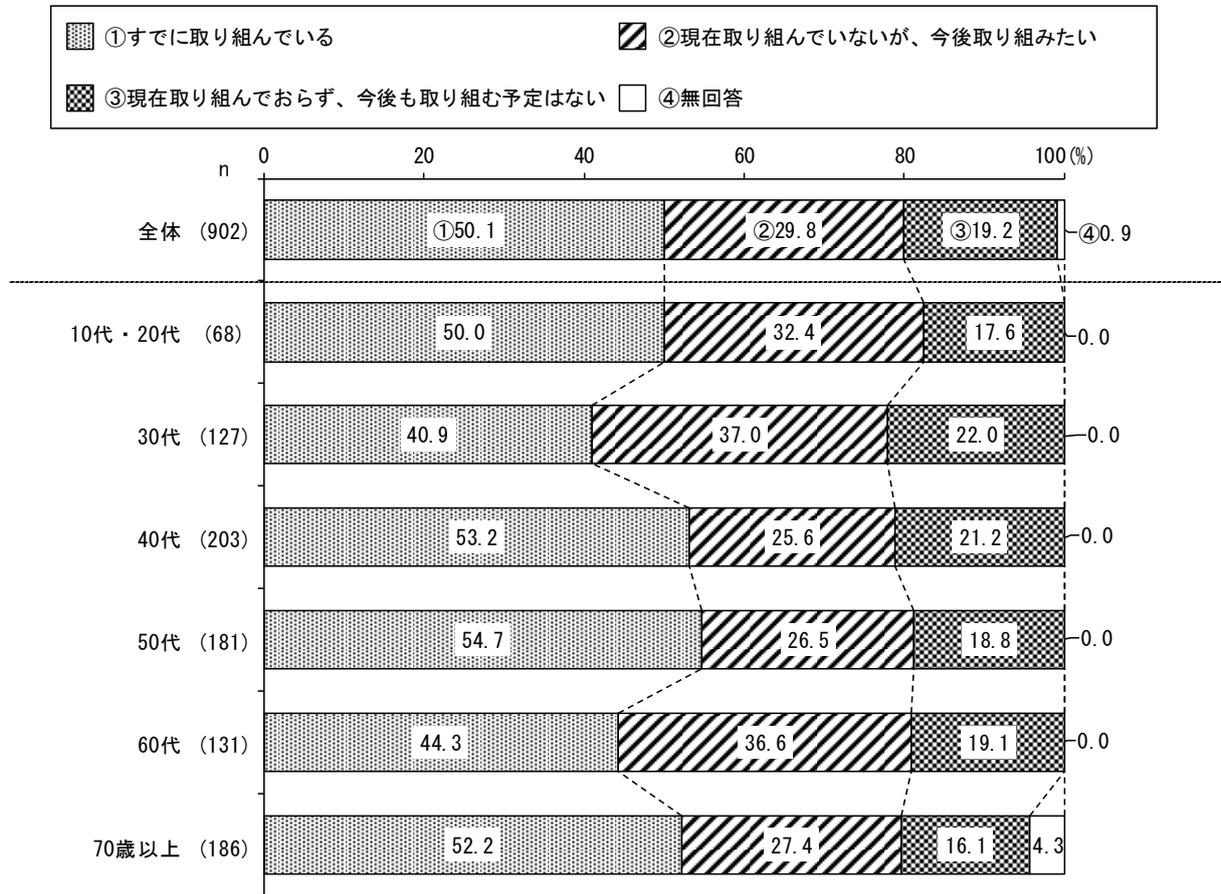
『ア マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない』



『マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は10代・20代(7.4%)が、全体(3.9%)を3.5ポイント上回っている。(図3-3-1)

図3-3-2 プラスチックごみ削減のために、行っていること
(年代別)

『マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器（ペットボトル等）をできる限り使用しない』

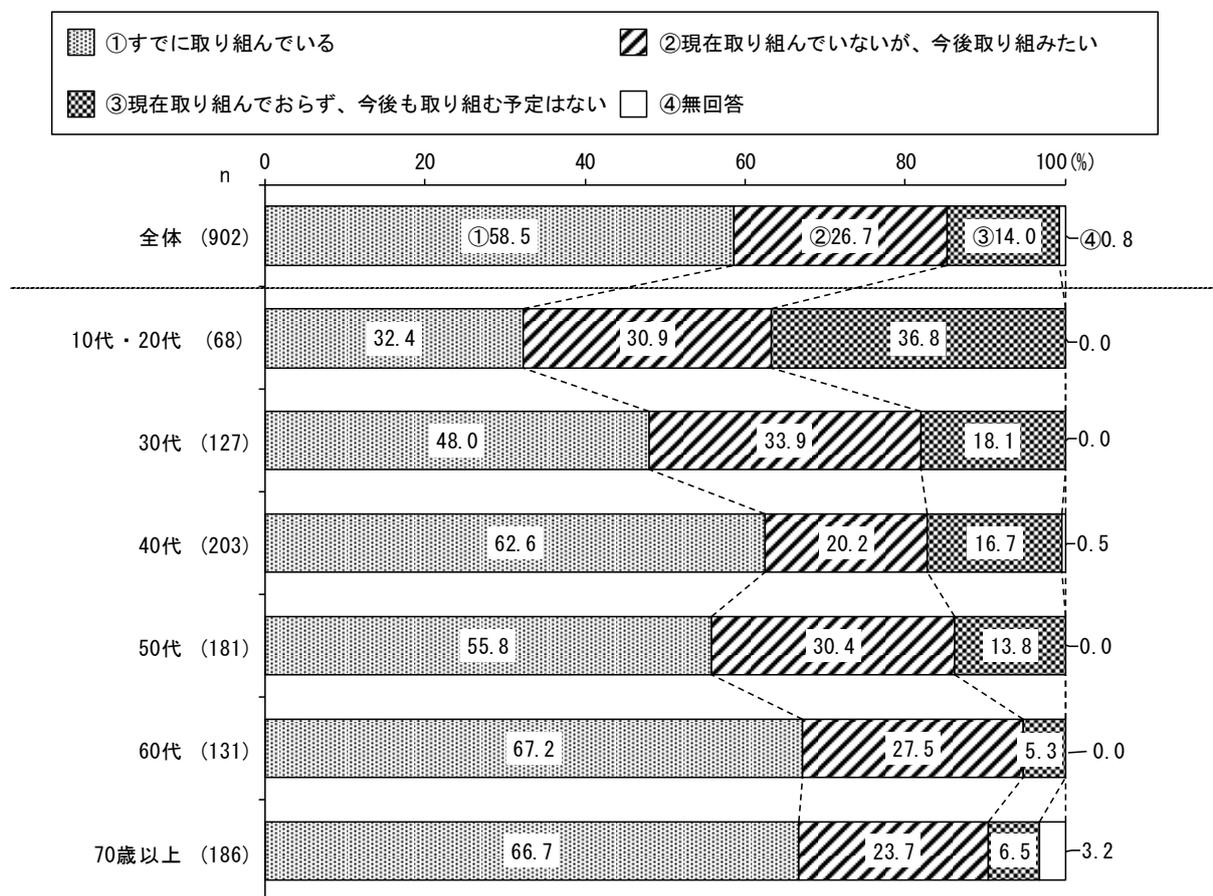


『マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器（ペットボトル等）をできる限り使用しない』について、年代別で見ると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は30代(37.0%)が3割台半ばを超え、全体(29.8%)を7.2ポイント上回っている。(図3-3-2)

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて）

図3-3-3 プラスチックごみ削減のために、行っていること
（年代別）

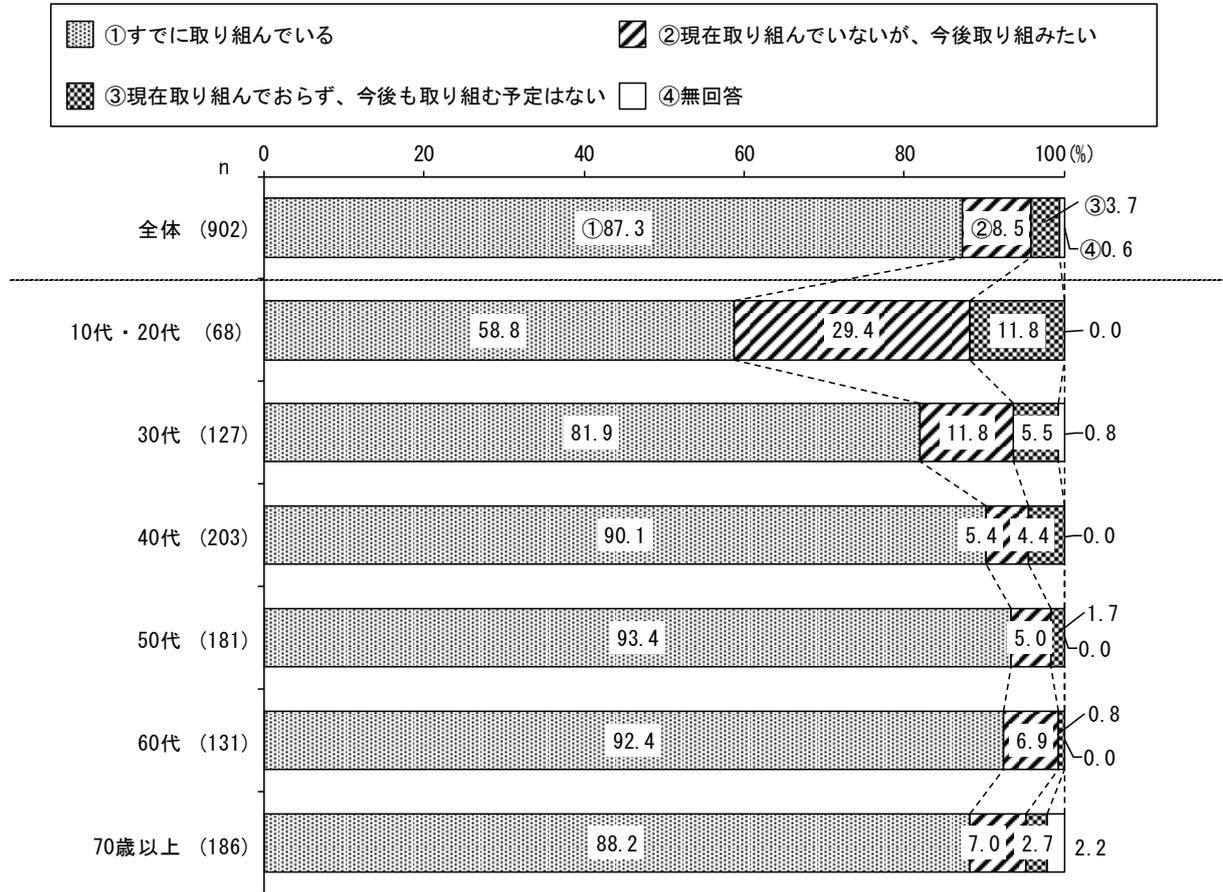
『ウ プラスチック製の食器（スプーン・フォーク等）、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない』



『プラスチック製の食器（スプーン・フォーク等）、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は10代・20代（36.8%）が3割台半ばを超え、全体（14.0%）を22.8ポイント上回っている。（図3-3-3）

図3-3-4 プラスチックごみ削減のために、行っていること
(年代別)

『エ 区の資源回収を利用し、容器包装プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する』

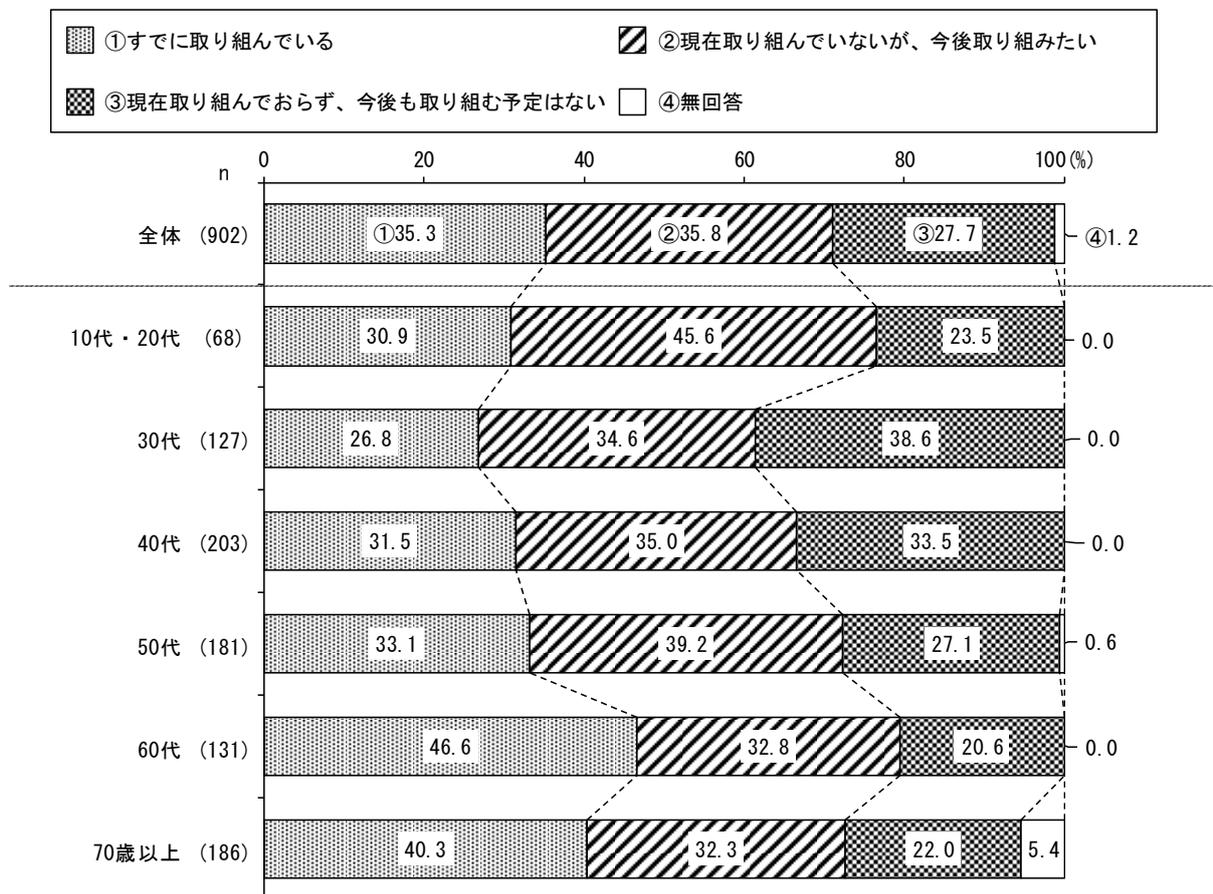


『区の資源回収を利用し、容器包装プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する』について、年代別でみると、「現在取り組んでいないが、今後取り組みたい」は10代・20代(29.4%)が3割弱と、全体(8.5%)を20.9ポイント上回っている。(図3-3-4)

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて）

図3-3-5 プラスチックごみ削減のために、行っていること
（年代別）

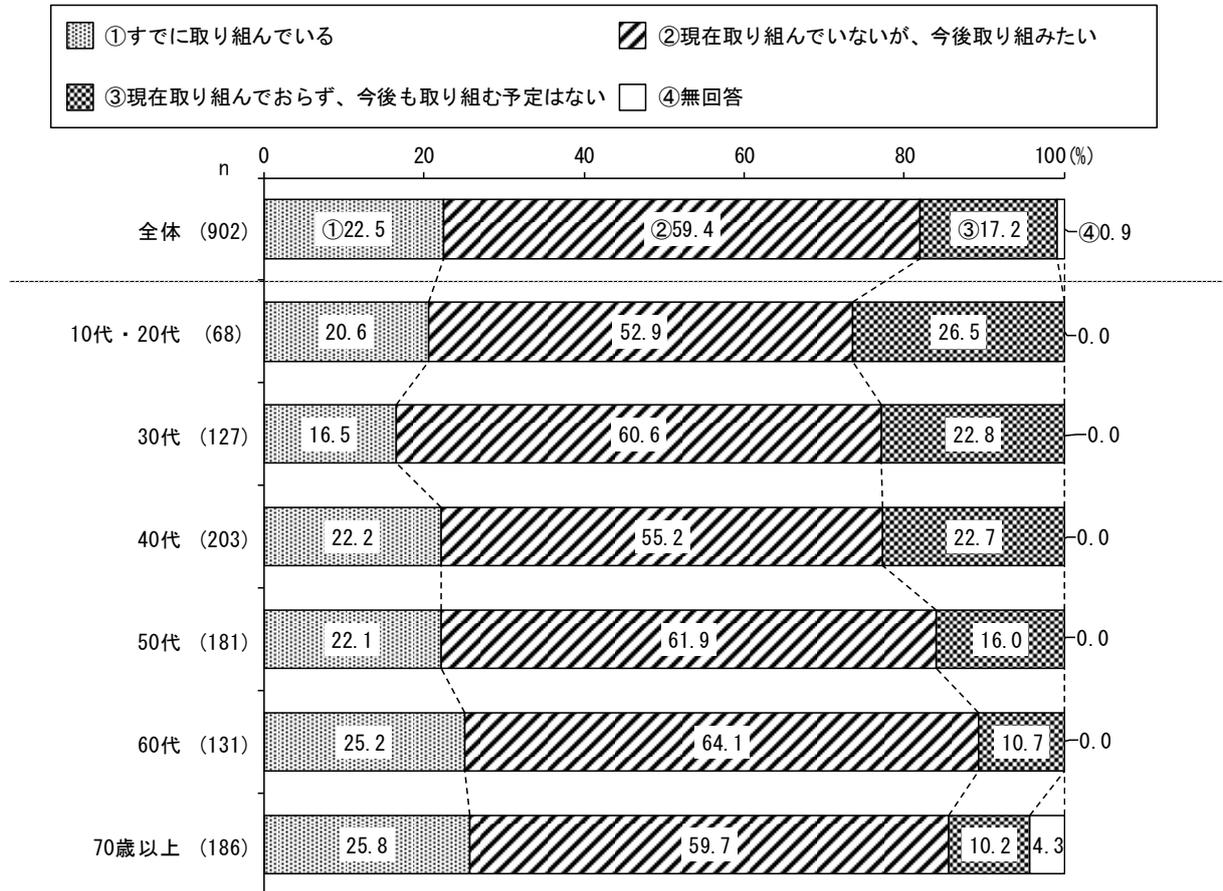
『オ スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、白色トレイ・ペットボトル等を資源として排出する』



『スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、白色トレイ・ペットボトル等を資源として排出する』について、年代別でみると、「すでに取り組んでいる」は60代（46.6%）が4割台半ばを超え、全体（35.3%）を11.3ポイント上回っている。（図3-3-5）

図3-3-6 プラスチックごみ削減のために、行っていること
(年代別)

『カ リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック（バイオマスプラスチック）などを使った製品を積極的に選ぶ』



『リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック（バイオマスプラスチック）などを使った製品を積極的に選ぶ』について、年代別でみると、「現在取り組んでおらず、今後も取り組む予定はない」は10代・20代（26.5%）が2割台半ばを超え、全体（17.2%）を9.3ポイント上回っている。（図3-3-6）

Ⅱ 調査の結果（テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて）

（４）ごみ・資源の出し方

◎『ペットボトル』では、「資源」の回収日に出すが7割台半ば超え

問10 新宿区では、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、容器包装プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。

（ア～ケそれぞれで、あてはまるものにもいくつでも○をつけてください）

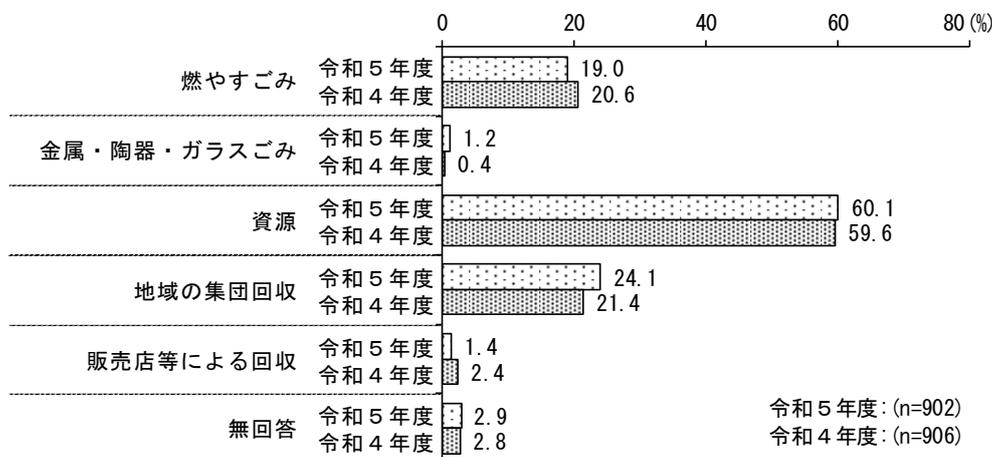
(n=902)

	燃やすごみ (週2回)	金属・陶器・ガラスごみ (月2回)	資源 (週1回)	地域の集団回収	販売店等による回収	無回答
ア 新聞・チラシ	19.0%	1.2%	60.1%	24.1%	1.4%	2.9%
イ 雑誌・段ボール	5.5	0.3	74.9	22.5	0.3	1.7
ウ 雑がみ（菓子箱・包装紙等）	54.0	0.3	36.3	12.4	0.3	2.3
エ 容器包装プラスチック	26.6	2.1	67.1		4.4	5.4
オ びん	1.0	17.1	71.8	11.8	0.6	1.3
カ 缶	1.1	12.0	74.3	14.3	1.0	1.2
キ ペットボトル	4.0	3.3	76.8	12.5	7.2	1.3
ク スプレー缶・カセットボンベ	1.1	32.4	59.6			8.0
ケ 乾電池	0.9	26.2	52.8		15.6	7.0

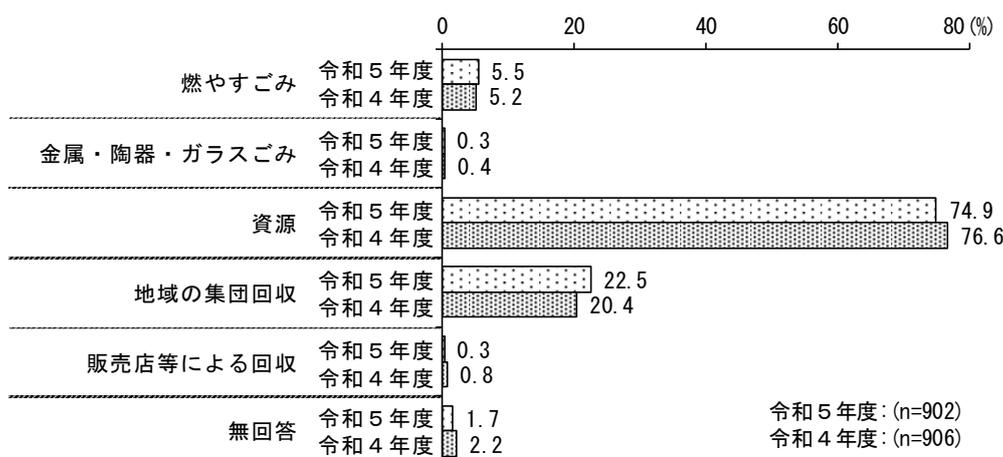
図3-4-1 ごみ・資源の出し方（経年推移）

『(ア) 新聞・チラシ』・『(イ) 雑誌・段ボール』

『(ア) 新聞・チラシ』



『(イ) 雑誌・段ボール』



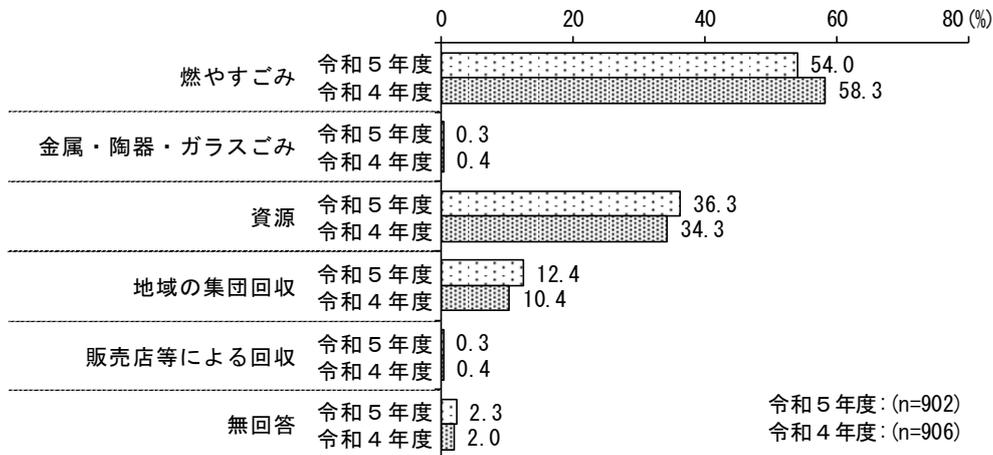
ごみ・資源の出し方についてそれぞれみると、『新聞・チラシ』では、「資源」(60.1%)が約6割で最も高く、次いで「地域の集団回収」(24.1%)が2割台半ば近く、「燃やすごみ」(19.0%)が2割弱と続いている。

『雑誌・段ボール』では、「資源」(74.9%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで「地域の集団回収」(22.5%)が2割強と続いている。(図3-4-1)

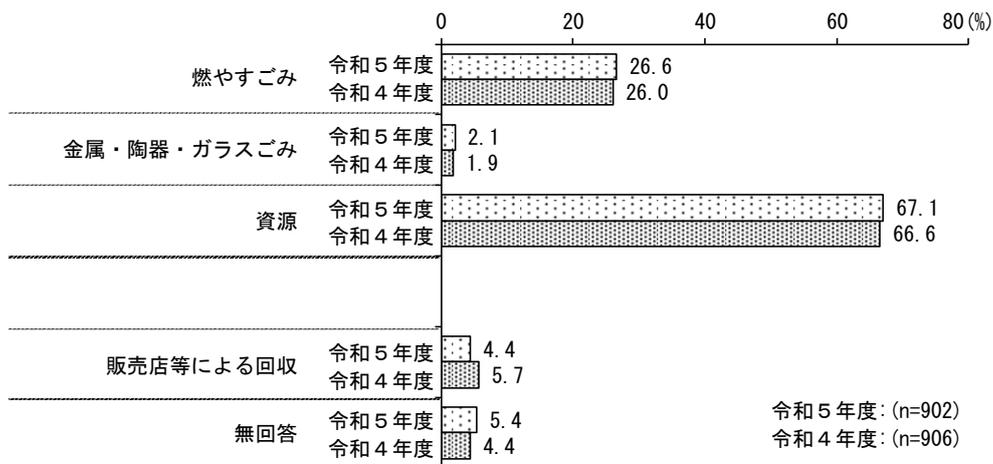
Ⅱ 調査の結果（テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて）

図3-4-2 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』・『(エ) 容器包装プラスチック』

『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』



『(エ) 容器包装プラスチック』

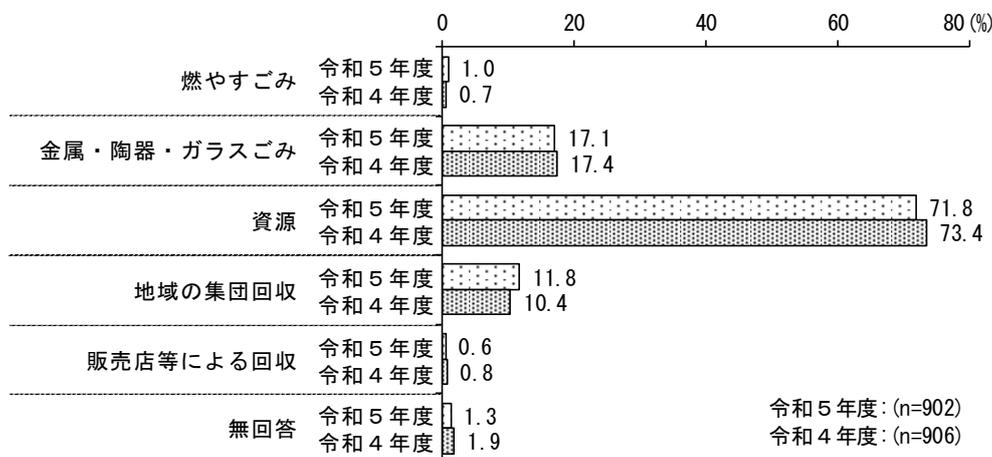


『雑がみ（菓子箱・包装紙等）』では、「燃やすごみ」（54.0%）が5割台半ば近くで最も高く、次いで「資源」（36.3%）が3割台半ばを超えている。

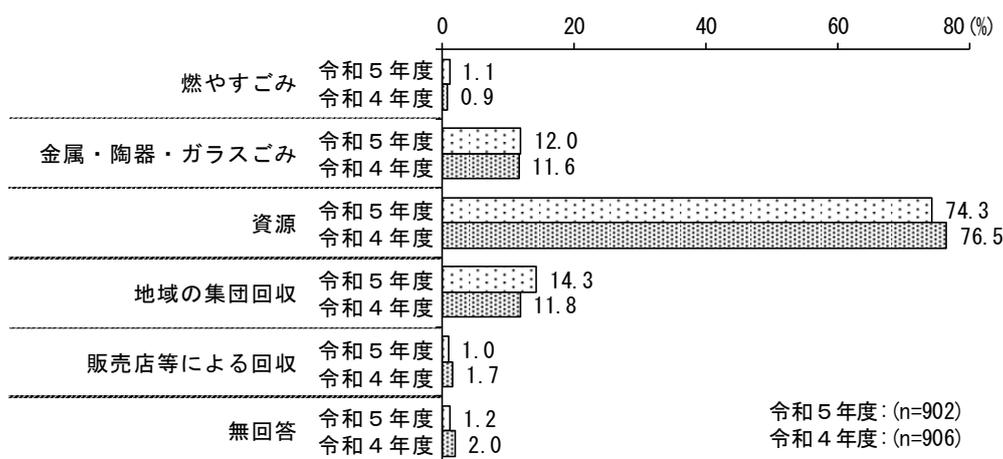
『容器包装プラスチック』では、「資源」（67.1%）が6割台半ばを超えて最も高く、次いで「燃やすごみ」（26.6%）が2割台半ばを超えて続いている。（図3-4-2）

図3-4-3 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(オ)びん』・『(カ)缶』

『(オ)びん』



『(カ)缶』

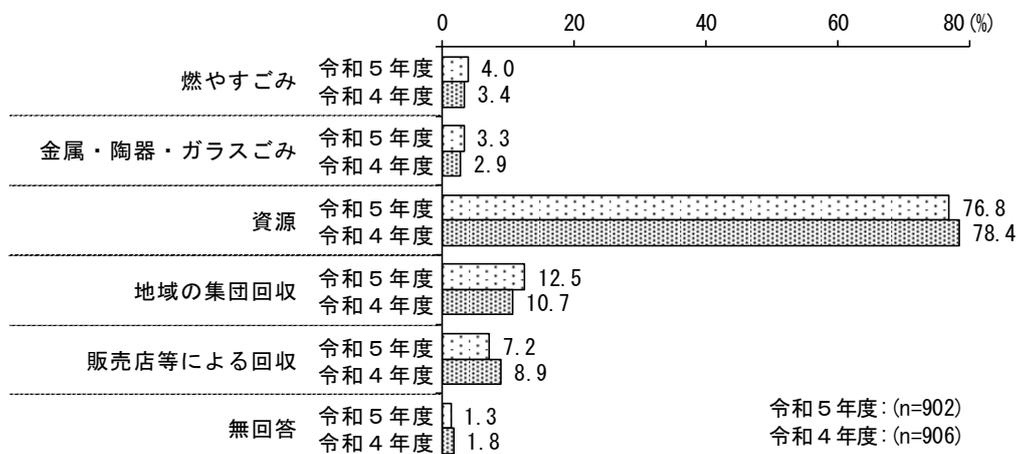


『びん』では、「資源」(71.8%)が7割強で最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(17.1%)が1割台半ばを超え、「地域の集団回収」(11.8%)が1割強と続いている。

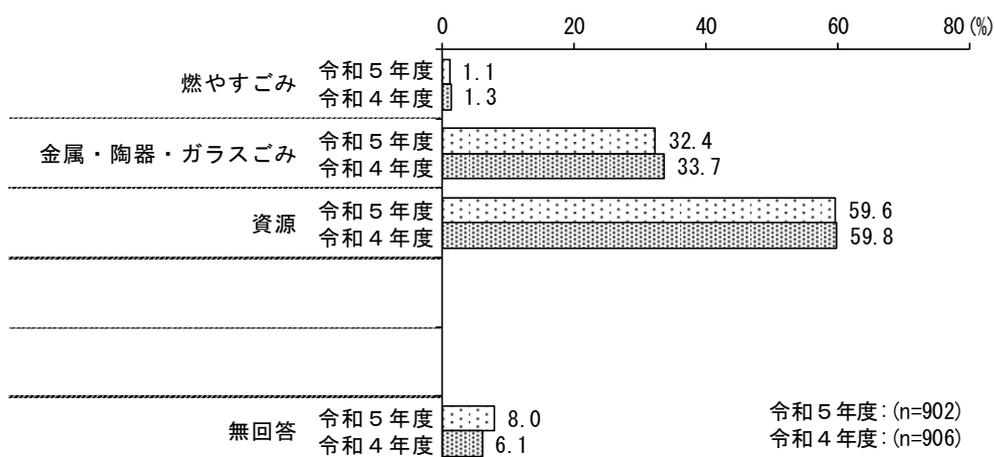
『缶』では、「資源」(74.3%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで「地域の集団回収」(14.3%)が1割台半ば近く、「金属・陶器・ガラスごみ」(12.0%)も1割強と続いている。(図3-4-3)

図3-4-4 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(キ) ペットボトル』・『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』

『(キ) ペットボトル』



『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』

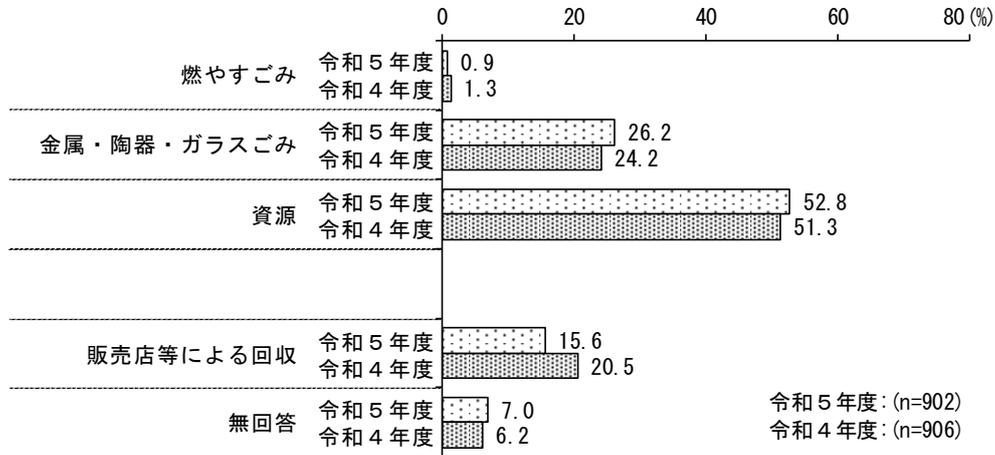


『ペットボトル』では、「資源」(76.8%)が7割台半ばを超えて最も高く、次いで「地域の集団回収」(12.5%)が1割強と続いている。

『スプレー缶・カセットボンベ』では、「資源」(59.6%)が6割弱で最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(32.4%)が3割強と続いている。(図3-4-4)

図3-4-5 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ケ) 乾電池』

『(ケ) 乾電池』



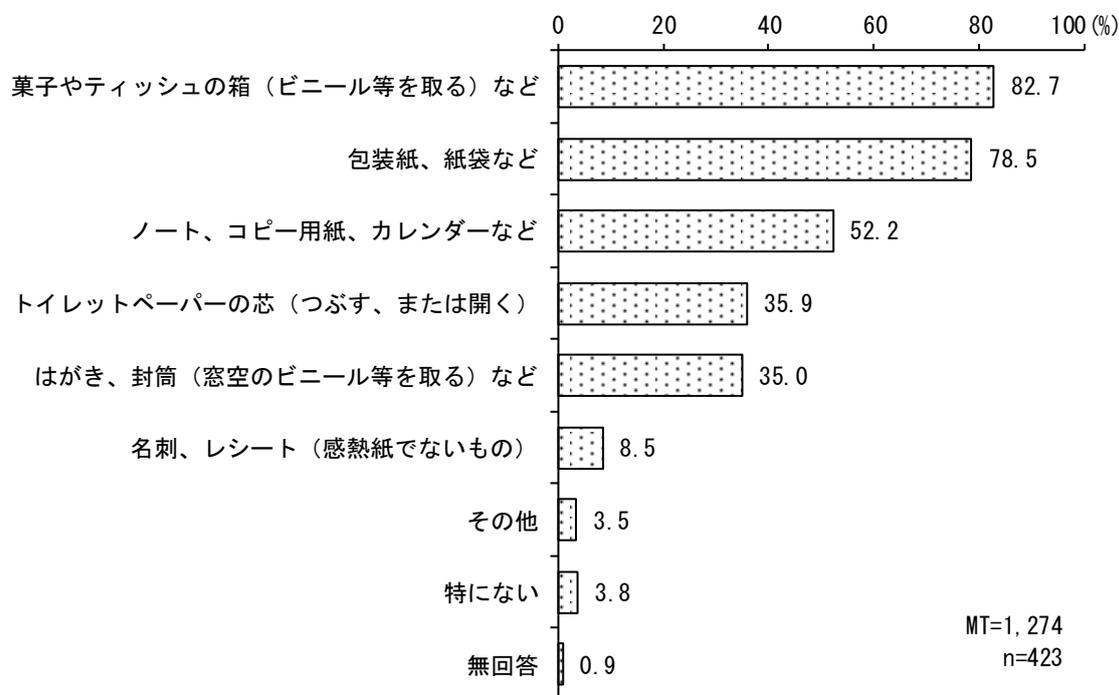
『乾電池』では、「資源」(52.8%)が5割強で最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(26.2%)が2割台半ばを超え、「販売店等による回収」(15.6%)が1割台半ばと続いている。前回の調査結果(令和4年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「販売店等による回収」(15.6%)が前回(20.5%)から4.9ポイント低くなっている。(図3-4-5)

（5）資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみ

◎「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」が8割強

問10-1	問10の（ウ）雑がみ（菓子箱・包装紙等）で、「3」又は「4」に○をした方にお伺いします。 雑がみのうち、資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出しているのはどれですか。 （あてはまるものにいくつでも○をつけてください）	
		(n=423)
1	菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など	82.7%
2	包装紙、紙袋など	78.5
3	はがき、封筒（窓空のビニール等を取る）など	35.0
4	ノート、コピー用紙、カレンダーなど	52.2
5	トイレットペーパーの芯（つぶす、または開く）	35.9
6	名刺、レシート（感熱紙でないもの）	8.5
7	その他	3.5
8	特にない	3.8
	無回答	0.9

図3-5 資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみ



資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみは、「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」（82.7%）が8割強で最も高く、次いで「包装紙、紙袋など」（78.5%）が8割近く、「ノート、コピー用紙、カレンダーなど」（52.2%）が5割強と続いている。

（図3-5）

テーマ4 がんに関する情報や相談先について

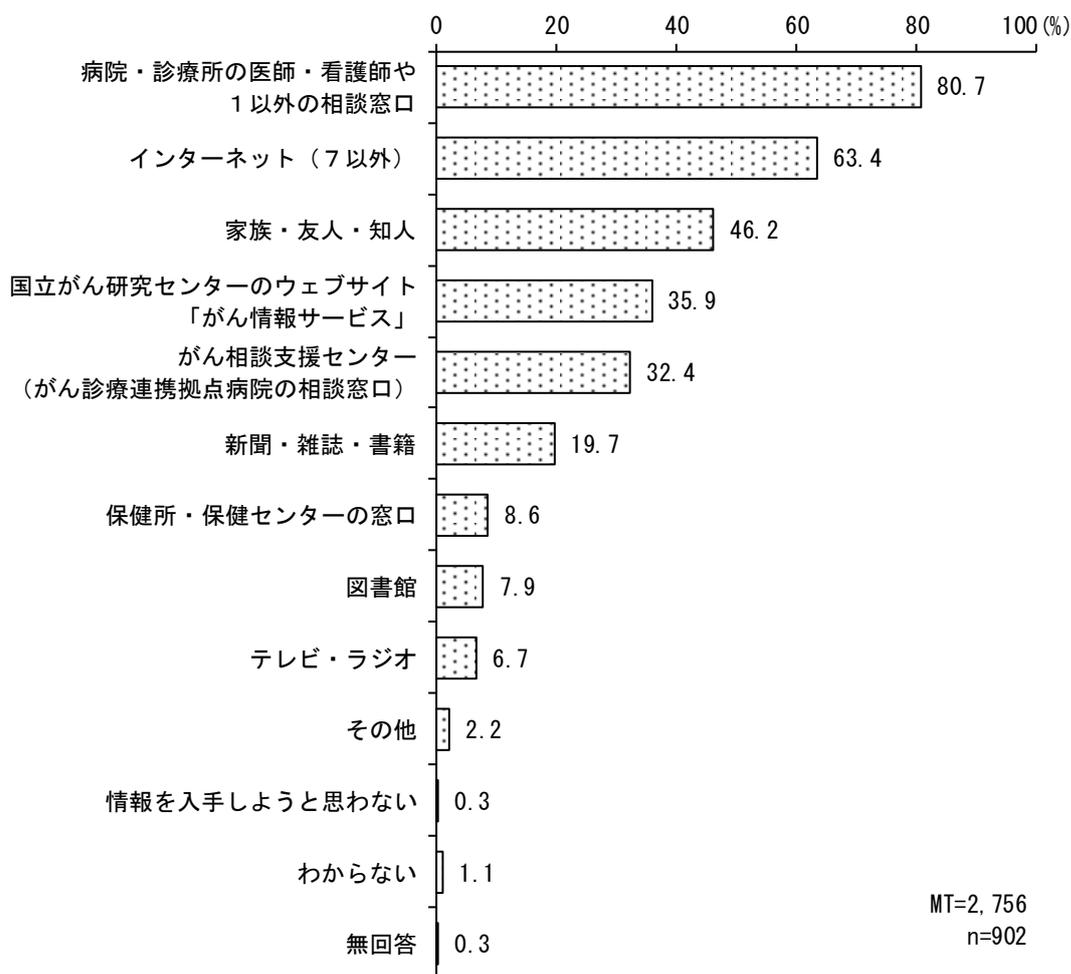
(1) がんと診断された場合の情報入手先

◎「病院・診療所の医師・看護師や1（がん相談支援センター）以外の相談窓口」が約8割

問11 あなたはがんと診断されたら、ご自身のがんの治療法や病院について、どこで情報を入手しますか。（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

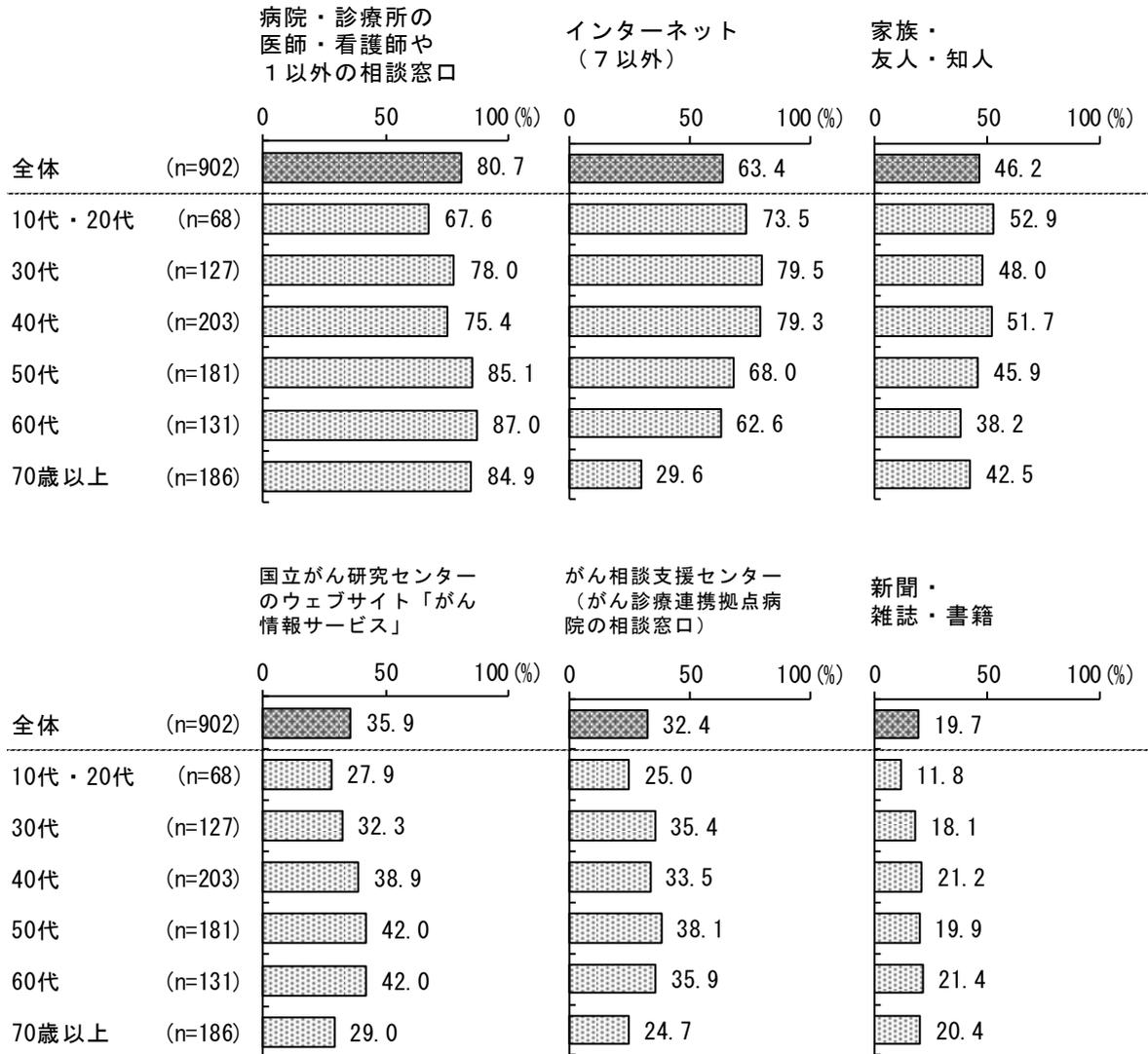
	(n=902)
1 がん相談支援センター（がん診療連携拠点病院の相談窓口）	32.4%
2 病院・診療所の医師・看護師や1以外の相談窓口	80.7
3 保健所・保健センターの窓口	8.6
4 図書館	7.9
5 新聞・雑誌・書籍	19.7
6 テレビ・ラジオ	6.7
7 国立がん研究センターのウェブサイト「がん情報サービス」	35.9
8 インターネット（7以外）	63.4
9 家族・友人・知人	46.2
10 その他	2.2
11 情報を入手しようと思わない	0.3
12 わからない	1.1
無回答	0.3

図4-1-1 がんと診断された場合の情報入手先



がんと診断された場合の情報入手先としては、「病院・診療所の医師・看護師や1（がん相談支援センター）以外の相談窓口」（80.7%）が約8割で最も高く、次いで「インターネット（7以外）」（63.4%）が6割台半ば近く、「家族・友人・知人」（46.2%）が4割台半ばを超え続いている。（図4-1-1）

図4-1-2 がんと診断された場合の情報入手先
(年代別) 上位6項目



年代別でみると、「インターネット（7以外）」は30代（79.5%）、40代（79.3%）で8割弱と全体（63.4%）を約16ポイント上回っている。（図4-1-2）

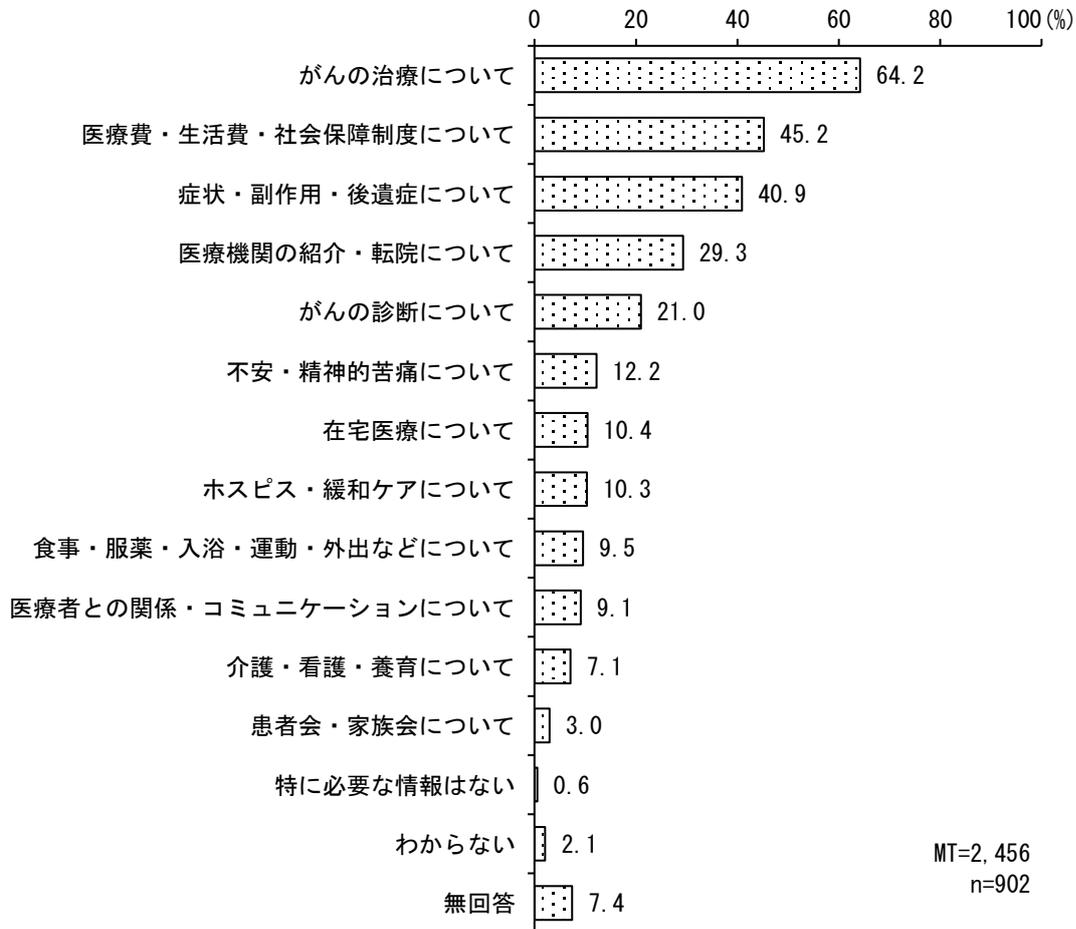
Ⅱ 調査の結果（テーマ4 がんに関する情報や相談先について）

（2）がん患者やその家族等をサポートするために必要な情報

◎「がんの治療について」が6割台半ば近く

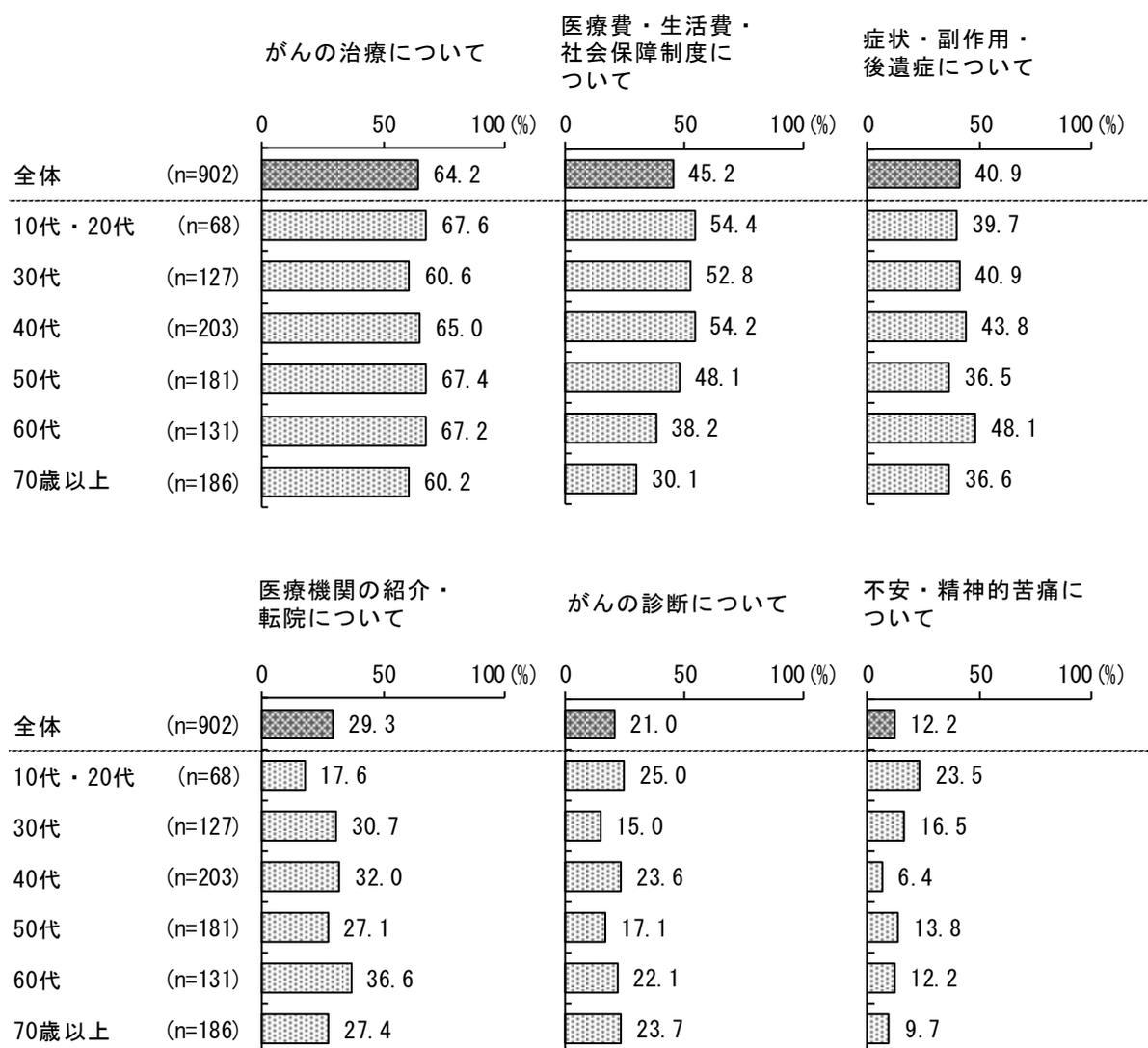
問12 がん患者やその家族等をサポートするために、あなたはどのような情報が必要だと思いますか。（あてはまるものに3つまで○をつけてください）		(n=902)
1	がんの診断について	21.0%
2	がんの治療について	64.2
3	症状・副作用・後遺症について	40.9
4	医療機関の紹介・転院について	29.3
5	在宅医療について	10.4
6	ホスピス・緩和ケアについて	10.3
7	食事・服薬・入浴・運動・外出などについて	9.5
8	介護・看護・養育について	7.1
9	医療費・生活費・社会保障制度について	45.2
10	不安・精神的苦痛について	12.2
11	医療者との関係・コミュニケーションについて	9.1
12	患者会・家族会について	3.0
13	特に必要な情報はない	0.6
14	わからない	2.1
	無回答	7.4

図4-2-1 がん患者やその家族等をサポートするために必要な情報



がん患者やその家族等をサポートするために必要な情報は、「がんの治療について」(64.2%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで、「医療費・生活費・社会保障制度について」(45.2%)が4割台半ば、「症状・副作用・後遺症について」(40.9%)が約4割と続いている。(図4-2-1)

図4-2-2 がん患者やその家族等をサポートするために必要な情報
（年代別）上位6項目



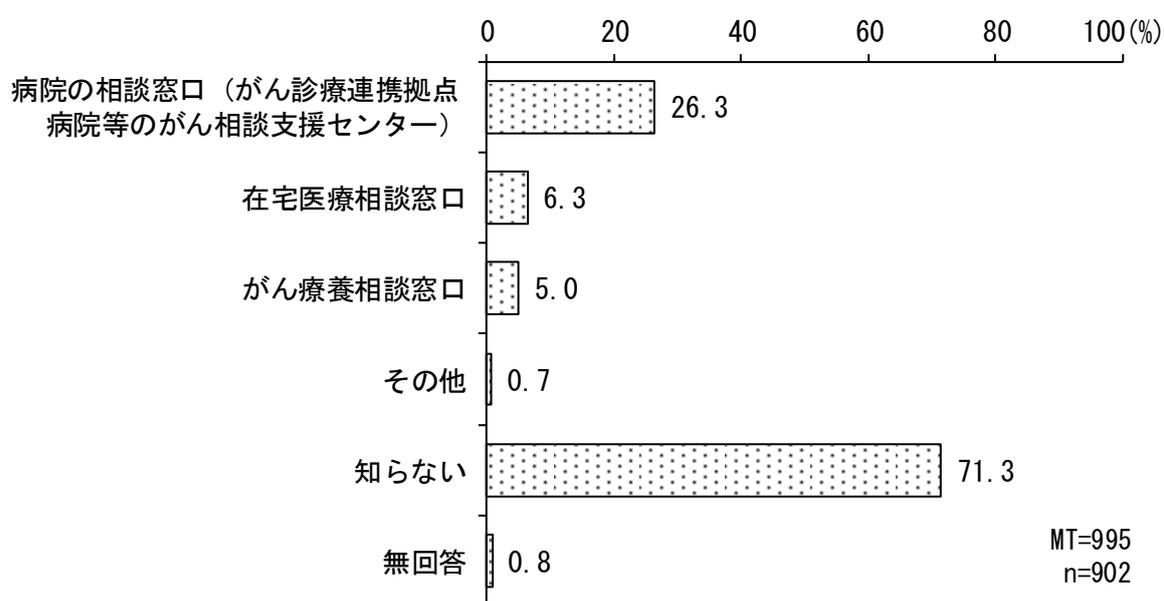
年代別でみると、「医療費・生活費・社会保障制度について」は10代・20代（54.4%）、40代（54.2%）が5割台半ば近くと、全体（45.2%）を約9ポイント上回っている。また、「不安・精神的苦痛について」は10代・20代（23.5%）が2割台半ば近くと全体（12.2%）を11.3ポイント上回っている。（図4-2-2）

(3) がんになった時に在宅で治療を受けながら生活をしていく際の相談先として知っているもの

◎「知らない」が7割強

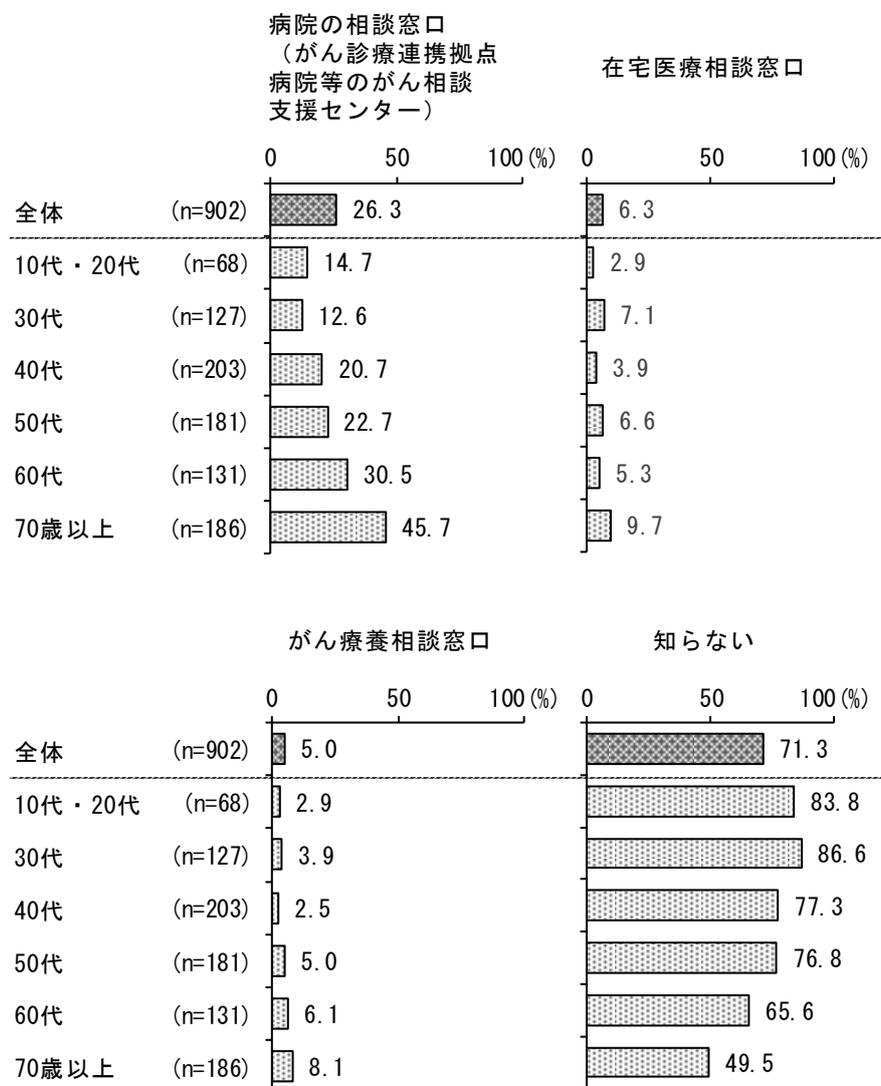
問13 新宿区内には、がん患者とその家族等が住み慣れた地域で安心して療養生活を送ることができるよう、相談窓口が開設されています。がんになった時に在宅で治療を受けながら生活をしていく際の相談先をご存知ですか。 (知っているものにいくつでも○をつけてください)		(n=902)
1	病院の相談窓口 (がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター)	26.3%
2	在宅医療相談窓口	6.3
3	がん療養相談窓口	5.0
4	その他	0.7
5	知らない	71.3
	無回答	0.8

図4-3-1 がんになった時に在宅で治療を受けながら生活をしていく際の相談先として知っているもの



がんになった時に在宅で治療を受けながら生活をしていく際の相談先については「知らない」(71.3%)が7割強となっている。知っているものの中では、「病院の相談窓口 (がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター)」(26.3%)が2割台半ばを超え最も高い。(図4-3-1)

図4-3-2 がんになった時に在宅で治療を受けながら生活をしていく際の相談先として知っているもの
(年代別)



年代別でみると、「病院の相談窓口（がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター）」は、70歳以上（45.7%）が4割台半ばと、全体（26.3%）を19.4ポイント上回っている。「知らない」は、10代・20代（83.8%）が8割台半ば近く、30代（86.6%）が8割台半ばを超え、全体（71.3%）を10ポイント以上上回っている。（図4-3-2）

テーマ5 男女共同参画に関する意識について

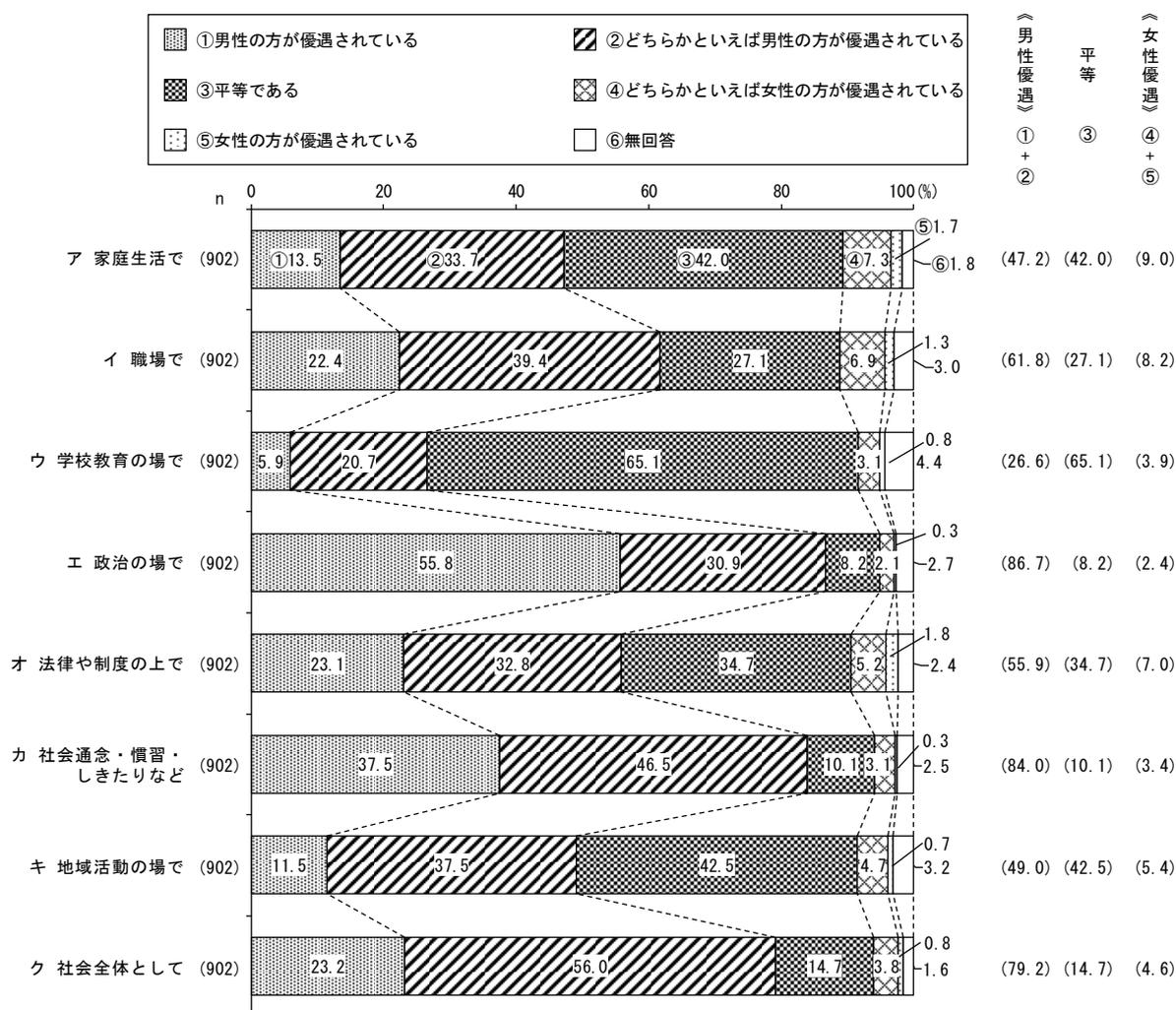
(1) さまざまな分野での男女平等意識について

◎「平等である」と思う方が多いのは『学校教育の場で』で6割台半ば

問14 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。 (ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください)						
(n=902)						
	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている どちらかといえば	平等である	女性の方が優遇されている どちらかといえば	女性の方が優遇されている	無回答
ア 家庭生活で	13.5%	33.7%	42.0%	7.3%	1.7%	1.8%
イ 職場で	22.4	39.4	27.1	6.9	1.3	3.0
ウ 学校教育の場で	5.9	20.7	65.1	3.1	0.8	4.4
エ 政治の場で	55.8	30.9	8.2	2.1	0.3	2.7
オ 法律や制度の上で	23.1	32.8	34.7	5.2	1.8	2.4
カ 社会通念・慣習・ しきたりなど	37.5	46.5	10.1	3.1	0.3	2.5
キ 地域活動の場で	11.5	37.5	42.5	4.7	0.7	3.2
ク 社会全体として	23.2	56.0	14.7	3.8	0.8	1.6

Ⅱ 調査の結果（テーマ5 男女共同参画に関する意識について）

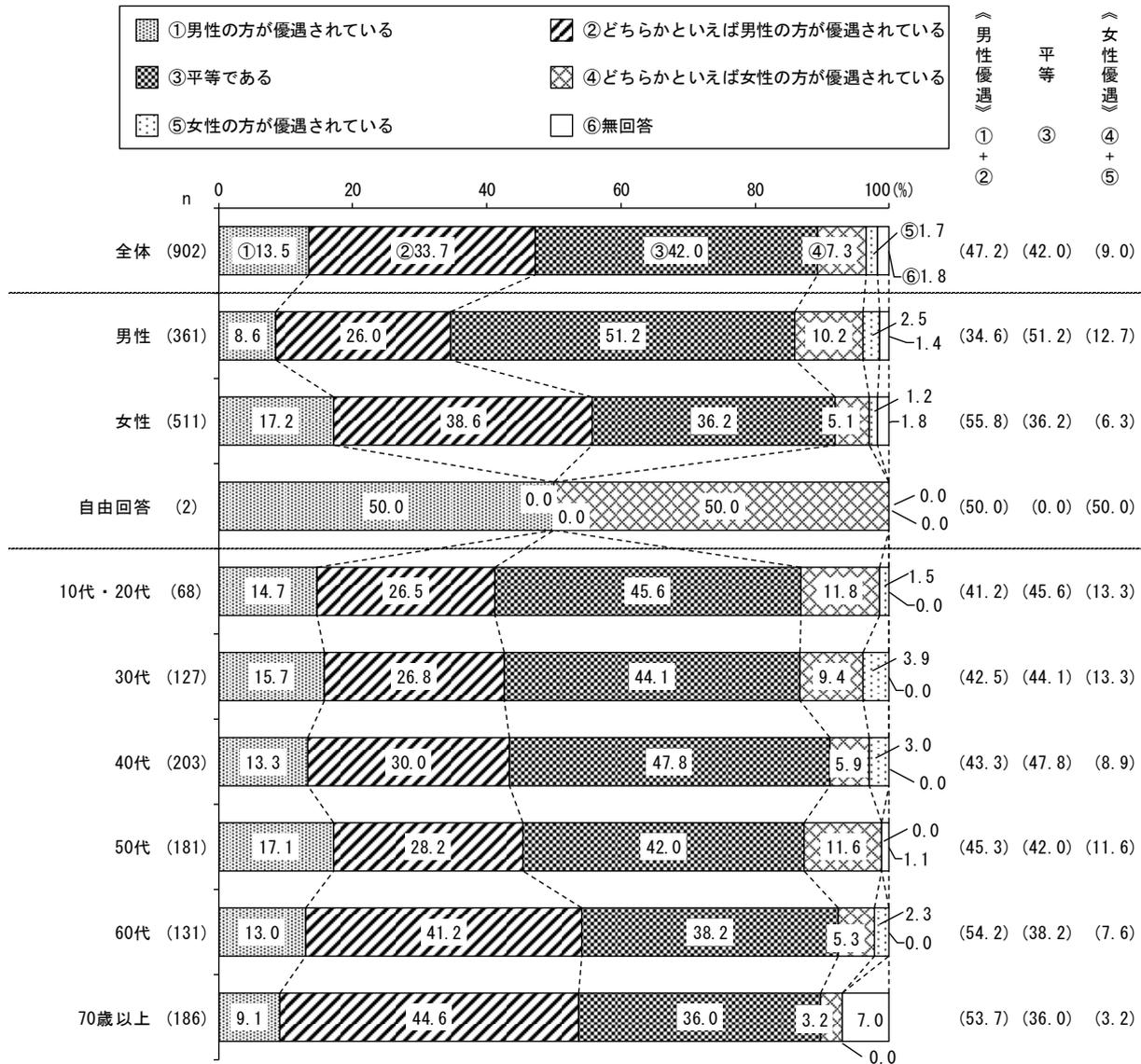
図5-1-1 さまざまな分野での男女平等意識について



さまざまな分野での男女平等意識について、「平等である」は『学校教育の場で』（65.1%）が6割台半ばと最も高くなっている。

《男性優遇》（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）について、『政治の場で』（86.7%）が8割台半ばを超え最も高く、『社会通念・慣習・しきたりなど』（84.0%）が8割台半ば近くと続いている。（図5-1-1）

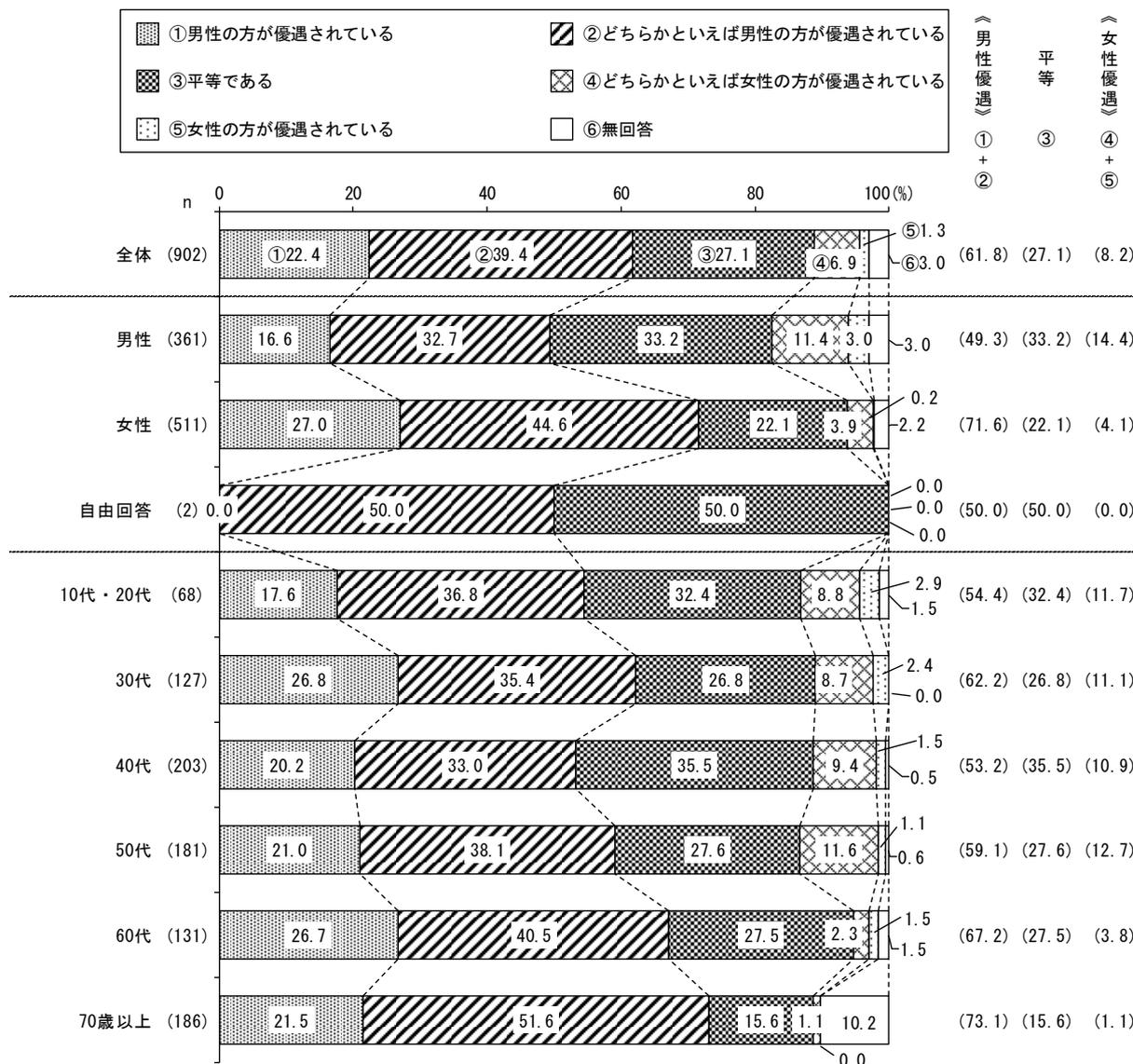
図5-1-2 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『ア 家庭生活上』



『家庭生活上』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（55.8%）が5割台半ばと、男性（34.6%）を21.2ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は60代（54.2%）が5割台半ば近くと、全体（47.2%）を7.0ポイント上回っている。（図5-1-2）

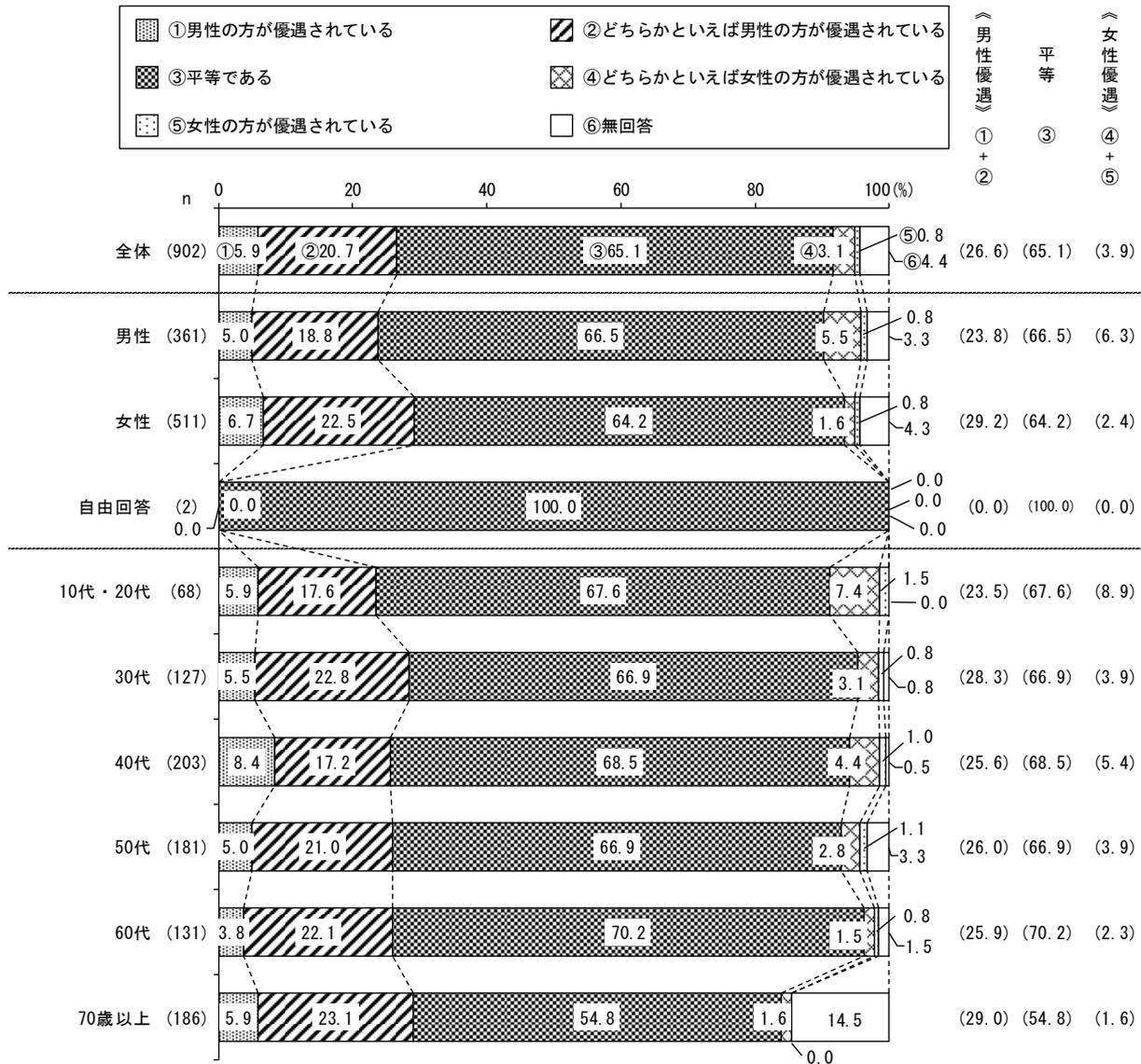
図5-1-3 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『イ 職場で』



『職場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（71.6%）が7割強と、男性（49.3%）を22.3ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は70歳以上（73.1%）が7割台半ば近くと、全体（61.8%）を11.3ポイント上回っている。（図5-1-3）

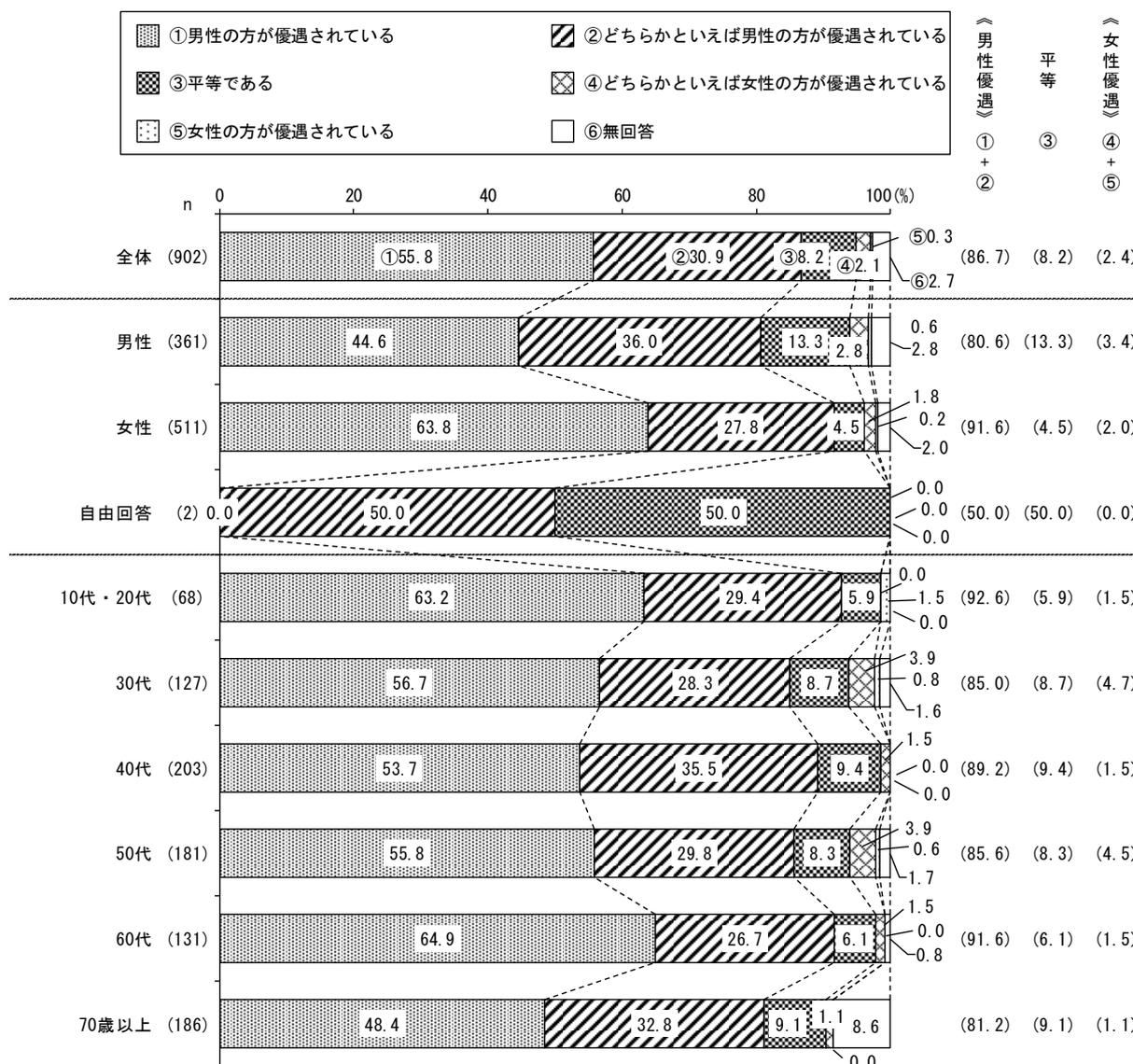
図5-1-4 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『ウ 学校教育の場で』



『学校教育の場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（29.2%）が3割弱と、男性（23.8%）を5.4ポイント上回っている。

年代別で見ると、「平等である」は60代（70.2%）が約7割と、全体（65.1%）を5.1ポイント上回っている。（図5-1-4）

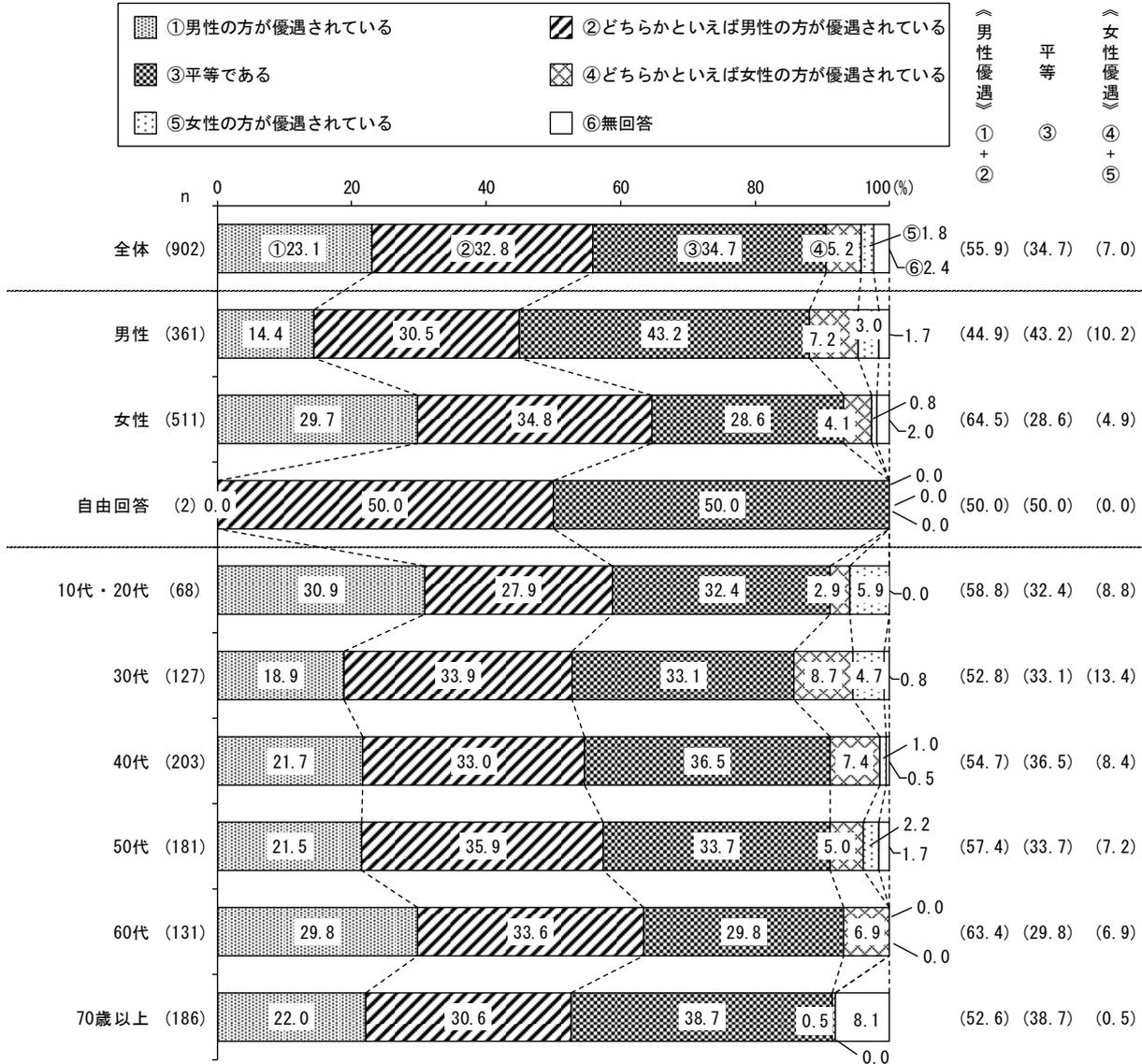
図5-1-5 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『エ 政治の場で』



『政治の場で』について、性別でみると、《男性優遇》は女性(91.6%)が9割強と、男性(80.6%)を11.0ポイント上回っている。

年代別でみると、《男性優遇》は10代・20代(92.6%)が9割強と、全体(86.7%)を5.9ポイント上回っている。(図5-1-5)

図5-1-6 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『才 法律や制度の上で』



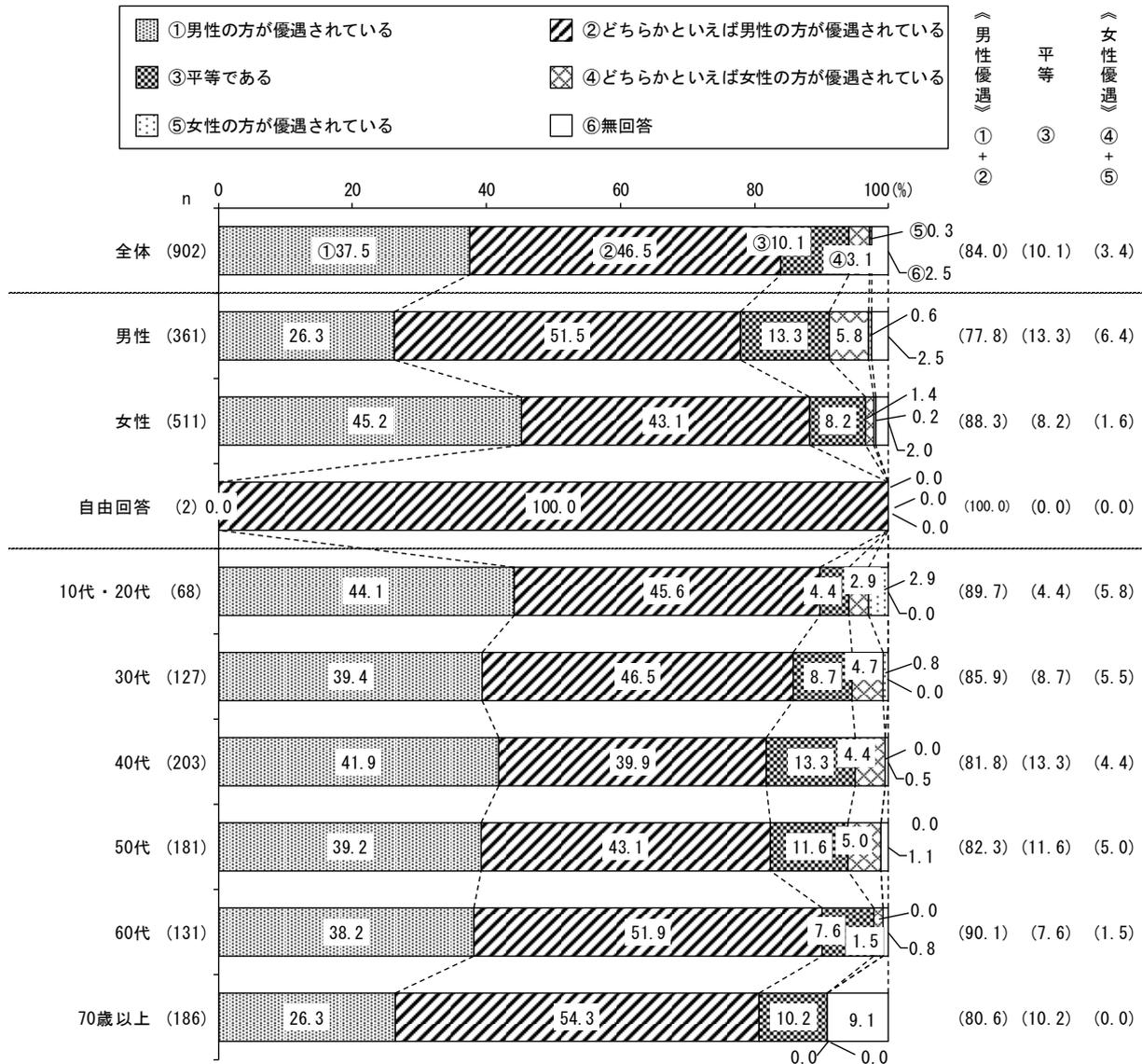
『法律や制度の上で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（64.5%）が6割台半ば近くと、男性（44.9%）を19.6ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は60代（63.4%）が6割台半ば近くと、全体（55.9%）を7.5ポイント上回っている。（図5-1-6）

Ⅱ 調査の結果（テーマ5 男女共同参画に関する意識について）

図5-1-7 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）

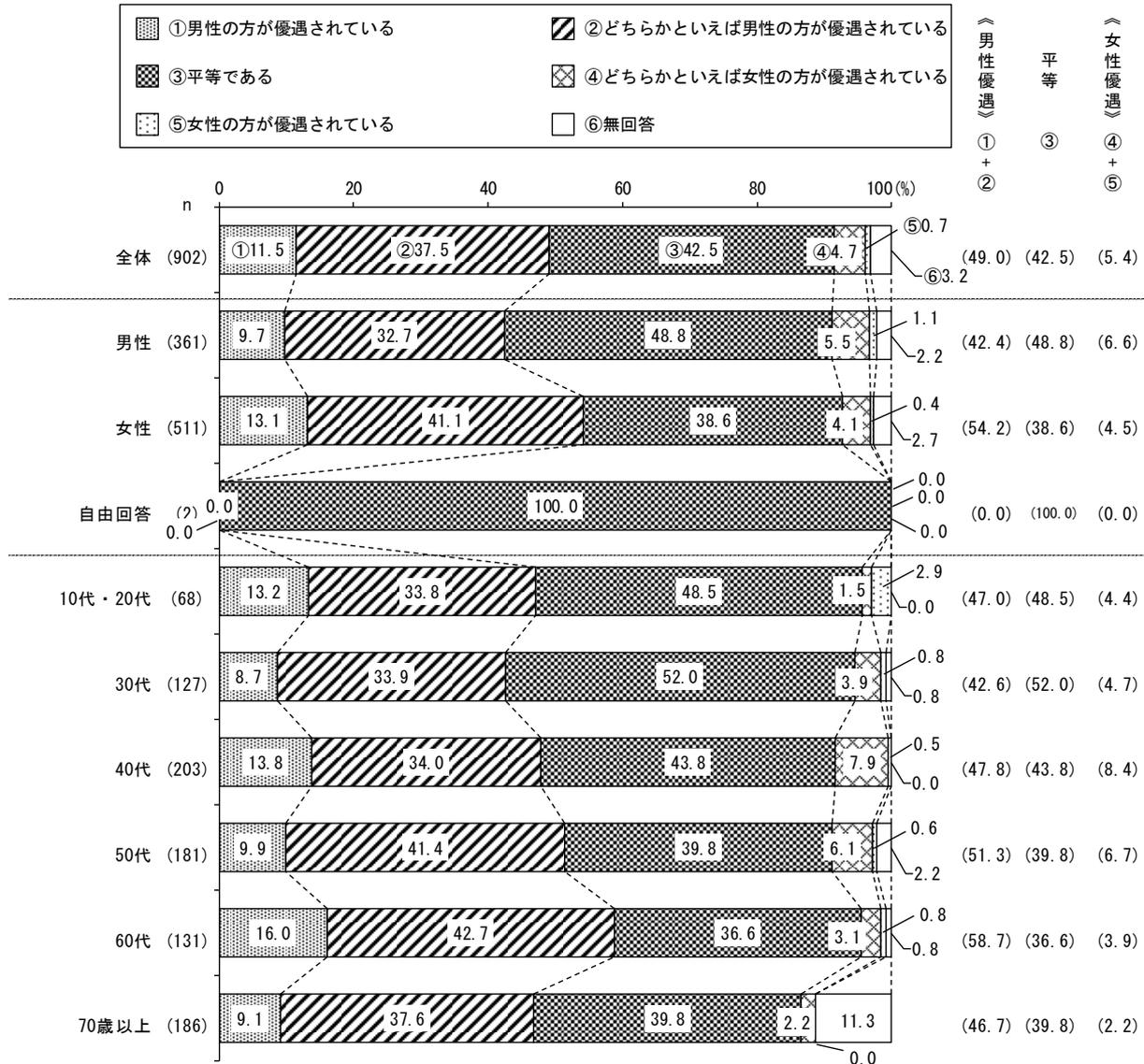
『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』



『社会通念・慣習・しきたりなど』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（88.3%）が9割近くと、男性（77.8%）を10.5ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は60代（90.1%）が約9割と、全体（84.0%）を6.1ポイント上回っている。（図5-1-7）

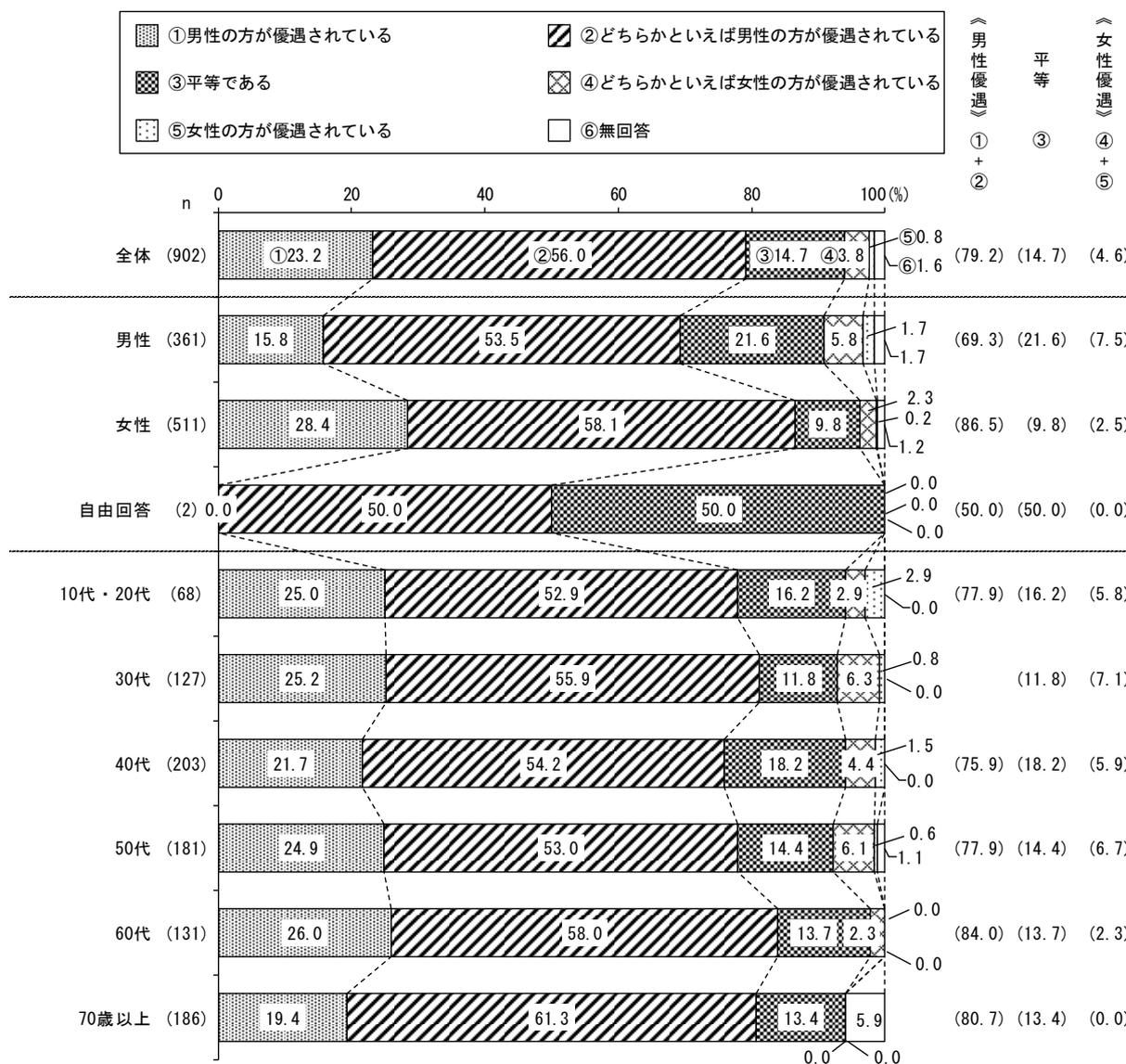
図5-1-8 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『キ 地域活動の場で』



『地域活動の場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（54.2%）が5割台半ば近くと、男性（42.4%）を11.8ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は60代（58.7%）が6割近く、全体（49.0%）を9.7ポイント上回っている。（図5-1-8）

図5-1-9 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『ク 社会全体として』

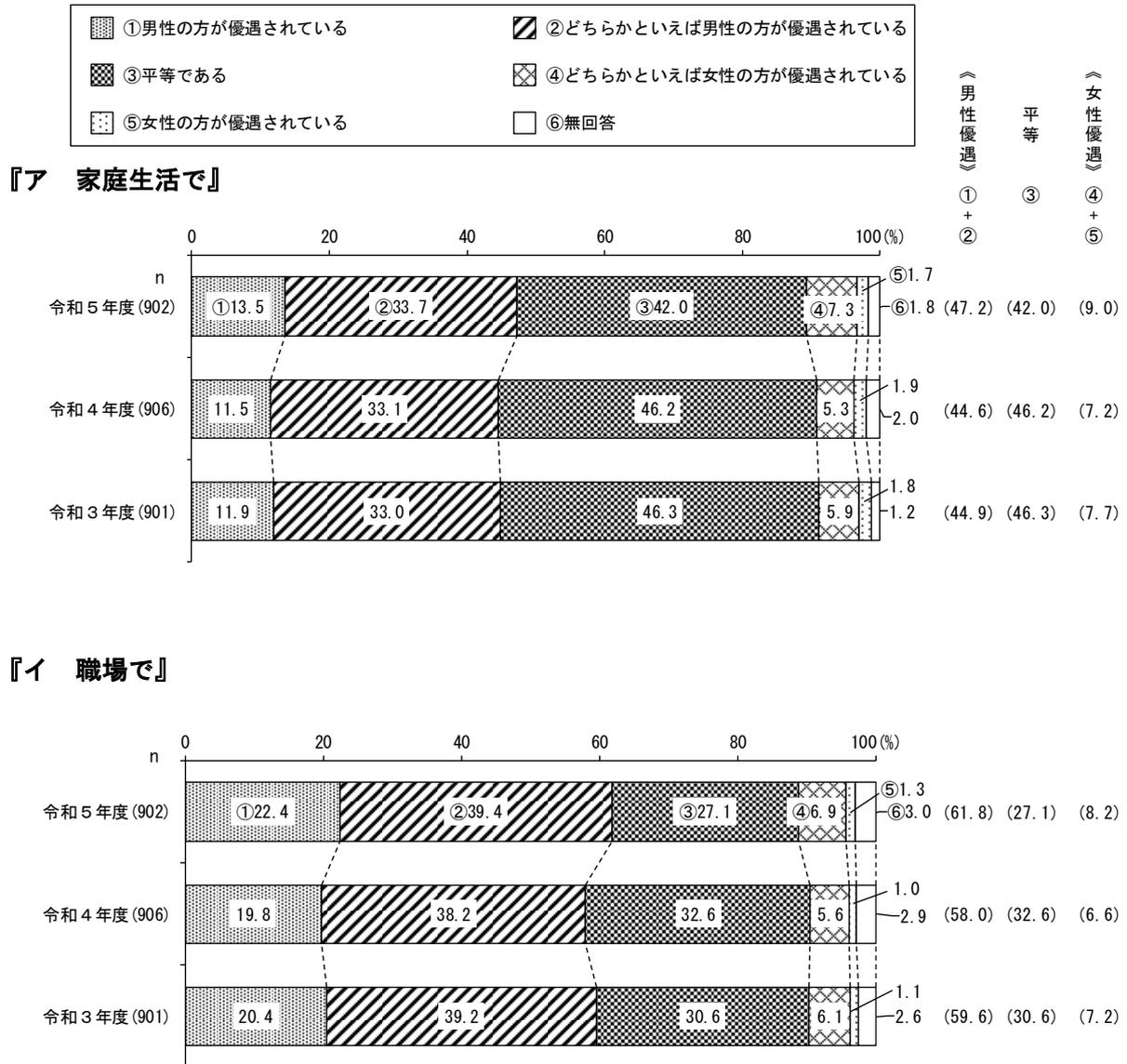


『社会全体として』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（86.5%）が8割台半ばを超え、男性（69.3%）を17.2ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は60代（84.0%）が8割台半ば近くと、全体（79.2%）を4.8ポイント上回っている。（図5-1-9）

図5-1-10 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

『ア 家庭生活上』・『イ 職場で』



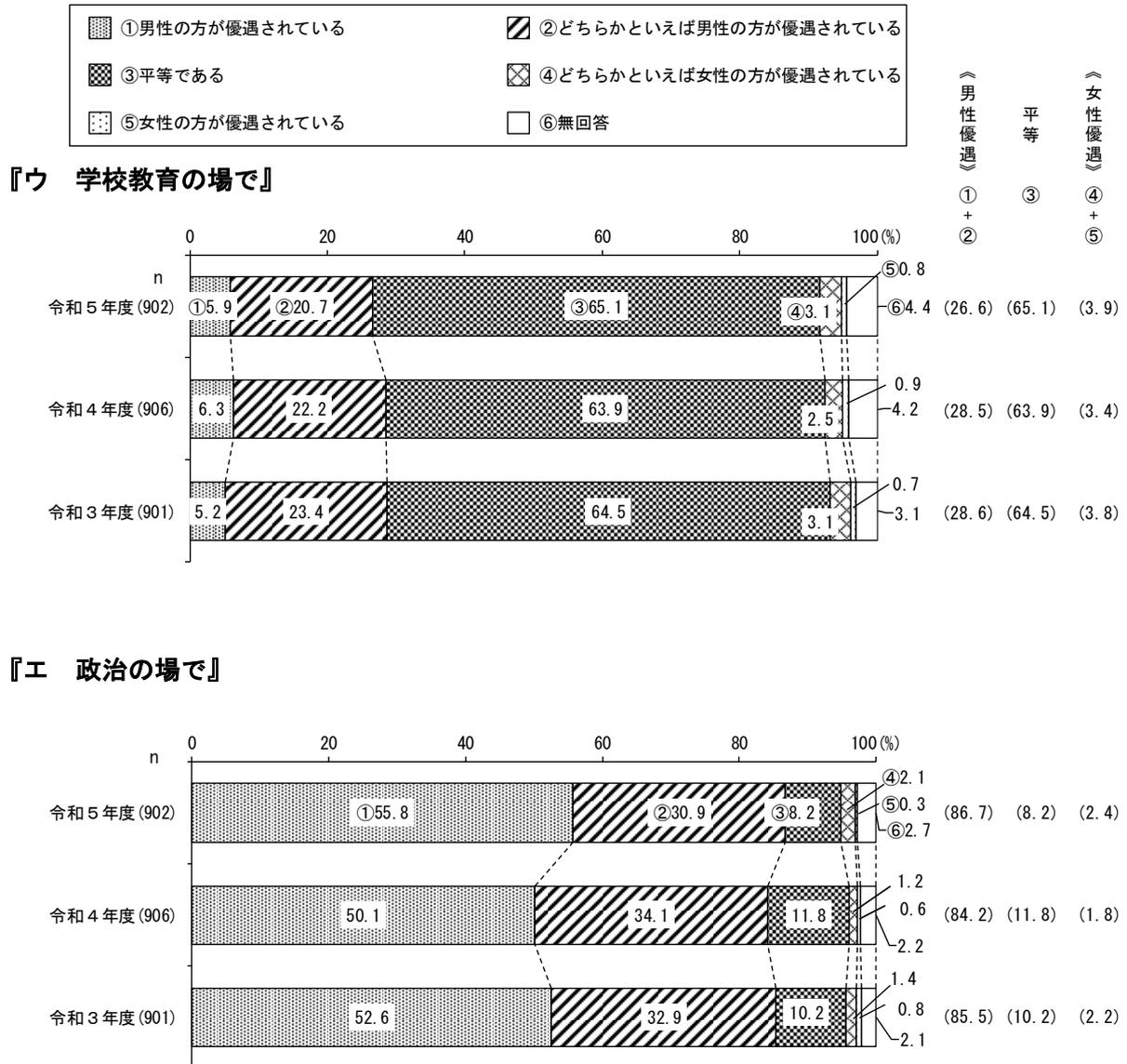
過去3年間の経年推移をみると、『家庭生活上』では「平等である」は令和3年度（46.3%）から令和5年度（42.0%）にかけて4.3ポイント低くなっている。

『職場で』では「平等である」は令和4年度（32.6%）から令和5年度（27.1%）にかけて5.5ポイント低くなっている。（図5-1-10）

Ⅱ 調査の結果（テーマ5 男女共同参画に関する意識について）

図5-1-11 さまざまな分野での男女平等意識について
（経年推移）

『ウ 学校教育の場で』・『エ 政治の場で』

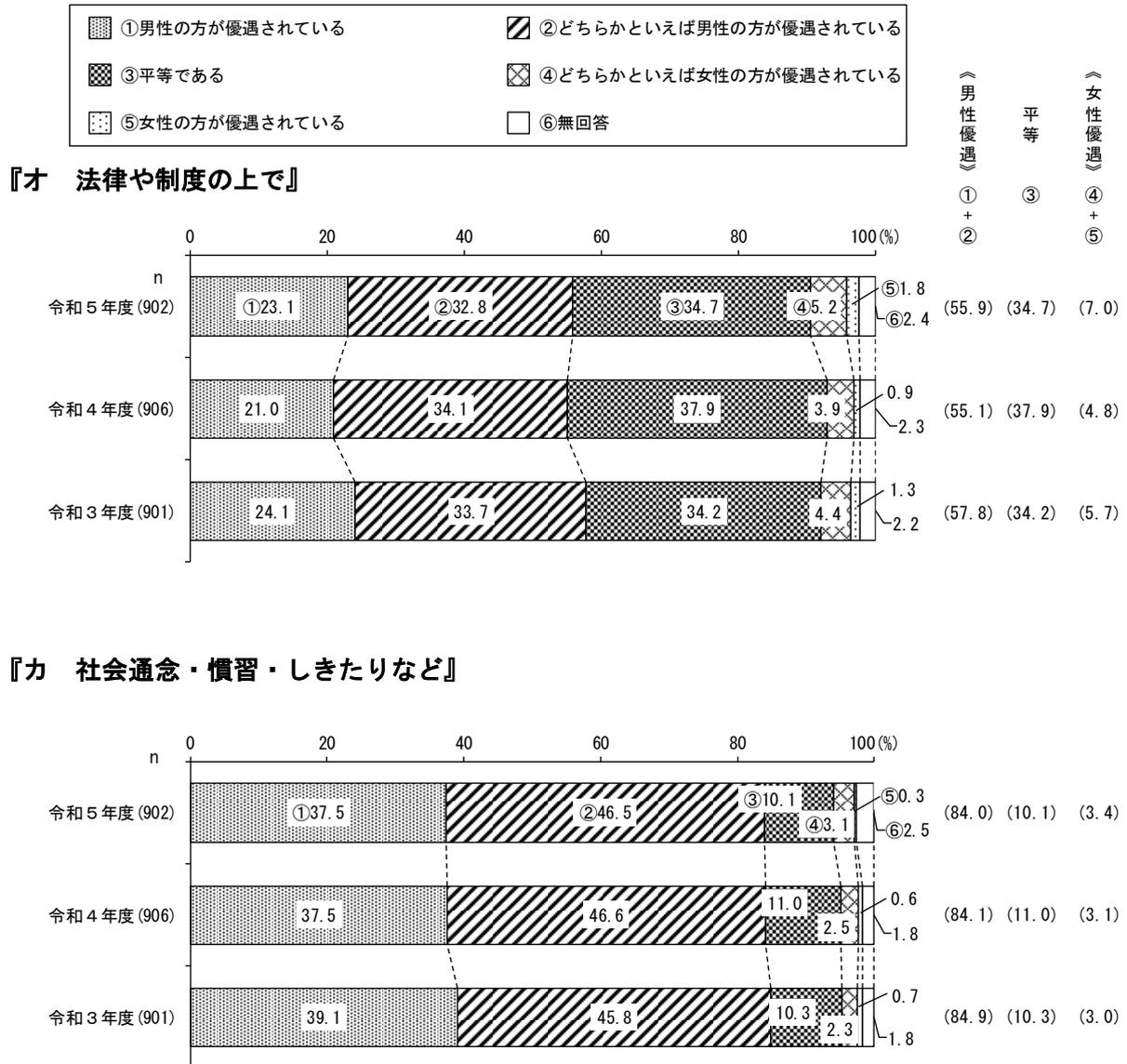


過去3年間の経年推移をみると、『学校教育の場で』では《男性優遇》は令和3年度（28.6%）から令和5年度（26.6%）にかけて2.0ポイント低くなっている。

『政治の場で』では「平等である」は令和4年度（11.8%）から令和5年度（8.2%）にかけて3.6ポイント低くなっている。（図5-1-11）

図5-1-12 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

『オ 法律や制度の上で』・『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』



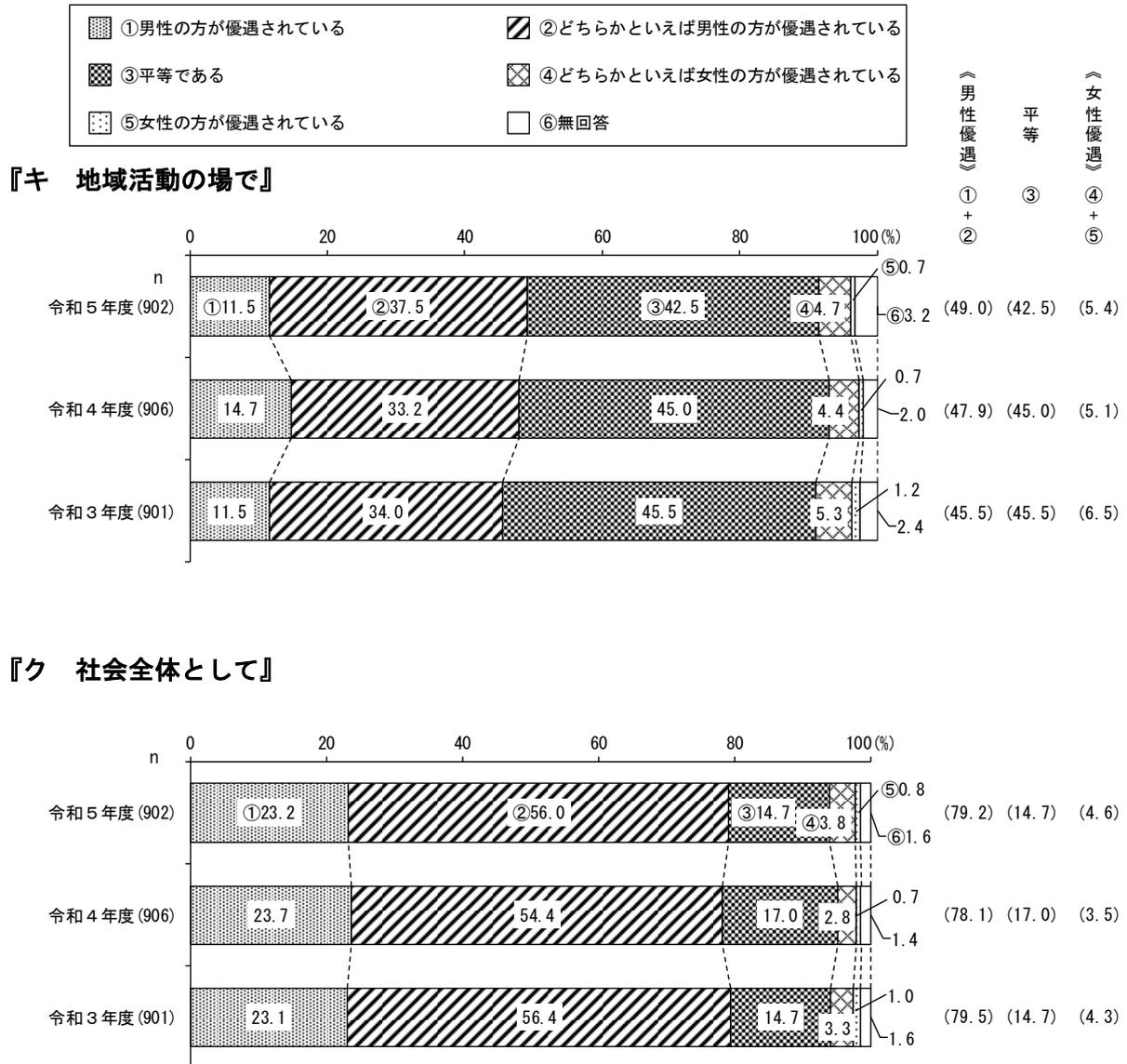
過去3年間の経年推移をみると、『法律や制度の上で』では《男性優遇》は令和3年度(57.8%)から令和5年度(55.9%)にかけて1.9ポイント低くなっている。

『社会通念・慣習・しきたりなど』では《男性優遇》は令和3年度(84.9%)から令和5年度(84.0%)にかけて0.9ポイント低くなっている。(図5-1-12)

Ⅱ 調査の結果（テーマ5 男女共同参画に関する意識について）

図5-1-13 さまざまな分野での男女平等意識について
（経年推移）

『キ 地域活動の場で』・『ク 社会全体として』



過去3年間の経年推移をみると、『地域活動の場で』では《男性優遇》は令和3年度（45.5%）から令和5年度（49.0%）にかけて3.5ポイント高くなっている。

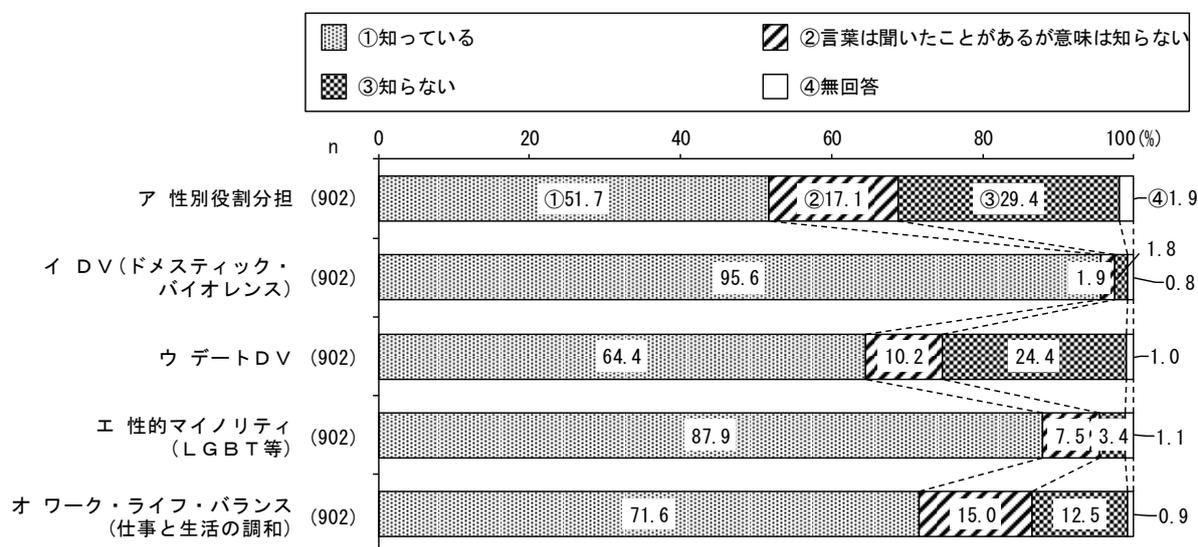
『社会全体として』では令和3年度から令和5年度にかけて、いずれの項目も大きな変化は見られなかった。（図5-1-13）

(2) 男女共同参画に関する言葉について

◎「知っている」と思う方が多いのは『DV（ドメスティック・バイオレンス）』が9割台半ば

問15 男女共同参画に関する以下の言葉について知っていますか。 (ア～オそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)		(n=902)			
		知っている	言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	知らない	無回答
ア	性別役割分担	51.7%	17.1%	29.4%	1.9%
イ	DV（ドメスティック・バイオレンス）	95.6	1.9	1.8	0.8
ウ	デートDV	64.4	10.2	24.4	1.0
エ	性的マイノリティ（LGBT等）	87.9	7.5	3.4	1.1
オ	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	71.6	15.0	12.5	0.9

図5-2 男女共同参画に関する言葉について



男女共同参画に関する言葉について、「知っている」は『DV（ドメスティック・バイオレンス）』（95.6%）が9割台半ばで最も高く、次いで『性的マイノリティ（LGBT等）』（87.9%）が8割台半ばを超えている。

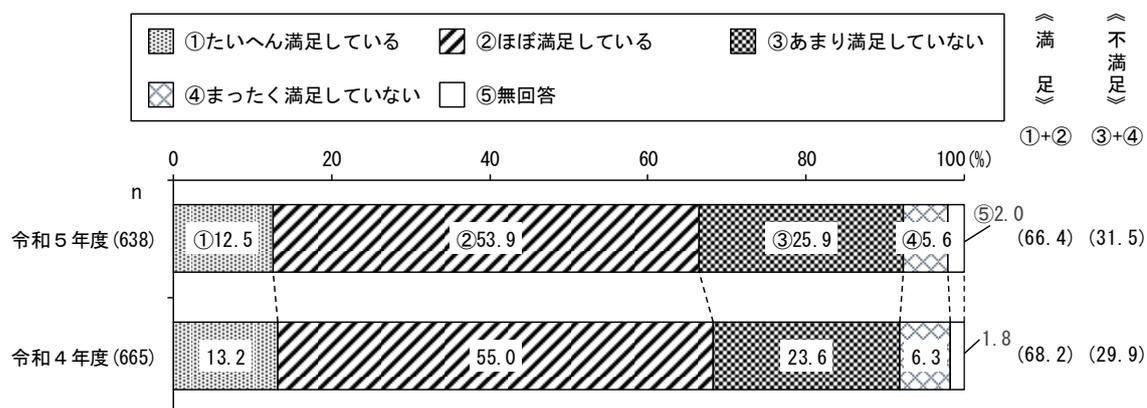
一方、「知らない」は『性別役割分担』（29.4%）が3割弱、『デートDV』（24.4%）が2割台半ば近くとなっている。（図5-2）

（3）仕事と生活のバランスの満足度

◎現在の仕事と生活のバランスに《満足》が6割台半ば超え

問16 働いているすべての方にお伺いします。		
あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。（○は1つ）		(n=638)
1	たいへん満足している	12.5%
2	ほぼ満足している	53.9
3	あまり満足していない	25.9
4	まったく満足していない	5.6
	無回答	2.0

図5-3 仕事と生活のバランスの満足度
(経年推移)



仕事と生活のバランスの満足度について、《満足》（「たいへん満足している」＋「ほぼ満足している」）（66.4%）が6割台半ばを超え、《不満足》（「あまり満足していない」＋「まったく満足していない」）（31.5%）が3割強となっている。

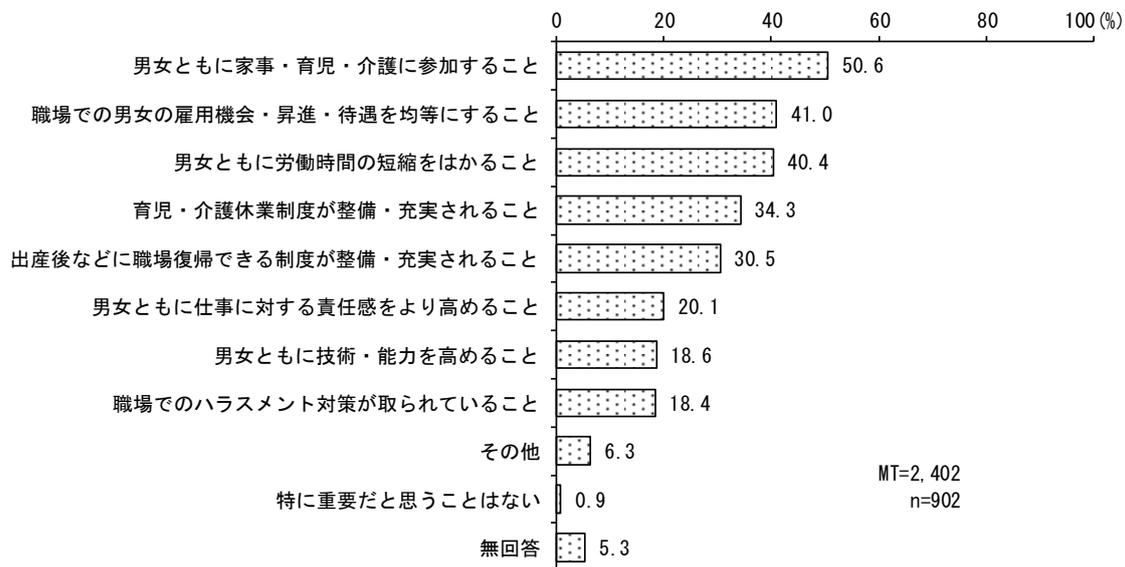
前回の調査結果（令和4年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、《満足》（66.4%）が前回（68.2%）より1.8ポイント低くなっている。（図5-3）

(4) 男女とも働きやすい環境づくりについて

◎「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」が約5割

問17 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。 (あてはまるものに3つまで○をつけてください)		(n=902)
1	男女ともに労働時間の短縮をはかること	40.4%
2	男女ともに家事・育児・介護に参加すること	50.6
3	男女ともに仕事に対する責任感をより高めること	20.1
4	男女ともに技術・能力を高めること	18.6
5	職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること	41.0
6	職場でのハラスメント対策が取られていること	18.4
7	出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること	30.5
8	育児・介護休業制度が整備・充実されること	34.3
9	その他	6.3
10	特に重要だと思うことはない	0.9
	無回答	5.3

図5-4 男女とも働きやすい環境づくりについて



男女とも働きやすい環境づくりについて、「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」(50.6%)が約5割で最も高く、次いで「職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること」(41.0%)が4割強、「男女ともに労働時間の短縮をはかること」(40.4%)が約4割と続いている。

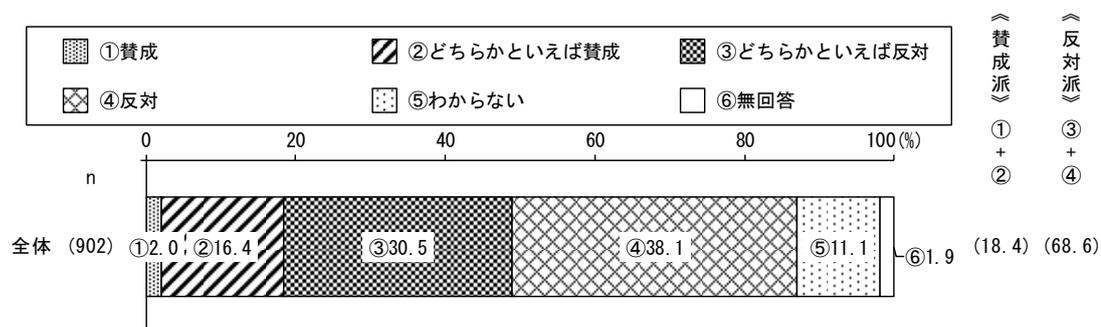
(図5-4)

（5）「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

◎《賛成派》が2割近く、《反対派》が7割近く

問18 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。（○は1つ）		(n=902)
1	賛成	2.0%
2	どちらかといえば賛成	16.4
3	どちらかといえば反対	30.5
4	反対	38.1
5	わからない	11.1
	無回答	1.9

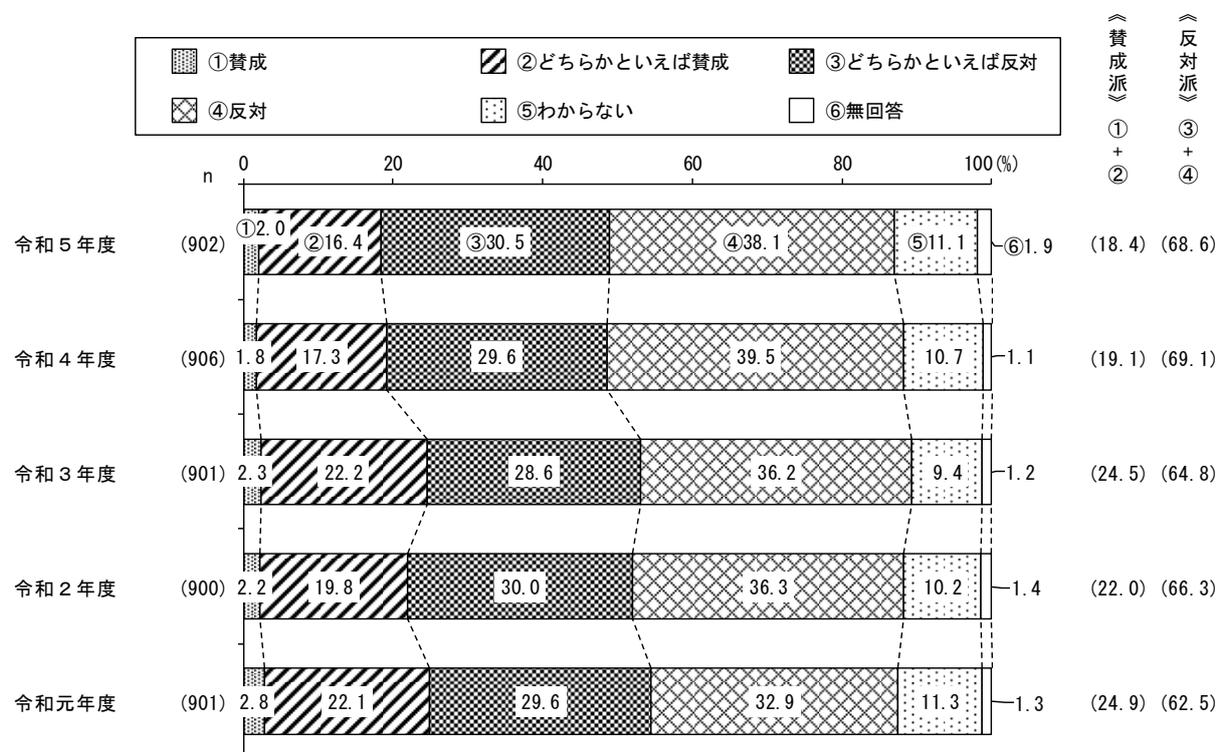
図5-5-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「反対」（38.1%）が4割近くで最も高く、次いで「どちらかといえば反対」（30.5%）が約3割となっている。

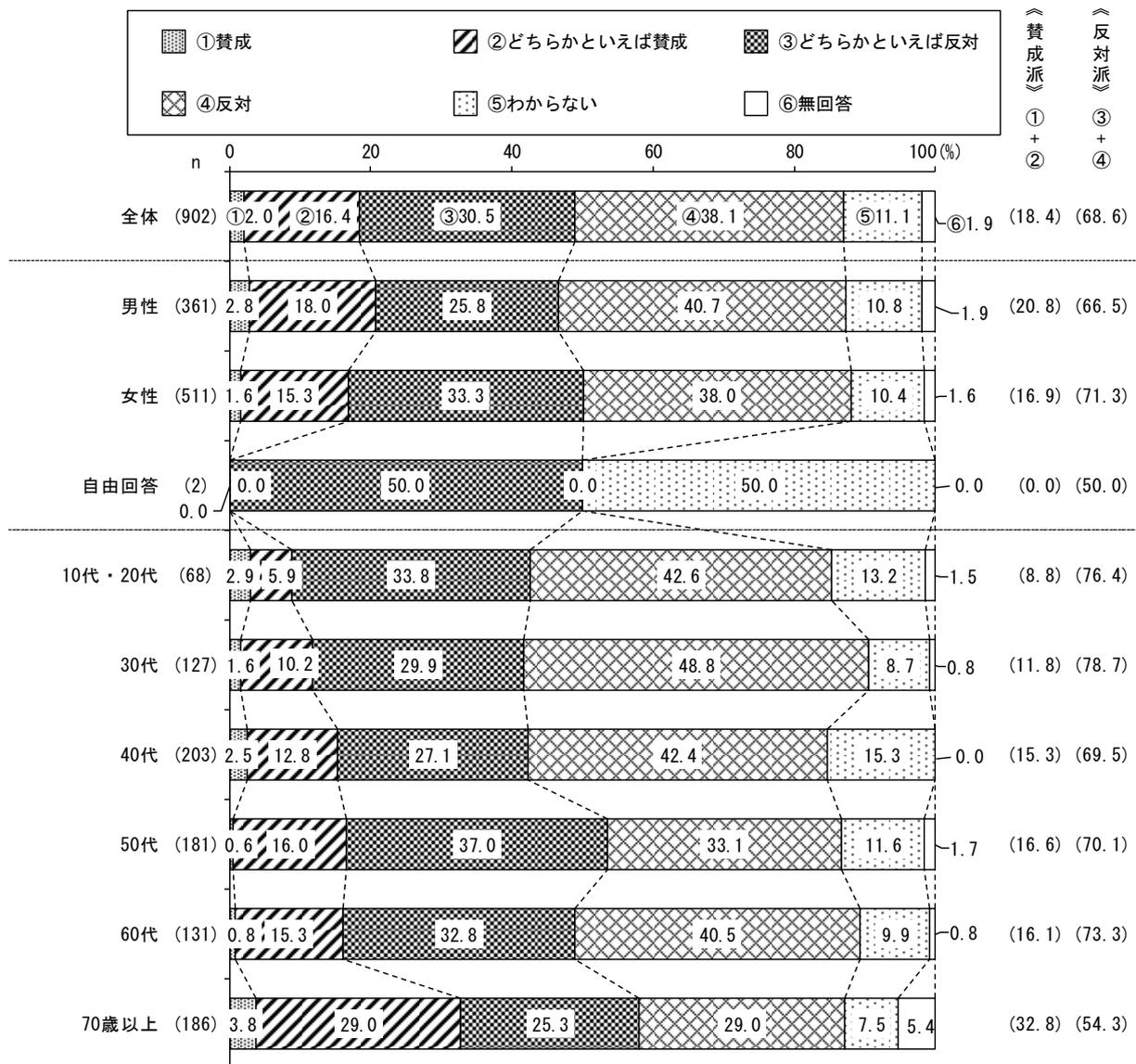
《賛成派》（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）（18.4%）が2割近く、《反対派》（「反対」＋「どちらかといえば反対」）（68.6%）が7割近くとなっている。（図5-5-1）

図5-5-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
(経年推移)



過去5年間の経年推移をみると、《賛成派》の割合が令和元年度から令和2年度にかけて低くなり、令和3年度（24.5%）は令和2年度（22.0%）から2.5ポイント高くなったものの、令和4年度以降は年々低くなり、令和5年度（18.4%）は令和3年度（24.5%）より6.1ポイント低くなっている。（図5-5-2）

図5-5-3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
（性別・年代別）



性別で見ると、《賛成派》は、男性（20.8%）が約2割と、女性（16.9%）を3.9ポイント上回っている。

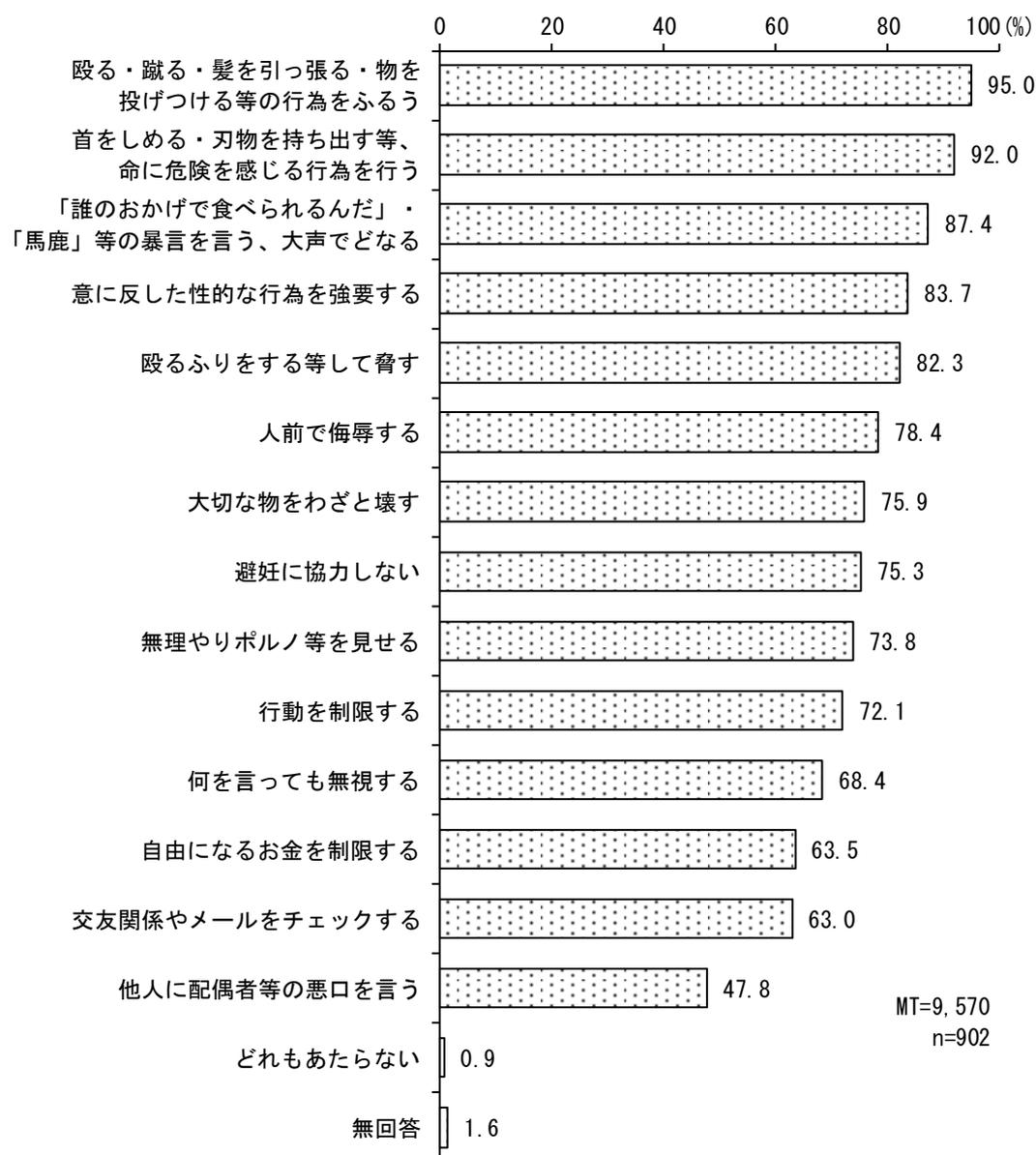
年代別で見ると、《賛成派》は70歳以上（32.8%）が3割強と、全体（18.4%）を14.4ポイント上回っている。（図5-5-3）

(6) DVだと思う行為について

◎「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」が9割台半ば

問19 ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力。以下、「DV」という）について、DVだと思う行為は次のうちどれですか。 （あてはまるものにいくつでも○をつけてください）		(n=902)
1	何を言っても無視する	68.4%
2	行動を制限する	72.1
3	交友関係やメールをチェックする	63.0
4	「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる	87.4
5	人前で侮辱する	78.4
6	他人に配偶者等の悪口を言う	47.8
7	大切な物をわざと壊す	75.9
8	殴るふりをする等して脅す	82.3
9	殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう	95.0
10	首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う	92.0
11	自由になるお金を制限する	63.5
12	意に反した性的な行為を強要する	83.7
13	無理やりポルノ等を見せる	73.8
14	避妊に協力しない	75.3
15	どれもあたらない	0.9
	無回答	1.6

図5-6-1 DVだと思う行為について

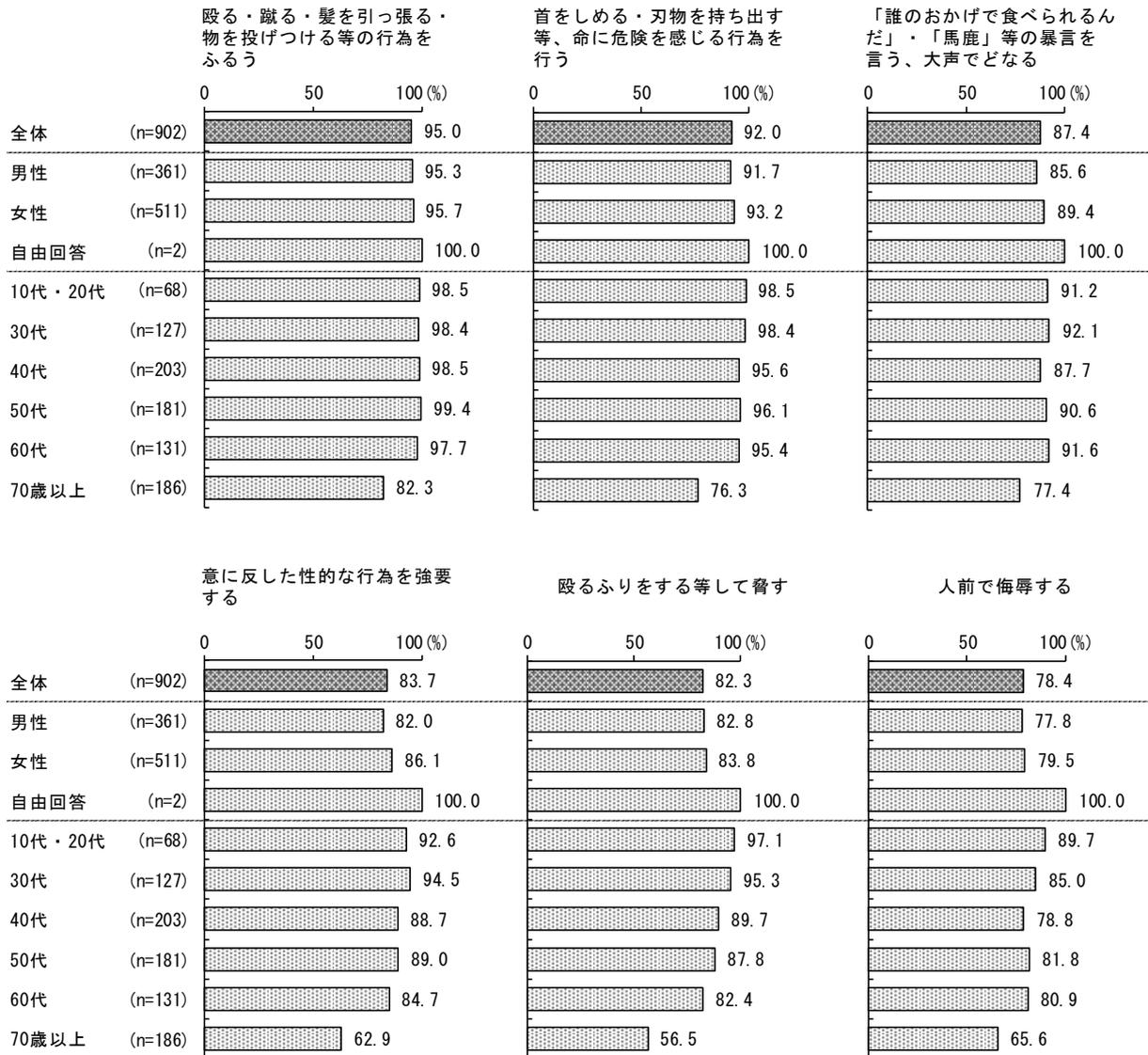


DVだと思う行為については、「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」（95.0%）が9割台半ばで最も高く、次いで「首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う」（92.0%）が9割強、「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる」（87.4%）が8割台半ばを超え、「意に反した性的な行為を強要する」（83.7%）が8割台半ば近く、「殴るふりをする等して脅す」（82.3%）が8割強と続いている。

全体で最も低い「他人に配偶者等の悪口を言う」（47.8%）は4割台半ばを超えている。

（図5-6-1）

図5-6-2 DVだと思う行為について
(性別・年代別) 上位6項目



上位6項目について、性別でみると、「意に反した性的な行為を強要する」は女性（86.1%）が8割台半ばを超え、男性（82.0%）を4.1ポイント上回っている。

年代別でみると、すべての項目で70歳以上が最も低い割合となっており、特に「殴るふりをする等して脅す」（56.5%）が5割台半ばを超え、全体（82.3%）を25.8ポイント下回っている。

(図5-6-2)

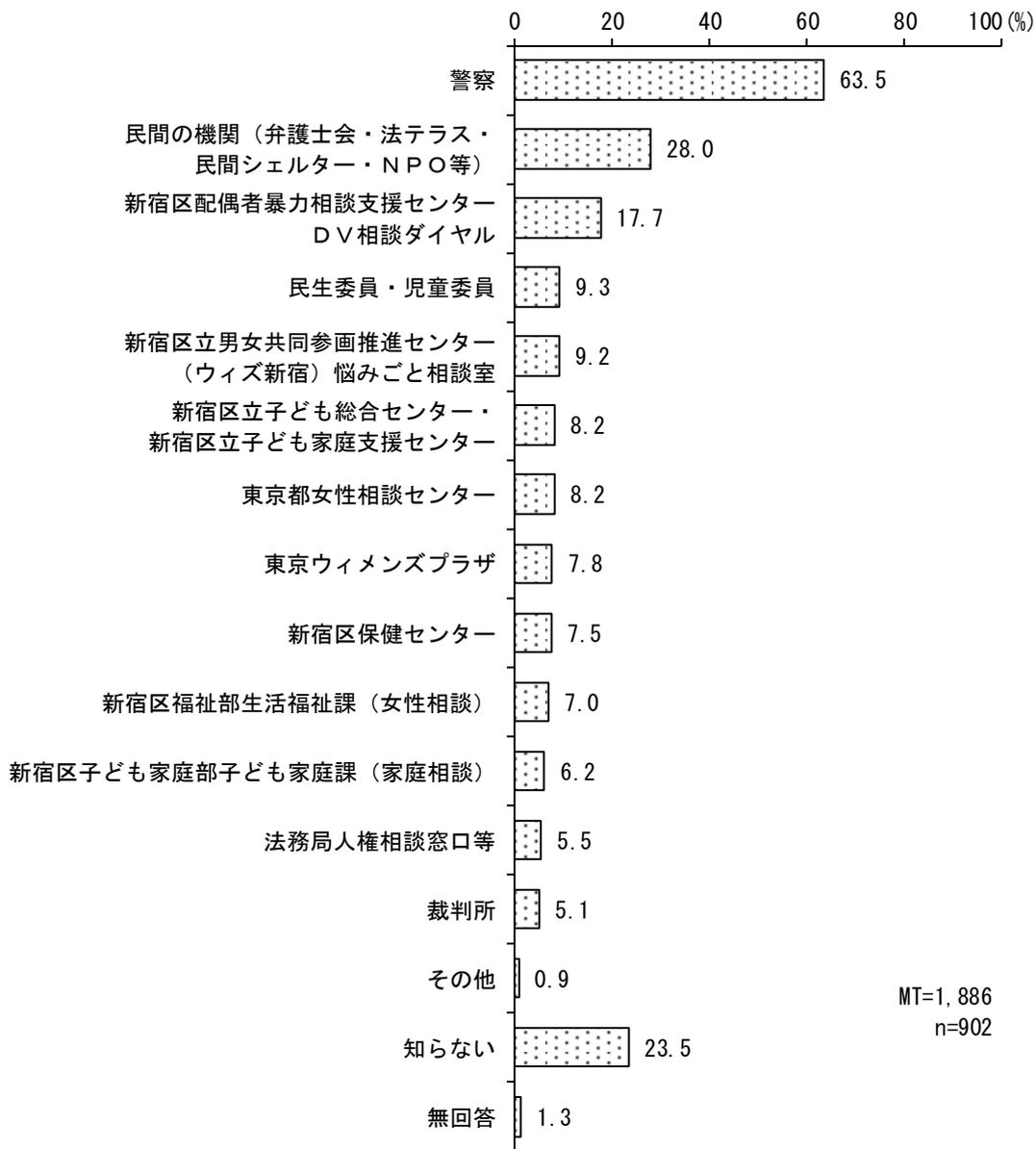
Ⅱ 調査の結果（テーマ5 男女共同参画に関する意識について）

（7）DVについての相談機関の窓口について

◎「警察」が6割台半ば近く

問20 DVについての相談機関の窓口を知っていますか。 (あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください)		(n=902)
1	新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル	17.7%
2	新宿区立男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）悩みごと相談室	9.2
3	新宿区福祉部生活福祉課（女性相談）	7.0
4	新宿区子ども家庭部子ども家庭課（家庭相談）	6.2
5	新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター	8.2
6	新宿区保健センター	7.5
7	東京都女性相談センター	8.2
8	東京ウィメンズプラザ	7.8
9	警察	63.5
10	法務局人権相談窓口等	5.5
11	裁判所	5.1
12	民間の機関（弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等）	28.0
13	民生委員・児童委員	9.3
14	その他	0.9
15	知らない	23.5
	無回答	1.3

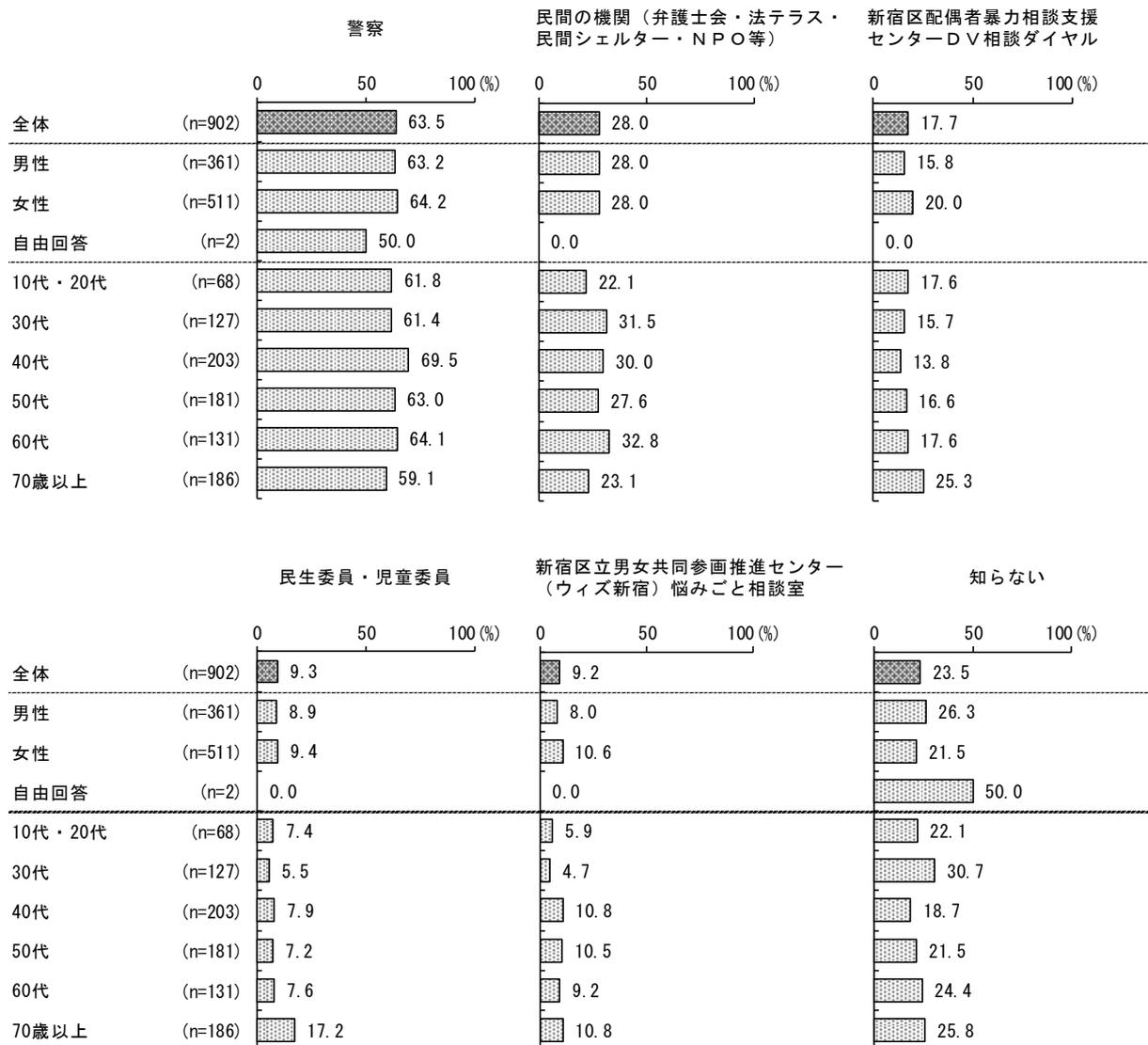
図5-7-1 DVについての相談機関の窓口について



DVについての相談機関の窓口について、「警察」（63.5%）が6割台半ば近くで最も高く、次いで「民間の機関（弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等）」（28.0%）が3割近く、「新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル」（17.7%）が1割台半ばを超えて続いている。

一方、「知らない」（23.5%）が2割台半ば近くとなっている。（図5-7-1）

図5-7-2 DVについての相談機関の窓口について
（性別・年代別）上位5項目+「知らない」



上位5項目と「知らない」について、性別でみると、「新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル」は女性（20.0%）が2割と、男性（15.8%）を4.2ポイント上回っている。「知らない」は男性（26.3%）が2割台半ばを超え、女性（21.5%）を4.8ポイント上回っている。

年代別でみると、「新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル」は70歳以上（25.3%）が2割台半ばと、全体（17.7%）を7.6ポイント上回っている。（図5-7-2）

(8) 男女共同参画を推進するために必要なことについて

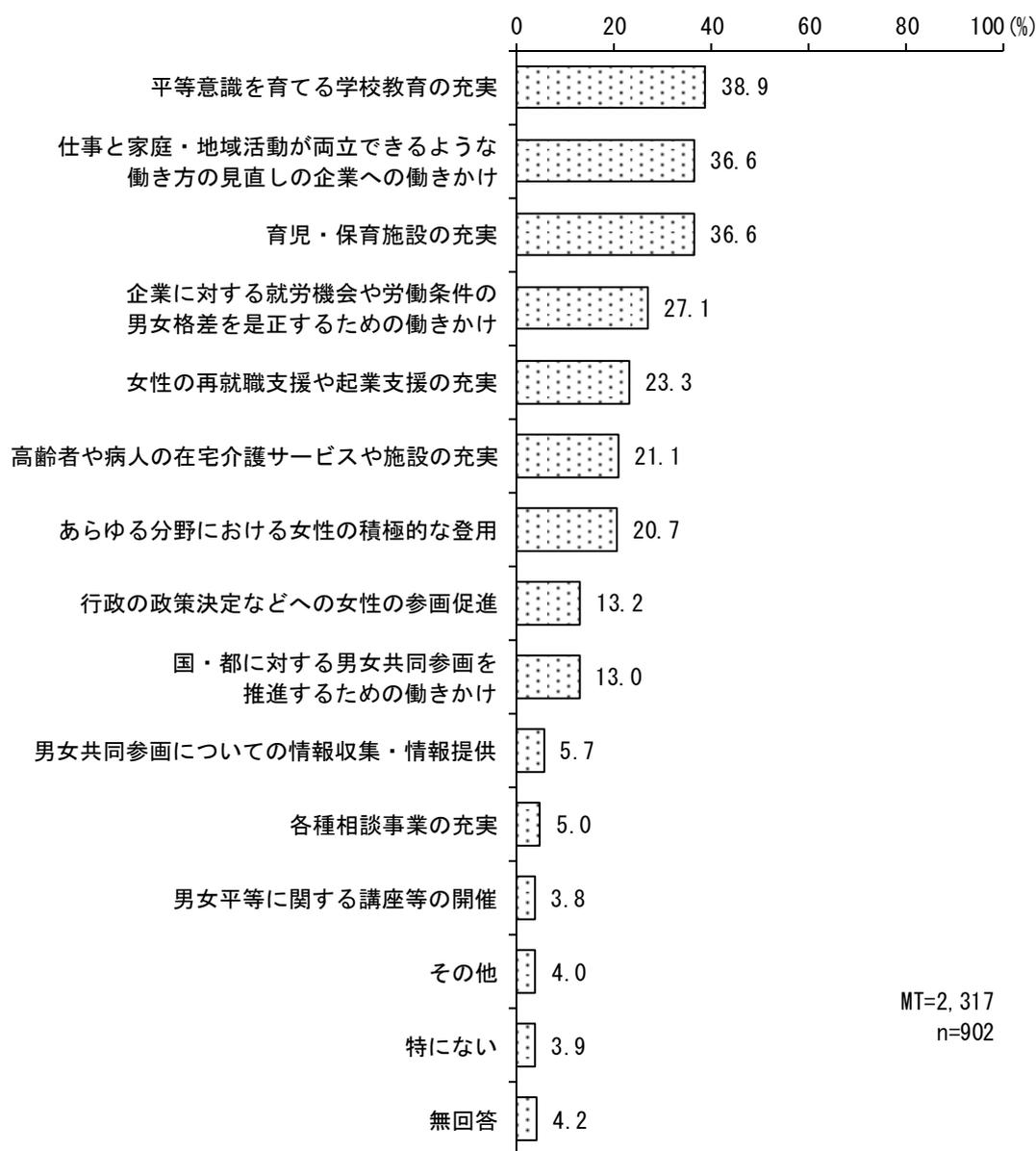
◎「平等意識を育てる学校教育の充実」が4割近く

問2 1 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

	(n=902)
1 平等意識を育てる学校教育の充実	38.9%
2 男女平等に関する講座等の開催	3.8
3 女性の再就職支援や起業支援の充実	23.3
4 企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ	27.1
5 仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ	36.6
6 育児・保育施設の充実	36.6
7 あらゆる分野における女性の積極的な登用	20.7
8 行政の政策決定などへの女性の参画促進	13.2
9 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実	21.1
10 各種相談事業の充実	5.0
11 男女共同参画についての情報収集・情報提供	5.7
12 国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ	13.0
13 その他	4.0
14 特にない	3.9
無回答	4.2

図5-8 男女共同参画を推進するために必要なことについて



男女共同参画を推進するために必要なことについて、「平等意識を育てる学校教育の充実」(38.9%)が4割近くで最も高く、次いで「仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ」(36.6%)と「育児・保育施設の充実」(36.6%)が3割台半ばを超え、「企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」(27.1%)が2割台半ばを超えて続いている。(図5-8)

Ⅲ 資料（調査票）

令和5年度 新宿区区政モニターアンケート 第1回

- テーマ1 区役所への来庁目的について
- テーマ2 広報新宿について
- テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて
- テーマ4 がんに関する情報や相談先について
- テーマ5 男女共同参画に関する意識について

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印**をつけてください。設問によって、**1つだけの場合や、あてはまるもの全てに○印をつけていただく場合**などがあります。問いの最後に“(○は1つ)”などと記載してありますので、確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答によって、次に答える設問が変わる場合があります。**
(例：問1で、「1」に○をした方におたずねします、など)
問いの前文や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、() 内に具体的な回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さず、

令和5年8月4日（金）までにご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するために必要なものです。開封後直ちに調査票から切り離しますので、調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

問合せ先 新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係
電話 03-5273-4065 (直通)
FAX 03-5272-5500



ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

テーマ1 区役所への来庁目的について

新宿区では、行政手続きについて、区民が窓口に来庁することなく、24時間申請手続きを可能とするため、電子申請（※）を推進し、利便性の向上を目指しています。

そこで、皆様がどのような目的で区役所の窓口へお越しにされているのか、どのような手続きで電子申請をご利用したいのかを把握することで、今後、電子申請を推進していくうえでの参考にしたいと考えています。

（※）電子申請とは、現在紙で行っている申請や届出などの行政手続を、インターネットを利用してスマートフォンやパソコンを使って行えるようにするものです。

問1 あなたは、過去1年以内に、区役所や区の施設の窓口に出かけたことがありましたか。

（○は1つ）

1 ある

→ 問1-1へ

2 ない

問1-1 問1で、「1 ある」に○をした方にお伺いします。

どのような用件で出かけましたか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

1 証明書等の交付

2 各種手続き

3 相談

4 区の施設の利用

5 会議や講座等、イベントへの出席・参加

6 その他（

）

問2 申請や届出などの行政手続について、電子申請を利用したことはありますか。

（○は1つ）

1 ある

→ 問2-1へ

2 電子申請を利用できることは知っているが、利用したことはない

3 電子申請を利用できることを初めて知った（利用したことがない）

問2-1 問2で、「1 ある」に○をした方にお伺いします。

どのような行政手続で電子申請を利用しましたか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- 1 証明書等の交付
- 2 各種申込・届出手続
- 3 相談の事前予約
- 4 区の施設の利用申請
- 5 会議や講座等、イベントへの参加申込
- 6 その他 ()

問3 あなたは、どのような分野の行政手続で電子申請の導入を望みますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- 1 住民記録関係
- 2 戸籍関係
- 3 国民健康保険関係
- 4 介護保険関係
- 5 後期高齢者医療保険関係
- 6 国民年金関係
- 7 税金関係
- 8 予防接種・各種健診
- 9 高齢者への支援関係
- 10 障害者への支援関係
- 11 母子手帳、妊婦健診
- 12 保育園・子ども園関係
- 13 児童手当、子ども医療証関係
- 14 放課後の子どもの居場所関係 (児童館、学童保育、放課後子どもひろば等)
- 15 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校関係
- 16 住宅関係
- 17 防災・防犯・地域安全対策関係
- 18 道路・交通対策関係
- 19 ごみの排出関係
- 20 各施設の利用関係 (地域センター、スポーツ施設、保養所等)
- 21 その他 ()
- 22 特にない

テーマ2 広報新宿について

新宿区では、区内外の皆さんに広く区政情報をお伝えするため、区の広報紙「広報新宿」を制作・発行しています。今後、より一層多くの人に手に取っていただける広報紙を目指し、皆様のご意見を伺います。

※広報新宿については、同封の資料「広報新宿7月5日号」と、同封資料1・2をご覧ください。

問4 広報新宿は、どのような点を改善したらより読みやすくなると思いますか（現在の広報新宿については同封資料の「広報新宿7月5日号」を参照）。

（あてはまるものいくつかでも○をつけてください）

1	よりわかりやすい見出しを付けるなど、読みたい記事を見つけやすくする
2	記事の配置を変える
3	わかりやすい文章にする
4	文字量を減らす
5	写真の数を増やしたり、より大きく写真を使う
6	イラストの数を増やしたり、より大きくイラストを使う
7	紙面に使う色を多くする
8	紙面に使う色を減らす
9	その他（ <input type="text"/> ）

問5 広報新宿の表紙面についてお聞きします。広報新宿がよりたくさんの方の目に留まり、多くの方の手にとってもらうためには、どのような表紙面にしたらよいと思いますか。

（○は1つ）

1	写真・イラストを中心に区からのお知らせを説明する表紙面（同封資料1を参照）
2	文字を中心に区からのお知らせを説明する表紙面（同封資料2を参照）
3	その他（ <input type="text"/> ）

問6 広報新宿の表紙面以外の紙面（中面・2～7ページ）についてお聞きします。フルカラーと単色どちらが読みやすいと思いますか。（○は1つ）

1	フルカラー
2	単色

テーマ3 ごみの減量とリサイクルについて

新宿区では、「環境への負荷を少なくし、未来の環境を創るまち」の実現に向け、資源循環型社会の構築を目指しています。

ごみの発生抑制（リデュース：Reduce）、再使用（リユース：Reuse）、再生利用（リサイクル：Recycle）による「3R活動」の推進が重要になり、ごみとして処分する場合も、適正に分別する必要があります。

3R活動や食品ロス（※）の削減、資源・ごみの分別状況などをおたずねし、今後の普及啓発活動の向上に役立てていきたいと思ひます。

（※）食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことで、例えば、消費期限・賞味期限切れの食品や食べ残し、調理の際に過剰に除去した食べられる部分などを指します。

問7 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

【リデュース】	1 必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する 2 買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする 3 食品ロスを出さないような取組を行っている 4 使い捨てになるものは、なるべく購入しない
【リユース】	5 詰め替え用商品を買う 6 リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する 7 リース・レンタルを活用する 8 修理、リフォームして使う
【リサイクル】	9 ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す 10 トイレtpーパーなどは、再生品を選んで購入する
	11 その他（ ） 12 特にしていない

問8 「食品ロス削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。

(ア～ケそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

	すでに取組んでいる	現在取組んでいないが、今後取組みたい	現在取組んでおらず、今後取組む予定はない
ア 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する	1	2	3
イ 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する	1	2	3
ウ 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する	1	2	3
エ 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする	1	2	3
オ 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす	1	2	3
カ 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する	1	2	3
キ 外出時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ	1	2	3
ク フードドライブ（※1）として食品を提供する	1	2	3
ケ フードシェアリングサービス（※2）を活用する	1	2	3

（※1）フードドライブとは、家庭等での未利用の食品（賞味期限内であるなど一定の条件があります）を回収し、食品を必要とする施設や家庭に配布することです。

（※2）フードシェアリングサービスとは、そのままでは廃棄されてしまう食品と購入希望者のマッチングを行う、スマートフォンアプリ等でのサービスのことです。

問9 「プラスチック使用削減やプラスチックごみ削減に向けた取組」について、あなたの状況を教えてください。

(ア～カそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

	すでに取り組んでいる	現在取り組んでいないが、今後取り組みたい	現在取り組んでおらず、今後取り組み予定はない
ア マイバッグを持参するなど、できる限りレジ袋を受け取らない	1	2	3
イ マイボトルを持参するなど、使い捨ての飲料容器（ペットボトル等）をできる限り使用しない	1	2	3
ウ プラスチック製の食器（スプーン・フォーク等）、ストロー、おしぼり、アメニティグッズ、雨天時の傘袋等をできる限り受け取らない	1	2	3
エ 区の資源回収を利用し、容器包装プラスチック・ペットボトル等を資源として排出する	1	2	3
オ スーパーマーケット等での店頭回収を利用し、白色トレイ・ペットボトル等を資源として排出する	1	2	3
カ リサイクル材や、植物を原料としたプラスチック（バイオマプラスチック）などを使った製品を積極的に選ぶ	1	2	3

問10 新宿区では、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、容器包装プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。

（ア～ケそれぞれで、あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	燃やすごみ (週2回)	金属・陶器・ ガラスごみ (月2回)	資源 (週1回)	地域の 集団回収	販売店等による回収(※)
ア 新聞・チラシ	1	2	3	4	5
イ 雑誌・段ボール	1	2	3	4	5
ウ 雑がみ（菓子箱・包装紙等）	1	2	3	4	5
エ 容器包装プラスチック	1	2	3	—	5
オ びん	1	2	3	4	5
カ 缶	1	2	3	4	5
キ ペットボトル	1	2	3	4	5
ク スプレー缶・カセットボンベ	1	2	3	—	—
ケ 乾電池	1	2	3	—	5

(※) 販売店等による回収とは、スーパーマーケット等での缶、トレイ、ペットボトルの店頭回収のほか、新聞販売店等による新聞紙の回収、生協等による宅配時の容器回収などを含みます。

問10-1 問10の(ウ)雑がみ（菓子箱・包装紙等）で、「3」または「4」に○をした方にお伺いします。

雑がみのうち、資源（古紙）の日または地域の集団回収に出しているのはどれですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

- | |
|--|
| 1 菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など
2 包装紙、紙袋など
3 はがき、封筒（窓空のビニール等を取る）など
4 ノート、コピー用紙、カレンダーなど
5 トイレットペーパーの芯（つぶす、または開く）
6 名刺、レシート（感熱紙でないもの）
7 その他（)
8 特にない |
|--|

テーマ4 がんに関する情報や相談先について

がんは二人に一人がかかる身近な病気です。たとえがんになっても、正しい知識を持って上手に向き合うことで、必要な治療や支援を受けながら自分らしく生活していくことができるようになってきています。皆様からがんに関する情報や相談先についての意識や実情をおたずねし、今後の取組の参考にしていきたいと考えています。

問11 あなたはがんと診断されたら、ご自身のがんの治療法や病院について、どこで情報を入手しますか。

(あてはまるものはいくつでも○をつけてください)

- 1 がん相談支援センター（がん診療連携拠点病院の相談窓口）
- 2 病院・診療所の医師・看護師や1以外の相談窓口
- 3 保健所・保健センターの窓口
- 4 図書館
- 5 新聞・雑誌・書籍
- 6 テレビ・ラジオ
- 7 国立がん研究センターのウェブサイト「がん情報サービス」
- 8 インターネット
- 9 家族・友人・知人
- 10 その他（）
- 11 情報を入手しようと思わない
- 12 わからない

問12 がん患者やその家族等をサポートするために、あなたはどのような情報が必要だと思いますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- 1 がんの診断について
- 2 がんの治療について
- 3 症状・副作用・後遺症について
- 4 医療機関の紹介・転院について
- 5 在宅医療について
- 6 ホスピス・緩和ケアについて
- 7 食事・服薬・入浴・運動・外出などについて
- 8 介護・看護・養育について
- 9 医療費・生活費・社会保障制度について
- 10 不安・精神的苦痛について
- 11 医療者との関係・コミュニケーションについて
- 12 患者会・家族会について
- 13 特に必要な情報はない
- 14 わからない

問13 新宿区内には、がん患者とその家族等が住み慣れた地域で安心して療養生活を送ることができるよう、相談窓口が開設されています。がんになった時に在宅で治療を受けながら生活をしていく際の相談先をご存知ですか。

(知っているものにいくつでも○をつけてください)

- 1 病院の相談窓口 (がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センター)
- 2 在宅医療相談窓口
- 3 がん療養相談窓口
- 4 その他 ()
- 5 知らない

テーマ5 男女共同参画に関する意識について

男女共同参画とは、男女が社会の対等な構成員として性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、責任を分かち合いながら、ともにあらゆる分野に参画することをいいます。

皆様から日常生活のなかでの男女共同参画に関する意識や実情をおたずねし、今後の取組の参考とさせていただきます。

問14 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。

(ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください)

	いる 男性の方が優遇されて	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	いる 女性の方が優遇されて
ア 家庭生活で	1	2	3	4	5
イ 職場で	1	2	3	4	5
ウ 学校教育の場で	1	2	3	4	5
エ 政治の場で	1	2	3	4	5
オ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
カ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
キ 地域活動の場で	1	2	3	4	5
ク 社会全体として	1	2	3	4	5

問15 男女共同参画に関する以下の言葉について知っていますか。

(ア～オそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

	知っている	言葉は聞いたこと があるが意味は知 らない	知らない
ア 性別役割分担 ※性別によって男女で固定的な役割を分担すること	1	2	3
イ DV (ドメスティック・バイオレンス) ※配偶者やパートナーからの暴力	1	2	3
ウ デートDV ※恋人など親密な関係にある相手からの暴力	1	2	3
エ 性的マイノリティ (LGBT等)	1	2	3
オ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3

問16 働いているすべての方にお伺いします。

あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。(Oは1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 たいへん満足している | 3 あまり満足していない |
| 2 ほぼ満足している | 4 まったく満足していない |

問17 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

(あてはまるものに3つまでOをつけてください)

- | |
|------------------------------|
| 1 男女ともに労働時間の短縮をはかること |
| 2 男女ともに家事・育児・介護に参加すること |
| 3 男女ともに仕事に対する責任感をより高めること |
| 4 男女ともに技術・能力を高めること |
| 5 職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にする |
| 6 職場でのハラスメント対策が取られていること |
| 7 出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること |
| 8 育児・介護休業制度が整備・充実されること |
| 9 その他 () |
| 10 特に重要だと思うことはない |

問18 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。(Oは1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 |
| | 5 わからない |

問19 ドメスティック・バイオレンス(配偶者等からの暴力。以下、「DV」という)について、DVだと思う行為は次のうちどれですか。

(あてはまるものにいくつでもOをつけてください)

- | |
|-------------------------------------|
| 1 何を言っても無視する |
| 2 行動を制限する |
| 3 交友関係やメールをチェックする |
| 4 「誰のおかげで食べられるんだ」「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる |
| 5 人前で侮辱する |
| 6 他人に配偶者等の悪口を言う |
| 7 大切な物をわざと壊す |
| 8 殴るふりをする等して脅す |
| 9 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう |
| 10 首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う |
| 11 自由になるお金を制限する |
| 12 意に反した性的な行為を強要する |
| 13 無理やりポルノ等を見せる |
| 14 避妊に協力しない |
| 15 どれもあたらない |

問20 DVについての相談機関の窓口を知っていますか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)

- 1 新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル
- 2 新宿区立男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）悩みごと相談室
- 3 新宿区福祉部生活福祉課（女性相談）
- 4 新宿区子ども家庭部子ども家庭課（家庭相談）
- 5 新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター
- 6 新宿区保健センター
- 7 東京都女性相談センター
- 8 東京ウィメンズプラザ
- 9 警察
- 10 法務局人権相談窓口等
- 11 裁判所
- 12 民間の機関（弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等）
- 13 民生委員・児童委員
- 14 その他（)
- 15 知らない

問21 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- 1 平等意識を育てる学校教育の充実
- 2 男女平等に関する講座等の開催
- 3 女性の再就職支援や起業支援の充実
- 4 企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ
- 5 仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ
- 6 育児・保育施設の充実
- 7 あらゆる分野における女性の積極的な登用
- 8 行政の政策決定などへの女性の参画促進
- 9 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実
- 10 各種相談事業の充実
- 11 男女共同参画についての情報収集・情報提供
- 12 国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ
- 13 その他（)
- 14 特になし

—— 引き続き、回答者の属性のご記入をお願いします ——

※調査結果を統計処理する際に必要ですので、次ページ以降の回答者の属性もご記入ください。

※調査票についている「整理票」は、ご協力のお礼をお送りするために必要ですので、取り外さずにそのままご返送ください。区に到着後、整理票は調査票から取り外して保管しますので、調査票から個人が特定されることはございません。

回答者の属性

問ア あなたのお住まいの地域（所管する特別出張所の地域）をお選びください。（○は1つ）

※あなたの地域は、宛名紙の下部枠内に記載されています。

- | | |
|-------|-----------|
| 1 四谷 | 6 戸塚 |
| 2 簗笥町 | 7 落合第一 |
| 3 榎町 | 8 落合第二 |
| 4 若松町 | 9 柏木 |
| 5 大久保 | 10 角筈・区役所 |

問イ あなたの性別をお選びください。（○は1つ）

- | | | |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 () |
|------|------|-------|

問ウ あなたの年齢（満年齢）を、次の中からお選びください。（○は1つ）

- | | |
|----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 8 50～54歳 |
| 2 20～24歳 | 9 55～59歳 |
| 3 25～29歳 | 10 60～64歳 |
| 4 30～34歳 | 11 65～69歳 |
| 5 35～39歳 | 12 70～74歳 |
| 6 40～44歳 | 13 75～79歳 |
| 7 45～49歳 | 14 80歳以上 |

問エ あなたのご職業を、次の中からお選びください。（○は1つ）

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1 会社員・団体職員 | → 問エー1へ |
| 2 会社役員・団体役員 | |
| 3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など | |
| 4 自営業、自由業（開業医、弁護士、司法書士なども含む） | |
| 5 学生 | |
| 6 専業主婦・主夫 | |
| 7 無職 | |
| 8 その他 () | |

問エー1 問エで、「1」～「5」に○をした方にお伺いします。現在のあなたの職場・学校はどこにありますか。（○は1つ）

- | | |
|--------|--------|
| 1 新宿区内 | 2 新宿区外 |
|--------|--------|

問オ 現在、あなたは誰かと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

<ol style="list-style-type: none">1 子2 妻または夫3 親4 祖父母5 孫6 兄弟姉妹7 その他 ()8 ひとり暮らし	1～7の方は、 → 問オ-1～問オ-2へ
---	-------------------------

問オ-1 問オで、「1」～「7」に○をした方にお伺いします。同居している人は、あなたを除いて全員で何人ですか。

(【 】の中に人数を記入してください。)

同居している人は、あなた+【 】人

問オ-2 問オで、「1 子」に○をした方にお伺いします。同居している子の就学状況は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

1 一番上の子が小学校入学前	3 一番上の子が高・大学生
2 一番上の子が小・中学生	4 一番上の子が学校を卒業

問カ あなたは新宿区に住んで何年になりますか。(○は1つ)

1 1年未満	5 10年以上20年未満
2 1年以上3年未満	6 20年以上30年未満
3 3年以上5年未満	7 30年以上
4 5年以上10年未満	

問キ 現在のあなたの住宅の形態は、次のうちどれですか。(〇は1つ)

一戸建て	集合住宅
1 持ち家の一戸建て	5 分譲マンション・アパート (自己所有のものを含む)
2 賃貸の一戸建て	6 賃貸マンション・アパート
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	7 賃貸のUR都市機構(旧公団) ・公社のマンション・アパート
4 その他 ()	8 賃貸の都営・区営住宅
	9 社宅・公務員官舎
	10 その他 ()

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけしますが、同封の返信用封筒にて、

整理票を取り外さず、

8月4日(金) までにご返送ください。

(返送・問合せ先)

〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1

新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係

電話 03-5273-4065 (直通)

FAX 03-5272-5500

令和5年度第1回新宿区区政モニターアンケート

令和5年11月発行

編集・発行

新宿区総合政策部区政情報課広聴係

東京都新宿区歌舞伎町1-4-1

電話(03)5273-4065(直通)

印刷物作成番号

2023-13-2106

この印刷物は、業者委託により320部印刷製本しています。その経費として、1部あたり561円(税込み)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。

